

アリテ世人ニ尊重セラル、者ナルカ如キ場合ニ在リテハ假令要求者
 カ人證ヲ以テ寄託ナルコトヲ證明スルモ或ハ裁判所ニ於テ事實ヲ認定
 セサルコトアル可シ實ニ本條ハ人證ヲ以テ舉證シ得ヘキコトヲ認メタル
 モ其證明ヲ採否スルハ當該判官ノ心證ニ依テ決定セラル可キモノナ
 レハナリ

〔六九〕然リ而シテ此急迫寄託ニ付テハ前款ニ定ムル所ノ任意寄託ノ
 規則ヲ準用スルモノトス此ヲ以テ受寄者カ其寄託物ヲ看守スルニハ
 自己ノ物件ト同一ノ注意ヲ加ヘサル可カラス又其返還ニ付キ遲滞ニ
 付セラレタルキハ普通法ニ從ヒ之レカ滅失ノ責ニ任ス可ク此等ノ點
 ニ付テハ全ク同一ナリトス蓋シ急迫寄託ニ於ケル受寄者ノ責任ヲシ
 テ任意寄託ノ受寄者ト敢テ等差ナカラシメタルハ此寄託モ亦タ寄託
 者ノ爲メタルニ相違ナキモ或ル事件ノ發生シタルニ因由スルモノナ

レハ任意寄託ニ比シテ受寄者ノ責任ヲ更ニ重カラシム可キモ決ノ輕
 減スルノ理アラサレハナリ而シテ若シ徒ラニ其責任ヲ過重ナラシメ
 ノカ寄託者ヲシテ或ハ受寄者ヲ求ムルノ困難ヲ生セシメ却テ寄託者
 ニ損失ヲ受ケシムルニ至ル可キナリ

然レモ受寄者カ故意ヲ以テ其急迫受寄物ヲ費消シタル場合ニ在テハ
 刑事上其責任ヲシテ一層重カラシムルヲ至當トス何トナレハ急迫寄
 託ノ寄託者ハ前述ノ如ク全ク受寄者ヲ選擇スルノ自由ナキヲ以テ受
 寄者ノ不誠實故意ハ之ヲ任意寄託ノ場合ニ比シテ其道德ヲ害シ社會
 ヲ禍スルヤ特大ナルモノナレハナリ即チ此場合ニ於ケル受寄者ノ
 地位ヲ以テ寄託者ノ災厄ニ罹レルヤ見テ以テ奇貨置ク可シト爲スカ
 如キハ頗ル德義ニ反シ信用ニ背キ延ヒテ社會一般ノ信用ヲ稀薄ナラ
 シメ遂ニ斯ル厄災ニ際シ寄託者ヲシテ寄託ヲ爲スニ躊躇セシムルニ

至ル可ケレハナリ故ニ我カ刑法草案第四百三十一條第二項ニ於テハ急迫寄託ノ場合ニ係ル背信罪ニ付テハ其刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ重罰ニ付スルコト爲シタリキ然ルニ現行刑法第三百九十五條ハ其加重ヲ削除シタリト雖モ然レモ裁判官ハ其刑ノ範圍内ニ於テ十分其重キニ依テ之ヲ科罰スルコトヲ得ヘキナリ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セ

シムル旅人ノ携帶シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本條ノ受寄者ハ有償合意ヨリ生スル通常

ノ義務ヲ負擔ス

〔義解〕(七〇) 旅店又ハ下宿屋ニ宿泊セントスル者ハ其主人ヲ選擇スルニ十分ノ自由ヲ有スルモノニ非ス何トナレハ凡ソ旅人カ宿泊シ滞在セントスルニハ旅店下宿屋等ニ頼ラサル可カラス然ルニ其主人ノ人物如何ヲ查察シテ而シテ後チ其携帶シタル手荷物ヲ預クルカ如キ餘裕アラサレハナリ故ニ法律ハ旅人カ携帶シタル手荷物ノ寄託ニ付テハ已ムヲ得ス寄託ヲ爲シタルモノトシ之ヲ急迫寄託ト看做シタルナリ

荷物ニシテ寄託セラレタルモノト看做サル、ニハ單ニ旅舎ノ屋内ニ持込ミタルノミヲ以テ足レリトス故ニ旅人(所有者若クハ占有者)カ現ニ其屋内ニ在ルモ又不在ナルモ敢テ問フ所ニ非ス蓋シ其荷物タル或ハ他ノ場所ニ送置セラル、コモアル可ク或ハ客室内ニ在リトスルモ

旅人ハ常ニ室内ニ於テ看守ヲ爲スモノニ非ス往々他出シテ不在ナル
コアレハナリ

又旅人ヨリ現ニ之ヲ交付シタルモハ勿論旅人自カラ室内ノ或ル場所
ニ寄置セル場合ニ在テモ亦タ寄託ヲ爲シタルモノト看做ス可キニ因
リ主人ハ之レカ看守ノ責ニ任セサル可カラス尤モ旅人ニ過失アリタ
ルモハ旅人自カラ其責ヲ甘受セサル可カラス例ヘハ持去ルニ容易ナ
ル物品ヲ諸人出入ノ場所ニ置キ之ヲ宿主ニ通知セスシテ而シテ盜取
セラレタルモ如シ又其手荷物ノ金銀珠玉等高貴ナル物件ナルモハ
其高貴物ナルコトヲ豫告シ置カサル可カラス否ラサレハ假令其物品ヲ
滅失スルモ旅人ハ通常手荷物ノ價額ニ準依スルニ非サレハ之レカ賠
償ヲ要求スルコトヲ得サルナリ

又法律ハ舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦タ其運送物ニ付テハ

之ヲ急迫ノ受寄者ト看做セリ是レ又荷主ハ運送人ヲ選擇スルニ十分
ノ自由ヲ有セサレハナリ故ニ荷主ヨリ運送品ノ交付ヲ受ケタル運送
人ハ其荷物ト共ニ荷主ノ同行スルアルモ已ニ荷物ノ交付ヲ受ケタル
以上ハ急迫寄託ヲ受ケタルモノトス

水陸運送人ニ關シテハ商法第四百九十三條以下ニ詳細ノ規定アリ予
カ著述商法正義第四卷ヲ參看ス可シ

抑本條ハ制限的ノ規定ナルヲ以テ之ヲ料理店待合茶屋珈琲店又ハ湯
屋等ニ適用スルヲ得ス何トナレハ本條第一項第二項ハ限定ノ文字ニ
シテ他ニ擴充スルコトヲ得サレハナリ即チ特別法ハ明文ノ規定ナキヤ
之レカ適用ヲ爲ス可カラサルハ一般ノ原則ナリトス
本條ニ於ケル受寄者旅店主運送人ハ受寄物ニ付キ賃料ヲ得ルモノナ
レハ旅店ノ如キハ自カラ宿料ノ中ニ包含スルモノトス其物件ニ加フ

ルノ注意ハ他ノ寄託ノ場合ニ比シ過重ナルモノニシテ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ之レカ看守ノ責ニ任セサル可カラス即チ第三項ニ云ヘル如ク有償合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔スルヲ要ス故ニ單ニ自己ノ物件ニ加フルト同一ナル注意ヲ以テ其物品ヲ取扱フモ尙ホ其責任ヲ盡シタルモノト云フヲ得サルナリ

要スルニ本條ノ場合ハ前條ノ如ク非常ノ事變ニ因リ急迫寄託ヲ爲スモノニ非スト雖モ亦タ其受寄者ヲ選擇スルニ十分ノ自由ヲ有セサルニ依リ已ムヲ得ス寄託ヲ爲シタリト看做シタルナリ然ラハ則チ自由ノ選擇ヲ以テ寄託ヲ爲シタルキハ急迫ノ寄託ニ非スシテ通常ノ寄託ナリトス其之ヲ識別スルハ其場合ト事情トニ依リ裁判官ノ判定ス可キ事實ノ問題ニ屬スルモノトス

第二節 保管

[總說]

〔七一〕 保管トハ寄託ト異ナリテ其動産タルト不動産タルトヲ問ハス總テ争訟ノ目的タル物件ヲ當事者又ハ裁判所ヨリ第三者ニ交付シ以テ之ヲ看守セシムルモノニシテ別種ノ寄託方法ナリトス

第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ争論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ

保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

〔義解〕〔七二〕 本條ハ保管ノ定義及ヒ其目的物ヲ示シ併セテ保管ニ二箇ノ區別アルコトヲ規定シタルモノナリ

保管ハ亦タ寄託ノ一種ニシテ本條ニ定義ヲ與フル所ノ如シ然リト雖モ寄託ニ在リテハ一方ヨリ他ノ一方ニ物件ヲ交付スルモ保管ニ在リ

テハ其目的物ヲ當事者ノ一方ニ交付セスシテ第三者ニ之ヲ交付スルヲ原則トス蓋シ訴訟人ノ一人ヲシテ其目的物ノ保管人ト爲サン歟或ハ之ヲ消費シ或ハ之ヲ隱匿スルノ危険ナシトセス而シテ若シ其保管者ノ無資力ナリシキハ其賠償ヲ要求スルモ實益ナシ又其物ニ依リテハ金錢ノ以テ之ヲ償フ能ハサルコトアリ到底爭訟ノ實効ナキニ至ルコトアル可ケレハナリ故ニ裁判所ニ於テ事情ヲ審察シ以テ若シ當事者ノ有資力ニシテ且正實ナル者ト思料スルキハ當事者ノ一人ヲシテ之レカ保管ヲ爲サシムルコト得ルナリ

次條未項

又寄託ノ目的物ハ動産ニ限ルト雖モ保管ノ目的物ハ其動産タルト不動産タルトヲ問ハサルナリ而シテ保管ハ不動産ニ付テモ亦タ寄託ヲ爲ス可キニ因リ或ハ目シテ代理契約ト云フヲ得ヘキカ如シト雖モ之ヲ以テ代理契約ト爲スヲ得ス蓋シ代理ノ委任ハ必スシモ物件ノ交付

ヲ要セサルモ保管ニ付テハ保管人ニ其爭訟物ノ占有ヲ移轉スルコト即チ寄託ニ主要ナル實物ノ交付ヲ爲シ勝訴者ノ爲メ之レカ占有ヲ爲サシメサル可カラサレハナリ

保管ニ二種アリ即チ第三項ニ示セル如ク合意上ノ保管、裁判上ノ保管是ナリ其爭訟ヲ爲セル當事者雙方ニ於テ目的物ヲ第三者ニ寄託スルコトヲ承諾スルキハ其保管ハ合意上ノモノニシテ眞誠ノ契約在リテ存ス若シ當事者ニ於テ承諾ヲ爲サス裁判所ニテ保管人ヲ選定シタルキハ其保管ハ裁判上ノモノニシテ此場合ノ如キハ命令的行爲ナリ契約ノ在リテ存スルニ非ス何トナレハ裁判所ノ命令ハ何人ニ對スルモノ一行爲ニシテ意思ノ合致アルコトナケレハナリ尤モ其保管ノ合意上タルト裁判上タルトヲ問ハス其効力ニ至テハ共ニ同一ニシテ二者ノ間徑庭アルコトナシ

第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ保管人ノ選定ニ付テモ當事者ノ承諾アルコトヲ要ス
 裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得ス
 裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルコトヲ得

〔義解〕(七三) 本條ハ保管人ノ選定方ニ付キ規定シタルモノニシテ法文簡明敢テ説明スルヲ要セサルナ

第二百二十四條 合意上ト裁判上トヲ問ハス保管人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ保管人ハ善良ナル管理人ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フル責ニ

任ス

〔義解〕(七四) 凡ソ他人ノ爲メニ勞務ヲ執ルヤ其有償ナルト無償ナルトニ因テ其責任ニ輕重ノ差違アルトハ上來屢々陳述シタル所ナリ本條ハ此趣旨ニ基キ保管ノ爲メ其報酬ヲ受クルト否トハ保管人ノ權利トシ而シテ保管人カ若シ其報酬ヲ受クルヤ此場合ハ即チ是レ利益ヲ得ル爲メニ勞務ヲ執ルモノニシテ眞ノ好意ニ出ツルモノト云フヲ得サレハ其保管物ニ對スル責任ハ最モ重キヲ至當トス故ニ本條ハ善良ナル管理人ノ爲ス可キ注意ヲ加フ可キトヲ命セリ蓋シ保管人タル者ハ必スシモ訴訟關係人ノ知人タルニ非ス就中關係人ノ數多ナル時ニ於テ其關係人一同ノ知人タルカ如キハ絶テアル可カラサルト故通例ハ厚意的ノ勞務ヲ執ルモノニ非ス却テ其報酬金ヲ收受スルヲ以テ保管ノ當然ナル性質ト爲スナリ故ニ保管ノ場合タル概シテ其勞務ハ有償

タリ從テ保管人ノ責任ハ其重キヲ通例トス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第一百九條ニ從ヒテ保管物ヲ賃貸スルコトヲ得然レトモ合意上ノ保管人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ賃貸スルコトヲ得ス
裁判上又ハ合意上ノ保管人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回收スル爲メ占有訴權ヲ行フコトヲ得
保管人ノ占有ハ爭訟ニ於テ確定ニ勝ヲ得タル當事者ヲ利ス

〔義解〕(七五) 本條ハ保管人ノ權限ニ付キ規定シタルモノナリ

夫レ保管人ハ勝訴者ノ確定スルマテ其係爭物ヲ占有スルモノニシテ通例其期限ノ長キモノナルカ故ニ法律ハ保管人ニ許スニ其保管物ヲ

賃貸スルノ權ヲ以テセリ即チ裁判上ノ保管人ニ在リテハ當事者ノ利害ノ爲メ財産編第一百九條ノ規定ニ從ヒ保管物ヲ賃貸スルコトヲ得ヘク其賃貸ニ因リテ果實ヲ取得スルコトヲ得ヘキナリ然レモ合意上ノ保管人ニ在リテハ當事者ヨリ特ニ代理委任ヲ受クルニ非サレハ保管物ヲ賃貸シ以テ將來ニ義務ヲ作成スルカ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ

保管人ハ其裁判上タルト合意上タルトヲ問ハス共ニ占有訴訟ヲ行用スルコトヲ得ヘクシテ保管物ノ占有ヲ保持スルカ爲メニハ占有保持ノ訴權ヲ以テシ其占有ヲ回復スルカ爲メニハ占有回復訴權ヲ以テシ以テ其訴權ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ルナリ
然リ而シテ保管人ノ占有ハ容假ノ占有ナルヲ以テ其占有訴權ヲ行使スルハ專ラ自己ノ爲メタルニ非ス實ニ他人ノ爲メニスルモノナリ蓋

シ保管物ハ最初争訟當事者ノ一方ニ於テ占有スルモノナレハ保管人ハ只々其名義ニ於テ之レカ占有ヲ爲スノミ若シ又其占有カ最初當事者ノ孰レニ屬セシヤニ付キ争訟アルトキハ保管人ハ争訟ニ付キ勝ヲ得タル當事者ノ爲メニ占有セルモノト決定ス可シ固ヨリ此場合ニ於テハ占有ノ名義ハ未確定ナルモ事實ニ於テ保管人ハ物件ノ占有者タルニ相違ナキヲ以テ苟モ占有ヲ抗撃スル者アルヤ必ス占有訴權ヲ以テ之レカ防禦ヲ爲サ、ル可ラス然ラハ則チ保管人カ占有保持若クハ占有回復ノ訴權ヲ行用スルハ是レ其權利ナルノミナラス併セテ其義務ナリト謂フ可キナリ

財産編第一部
第四章參看

第二百二十六條 保管ニ付シタル物ハ勝ヲ得タル當事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

然レトモ保管人ハ自己ノ責任ヲ免カルル爲メ當事

者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令書ヲ求ムルコトヲ得

〔義解〕(七六) 保管人ハ其保管物ニ係ル争訟事件ノ落着シテ裁判ノ確定シ勝訴者ノ確定スルヤ勝訴者ニ其保管物ヲ返還セサル可カラス蓋シ保管ハ係争物ノ當事者中何人ニ歸屬ス可キヤ其權利者ノ未定ナルカ爲メ保管ス可キモノニシテ其權利者(勝訴者)ノ確定スルヤ即チ其任務ハ已ニ濟了セルモノナレハナリ

然リ而シテ其勝訴ノ確定ニ至ラスシテ尙ホ上訴期間中ナルトキハ保管人ハ其期間ノ經過スルヲ待チ然ル後保管物ノ返還ヲ爲サ、ル可カラス然レトモ若シ保管人ニシテ其責任ヲ免カレント欲スルヤ本條第二項ノ規定ニ從ヒ當事者ノ許諾ヲ得ルカ又ハ裁判所ノ命令ヲ受ケテ之ヲ返還スルコトヲ得若シ否ラスシテ隨意ニ返還シタルトキハ彼レ其結果ニ對スル責任ヲ負擔セサル可カラサルナリ

第二百二十七條 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ保管ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ

〔義解〕(七七) 保管ハ亦タ一種ノ寄託ナルヲ以テ本節中ニ特定セサル事項ニ付キ總テ寄託ノ規則ヲ適用ス可キハ當然且明了ノコトニシテ本條ハ單ニ之ヲ指示シタルニ過キサレハ敢テ之レカ説明ヲ爲スヲ要セサルナリ

第二百二十八條 差押物ニ於ケル裁判上ノ保管及ヒ債務者カ辨濟ニ提供シテ債權者ノ受取ルコトヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

〔義解〕(七八) 本條ハ二箇ノ特別ナル事項即チ「差押物ニ於ケル裁判上ノ保管」并ニ「債權者カ辨濟ノ受諾ヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託」

ニ付テハ特別法ヲ以テ之レカ規定ヲ爲スヲ指示シタルモノナリ夫レ保管人ノ選定方法及ヒ強制管理等ニ付テハ固ヨリ詳細ナル特別ノ規定ヲ要スルモノニシテ主トシテ民事訴訟法ノ規定スル所ナリ民事訴訟法強制執又債權者カ債務者ノ辨濟ヲ拒ミタル場合ニ於テ其物件行ノ部參觀カ金錢又ハ有價證券ナルモハ即チ勅令第四百四十五號供託規則第一條ヲ以テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管ス可キト爲セリ

第十一章 代理

〔總說〕

(七九) 代理ハ財産編ノ所謂諾成合意ノ一ニシテ當事者ノ承諾ノミニ因リ成立スルモノトス本章ハ則チ其原則ヲ掲ケタルモノニシテ第二百二十九條ニ示セル仲買契約及ヒ商法ニ規定セル代務人、代辦人、仲立人、會社ノ取締役等ノ如キハ皆テ是レ一種ノ代理人タルニ外ナラザレ

ハ其名ハ代理ト稱セサルモ其實ハ代理契約タルモノ尠シトセス而シテ彼レ仲買人代務人等ハ首トシテ其各節ノ規定ニ依リ次ニ商法中ノ代理ノ規定第一編第七章第六節ニ參シ最後ニ之ヲ本法本章ニ問フ可キモノトス故ニ續釋的ニ之ヲ言ヘハ本章ハ其民事ト商事トニ論ナク總テノ代理ノ根基タル原則ニシテ各種代理ニ係ル特別ノ規定ノ源流タリ本幹タルモノト謂フ可キナリ

第一節 代理ノ性質

第二百二十九條 代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ

其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フコトヲ他ノ一方ニ委任スル契約ナリ

代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フトキハ其契約ハ仲買契約ナリ

仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

〔義解〕(八〇) 本條ハ代理ノ定義ヲ示シタルモノナリ

本條ノ定義ハ甚ダ完全明晰ニシテ學術的ニ之ヲ定義スルモ亦タ此ノ如キニ過キス故ニ能ク此法文ヲ熟讀セハ代理ノ何モノタルヤ説明ヲ俟タスシテ自カラ明カナラシク是ヲ以テ余ハ唯タ其字句ニ付キ少シク注意ヲ與フルニ止メントス

法文其名ヲ以テトハ委任者ノ名ヲ以テ事ヲ行フノ謂ニシテ此事タル代理ニ缺ク可カラサル重要ノ事ニ非スト雖モ此ノ如キハ代理ノ本色ニシテ此一點ヲ缺クヤ則チ次項ノ所謂仲買契約タルモノニシテ代理ノ變態ニ屬スルモノ故普通ノ代理ニ於テハ當然委任者ノ名ヲ以テスルヲ原則トス蓋シ代理ナルモノハ委任者カ代理人ヲシテ自己ヲ代表セシムルモノニシテ事實上ニ於テハ他人(代理人)カ其事件ヲ行ヒシモ

法理上ニ於テハ委任者カ自カラ之ヲ實行セシト異ナルコトナカラシムルニ在リ是ヲ以テ代理人ハ委任者ノ名義ヲ以テ或ル所爲ヲ爲シ其所爲ノ結果ハ皆ナ之ヲ委任者ニ歸セシメ己レハ曾テ之ニ關セザリシモノ、如クスルナリ夫レ斯ノ如ク代理人カ代理ヲ爲スヤ其委任者ノ利益ノ爲メニスルヲ必要トスルハ固ヨリ動カス可カラスト雖モ委任者ノ名ヲ以テスルハ必スシモ缺ク可カラサルノ要件タルニ非ス否ナ代理人カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ代理ヲ行フハ徃々ニ見ル所ノ事例ニシテ而シテ其代理タルニ至リテハ毫モ之ヲ害スルコトナシ是レ所謂匿名代理ナルモノニシテ代理人ハ第三者ニ對シテ事ヲ行ヒ而シテ第三者ハ其他人ノ代理ナルコトヲ知ルモ委任者ノ果シテ何人タルヤヲ知ラサルコトアリ此ノ如クシテ或ル所爲ヲ爲シ之ヨリ生セシ權利義務ハ悉ク其委任者ニ歸セシムルナリ法律ハ此匿名代理ヲ名ケテ仲買

契約ト云フ元來委任者カ其名ヲ匿シ代理人自己ノ名ヲ用非シムルハ或ハ社交上ノ關係ニ因リ或ハ商業上ノ駈引ニ因リ甚タ必要ナルモノニシテ殊ニ後者ノ理由ニ出ツルヲ多シトス故ニ仲買契約ハ民事ニ於テモ亦タ之ヲシトセサルニ依リ本條モ亦タ之ヲ認許スト雖モ然レモ其事タル元來商事上ニ多キモノナレハ仲買契約ニ關スル規定ノ如キ商法ニ之ヲ讓レリ即チ該法第一編第八章第五節ノ規定是ナリ蓋シ商業界ニ於テハ仲買ノミヲ以テ其常業ト爲ス者アリ故ニ該法ハ仲買人ト題シテ之ヲ規定セリ然レモ縱令仲買人ト爲リシニ非サルモ苟モ仲買契約ヲ爲ス者ハ亦タ該規定ヲ遵守セサル可カラサルナリ

第二百三十條 代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ受諾スルコトヲ得

〔義解〕(八一) 本條ハ默示ニテ代理ノ成立スルコトヲ認許セシモノナ

凡ソ契約ハ當事者雙方ノ意思ノ合致ニ過キサルカ故苟モ意思ノ合致アルヤ契約ハ直チニ成立スルモノトシ其合致ノ明示ナリシト默示ナリシトハ問フ所ニ非ス是レ自然ノ原則ニシテ其特ニ明示ヲ必要トスルモノハ人定法ノ規定ニ係ル例外ニシテ其場合決シテ多シトセサルナリ代理モ亦タ既ニ一ノ契約ナルヲ以テ之ヲ委任スルニモ又之ヲ受諾スルニモ此原則ニ違フコトナク共ニ默示ヲ以テスルコトヲ得ヘシ要スル所唯タ其委任又ハ受諾ノ意思ノ明確ナルニ在リ故ニ事實ニ當リ安リニ默示ニテ成立シタリト推定スルハ最モ不可ナル所ナリト雖モ然レモ法律上ニ於テ默示ニテ成立ストノ原則ハ則チ之ヲ換ユ可カラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

默示ノ代理ノ存スル一二ヲ例示セハ乙者カ甲者ノ事務管理ヲ爲スト

キ即チ甲者ノ利益ノ爲メ好意ヲ以テ甲者ノ事務ヲ管理シ而シテ甲者ハ之ヲ知得スルモ尙ホ乙者ノ所爲ヲ止メス却テ之ニ任セ置キタルトキノ如キ又婢僕カ主家ノ習慣ニ從ヒ飲食ノ買求ヲ爲スカ如キ是レ皆チ默示ノ代理ト云フ可キナリ蓋シ默示ノ代理ハ概チ些少ナル事件ニ付テ存スルモノニシテ吾人ノ注意セサル點ニ於テ常ニ履行ハレツ、アルモノナリ

第二百三十一條 代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ

默示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕(八二) 代理ハ報償ナキヲ以テ原則トシ反對ノ合意アルニ非サレハ委任者其報償ヲ與フルノ義務ナキモノトス蓋シ代理ハ交誼上ノ好意ニ出ツル所爲タルヲ以テ其本質ト爲スモノナレハ原則上之ヲ無償契約ノ一ト爲サルヲ得ス之ヲ詳言スレハ代理ハ無償トストノ原

ルコトヲ要スルモ彼等ハ悉ク代理人ナリト云フヲ得ス然ラハ則チ如何ニシテ此區別ヲ爲ス可キヤ他ナシ代理ノ主要ナル本質タル代表ノ有無ヲ問フニ在ルノミ即チ一人カ他ノ一人ヲ代表スルモノハ則チ代理ニシテ其代表ニ非サルモノハ則チ代理ニ非サルナリ夫レ此標準ヲ以テ精微ニ觀察セハ如何ナル問題モ又チ迎ヘテ解ケサルモノナシ試ミニ之ヲ示サンニ代言人ハ其委任者タル訴訟ノ當事者ヲ代表シ全ク當事者自身トシテ起訴辯論スルモノナレハ則チ代理タルモノナリ然レモ公證人又ハ執達吏カ當事者ノ囑託ヲ受ケテ書類ヲ作り又ハ強制執行ヲ爲スヤ固ヨリ其當事者ヲ代表スルニアラス唯モ公證人又ハ執達吏自己ノ職務トシテ之ヲ行フモノナレハ決シテ之ヲ代理ト云フヲ得サルナリ

此ノ如ク觀察シ來レハ其代理ナルト否トハ一見瞭然毫モ疑ヲ容レズト雖モ公證人、執達吏等ノ所爲ハ勞力ノ賃貸ニ非スト云フヲ以テ定論ト爲スニ似タリ然レモ其性質ノ如何ハ茲ニ詳論スルノ要ナクレハ之ヲ贅セス唯モ此ノ如クシテ能ク其代理ナルト否トチ區別シ以テ本條其他ノ規定ヲ適用セハ庶幾クハ誤謬ナキヲ得ン歟

第二百三十二條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ

總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理ノ行爲ノミヲ包含ス
代理カ或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルトキハ其代理ハ部理ナリ

〔義解〕(八四) 本條ハ代理ノ種類及ヒ其定義ヲ示シタルモノナリ

凡ソ代理ヲ委任スルヤ其場合一ナラス即チ廣ク諸事ヲ代理セシムルアリ又單ニ一二事ヲ代理セシムルアリ而シテ前者ハ之ヲ名ケテ總理代理ト云ヒ後者ハ之ヲ部理代理ト云フ

總理代理トハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ余カ爲メニ或ル事務ヲ代理セヨト一事、二事ヲ限定シテ代理セシムルニ非ス其一切ノ事務ヲ代理セヨト何等ノ限定ヲモ爲サスシテ代理ヲ委任セシモノナリ然レモ此ノ如キ代理ヲ委任セラレタル者ハ其何等ノ限定モ存セスシテ委任者ノ爲メ如何ナル事ニテモ爲シ能フ可キニ因リ委任者ノ名義ニテ至大ノ消費借ヲ爲シ又ハ委任者ノ不動産ヲ質入シ若クハ讓渡ス等絶對的全權ヲ以テ行爲スルニ至リ遂ニ委任者ノ危險ヲ醸スコト甚ク尠ナルニ非サル可シ翻テ委任者ノ意思ヲ推想セハ委任者ハ決シテ此ノ如ク其不動産ヲ處分スル等非常ノ全權マテヲ與ヘシモノト推

測スルヲ得ス即チ委任者ハ單ニ其資産ノ管理ニ關スル一切ノ事務ヲ委任セシモノト推測セサルヲ得サルカ故法律ハ之ヲ慮リ豫メ其限定ヲ設ケテ委任者ノ資産ノ管理行爲ノミヲ包含スト爲セリ然ラハ則チ單ニ總理代理ト云ヒ當事者間ニハ何等ノ限定ヲモ爲サ、リシニ拘ハラス法律上自カラ一定ノ限定アリテ代理人ハ管理行爲ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス即チ處分權ニ屬スル行爲其他身分上ニ關スル行爲ハ概チ特別ノ委任アルニ非サレハ決シテ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ(部理代理ノ場合)

部理代理ハ其名ノ如ク一部分ノ代理ニ係リ其範圍甚ク狭クシテ少クモ大體ノ限定ナクンハアラス即チ或ル財産ノ保存若クハ改良ニ關スル管理行爲若クハ賣買讓渡等ノ處分ノ行爲又ハ或ル義務ノ履行ニ關スル行爲等其何種タルニ論ナク一個又ハ數個ノ限定セル行爲ヲ目的

トセル代理ニシテ此場合ハ其行爲ノ指示アルヲ以テ其範圍ニ關スル
危険ハ前ノ場合ノ如ク甚タ大ナラス例ヘハ某家屋ノ修繕ヲ爲スニ付
キ代理ヲ爲サシムル場合ノ如キ其修繕ノ方法ニ付キ多少紛議ヲ生ス
ルアルモ其修繕ノミニ止マルハ既ニ明確ナルヲ以テ其代理權カ該家
屋ヲ賣渡シ又ハ抵當ト爲スコトニ及ハサルヤ何人モ爭ハサル所タル
可シ

然レモ之ヲ要スルニ本條ハ總理代理、部理代理ノ何モノタルヲ示スニ
止マリ其代理ノ權限即チ代理ノ目的タル行爲ノ範圍ニ付テハ次條ノ
規定アリテ存スレハ茲ニ之ヲ贅セス

第二百三十三條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルト

チ問ハス其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事柄
ヲ暗ニ包含ス

然レトモ元本ヲ諾約スル委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任
ヲ包含セス

元本ヲ要約スル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含
セス

訴訟ヲ爲ス委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴
訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲ス委任ヲ包含セス

和解ヲ爲ス委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ爭論ヲ
裁決セシムル委任ヲ包含セス

仲裁人ヲ選任スル委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲ
シテ其爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

〔義解〕(八五) 本條ハ代理ノ權限ヲ定ムル標準ヲ示シタルモノナリ
夫レ代理ノ權限タル其廣狹ノ劃然明確ナリ難キハ前ニ既ニ一言セル

所ノ如シ然ルニ代理人若シ其權限ヲ踰越スルヤ或ハ第三者ニ對シテ其行爲ノ無効ト爲ルアリ或ハ有効ナルモ其委任者ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免レサルコトアリ縱令此等ノ事ナシトスルモ其正當ニ爲ス可キ代理ノ區域ヲ超過スルキハ委任者ニ在テハ代理人ノ才智誠實ニ付テ與ヘタル信用ニ超過シ代理人ニ在テハ委任者ニ對シテ承諾シタル負擔勞力ニ超過シ孰レカ其迷惑ヲ感スルヲアラフ然リト雖モ亦タ其區域ヲ狹縮シ過少ノ事務ニ非サレハ之ヲ行ハサラシメテ代理人其行爲ヲ全フスル能ハスシテ委任者ハ遂ニ其代理ヲ委任セシ所以ノ意思ヲ達スル能ハサルノ憂アリ之ヲ要スルニ代理ノ區域ハ過廣ナル可カラス過狹ナル可カラス隨テ代理人ノ爲ス可キ行爲ハ過多ナル可カラス過少ナル可カラス要スル所雙方ノ意思ニ適應スル區域ヲ知得シ代理ノ施行ヲシテ能ク之ニ遵依セシムルニ在ルノミ本條ハ即チ其區

域ヲ定ムル標準ヲ與ヘ以テ他日ノ紛議ヲ防止セントスルモノニシテ總テノ場合ニ適用ス可キ標準タリトス凡ソ代理ヲ委任スルニ其行爲ニ包含ス可キ事柄ヲ一々列舉シテ毫モ遺漏ナク明示シ以テ其區域ヲ劃然明確ナラシムルコトヲ得ルモノニ非ス故ニ本條ハ其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ヲ暗ニ包含スルモノト豫定シ此標準ヲ以テ諸多ノ代理ノ區域ヲ裁斷セントセリ故ニ委任者カ或ル事項ヲ舉ケテ代理ヲ委任セシトキハ其事項ノ結果即チ必然ニ生ス可キ事柄ハ暗ニ包含セシモノトシ委任者代理人共ニ暗黙ニ之ヲ委任シ之ヲ承認セシモノト看做スナリ例ヘハ家屋修繕ノ委任ヲ受ケタル代理人ハ其職工ヲ選任シ修繕着手ノ方法ヲ選定スルノミナラス其工事ヲ檢視シ監督シ且此カ材料ヲ買得シ職工ノ賃錢ヲ支拂フ等ノコトヲ爲スヲ得ヘク又之ヲ爲サル可カラス是レ修繕ヲ

ル一事ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ナレハナリ

〔八六〕本條第二項以下ハ第一項ノ旨趣ニ因リ最モ判定シ難キ數個ノ場合ヲ擧ケテ第一項ノ適用ヲ示シ以テ代理ノ區域ニ付キ其限界ヲ明カニセシモノナリ

元本ヲ約諾スル委任即チ元本ヲ借入ル、委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任ヲ包含セス又之ヲ要約スル委任即チ貸付クル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含セス蓋シ元本ノ約諾若クハ要約ト其辨濟ヲ爲シ若クハ受クルトハ互ニ原因結果ヲ爲スモノニシテ第一項ノ所謂必然ニ生ス可キ事柄タルモノ、如シト雖モ其相去ル時間概テ長クシテ且其事ノ重大ナル全ク二事トシテ之ヲ視ル可キモノナレハ其委任ハ別個タル可キモノト爲シタルナリ

訴訟ニ付テモ亦タ代理アルト甚々多シ今マ訴訟ヲ爲スノ委任即チ原

告トシテ起訴スルノ委任又ハ被告トシテ答辯スルノ委任ト仲裁人ヲ選任シ相手方ノ請求ニ承諾シ訴訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲ス委任トハ頗ル相近似シ殊ニ訴訟ヲ爲ス權ハ尤モ廣クシテ所謂大ヲ爲ストテ得ル者ハ固ヨリ小ヲ爲ストテ得ヘシトノ主義ニ依リ其仲裁人ヲ選任スル等ノ權ハ自カラ其中ニ包含スルモノ、如シト雖モ此等ノ權利ハ皆ナ重大ナルモノニシテ決シテ訴訟權ノ附從タルモノニ非ス蓋シ此等ノ權利ノ行施ハ其訴訟人ノ意思タル相手方ニ對抗スルトト相反對スルモノニシテ寧ロ委任ノ旨趣ニ乖馳スル行爲ナルニ因リ特別ノ委任アルニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサルヤ固ヨリ明カナリ
最後ノ二項モ亦々略、同一ニシテ和解ヲ爲スコト、仲裁人ヲ選任スルコト、裁判所ヲシテ其爭論ヲ裁決セシムルコトハ各殊別ノ事ニシテ一ノ委任ハ他ノ委任ヲ包含スト云フヲ得ス即チ第一項ノ所謂必然ニ生ス

可キ事柄ニ非サルヤ勿論ナレハ其代理ノ區域ハ相及ホスノ理ナキナ
リ

第一審ノ訴訟ヲ爲スニ付テノ委任ヲ受ケタル代理人ハ控訴、上告等ノ
上訴ヲ爲シ若クハ之ニ答辯スルノ委任ヲ包含セルモノナルヤ否ヤハ
一個ノ問題ナリト雖モ之ヲ包含スト爲ス可キ場合全ク之レナシトス
ルヲ得ス唯ダ一般ニ於テハ之ヲ包含セスト論決セサル可カラサルナ
リ

第二百三十四條 代理ハ無能力者ニモ有効ニ之ヲ委

任スルコトヲ得然レトモ其代理人ハ委任者ニ對シ
テハ無能力者ノ制限アル責任ノミヲ負擔ス

〔義解〕(八七) 夫レ未成年者、禁治産者等ノ無能力者ハ自己ノ爲メニモ
或ル行爲ヲ爲ス能ハサルモノニシテ之ヲ爲スモ法律上無効タルコト

多シ既ニ自己ノ爲メニモ尙ホ或ル能力ナシトス然ラハ則チ他人ノ爲
メ或ル事ヲ行ハントスルハ殊ニ其能力ナキモノ、如シ是ニ於テ乎人
或ハ代理ヲ委任スルニハ能力者ニ限ルモノト思考セリ本條ハ即チ此
思考ヲ打破シ無能力者ニ對シテモ亦タ之ヲ委任シ得ルコトヲ明示シ
タルナリ

抑、未成年者、禁治産者等ヲ無能力者ト爲セシハ其者自身ヲ保護センカ
爲メ法律上ノ推定ニ基キタルモノナリ然ルニ委任者カ此者ニ對シ代
理ヲ委任セントスルハ是レ其者ノ能力ハ此代理ヲ爲サシムルニ付テ
十分ナリト信スルニ因ル蓋シ法律上ノ推定アルニ拘ハラズ事實上ニ
於テハ其才能智術ノ頗ル事ニ堪エ且能クスル者ナシトセス故ニ之ヲ
選拔シテ代理人ト爲スハ委任者ノ自由ニシテ法律ハ之ヲ禁止スルノ
理由アルコトナシ殊ニ法律カ無能力者ト爲セシハ自己ノ爲メニ義務

ヲ負フコト勿カラシメントスルニ出ツルモノナリ然ルニ他人ノ代理
 人トシテ行爲スルニハ他人ノ名義ヲ以テシ其行爲ノ結果タル權利義
 務ハ皆ナ其他人即チ委任者ニ歸スルモノナレハ此點ニ於テモ亦々毫
 モ差支アルコトナシ是レ本條ノ規定アル所以ナリ
 然レモ代理人ハ委任者ニ對シ責任ヲ負フモノニシテ之カ爲メニハ或
 ル義務ヲ生スルコトナシトセス此場合ニ於テ其無能力者ナルニ關セス
 普通ノ代理人ト同一ノ責任ヲ負ハシムルハ則チ法律カ無能力者ヲ保
 護セントスル本旨ニ反スルニ非スヤ故ニ普通ノ原則ニ於ケル無能力
 者ノ責任ノ制限ヲ茲ニ適用シ其制限アル責任ヲ盡スヲ以テ足レリト
 シ仍ホ法律ノ寬遇ヲ受ケシムルモノナリ

第二百三十五條 代理人ハ其管理行爲ノ全部又ハ一
 分ニ付キ他人ヲシテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得

但此ヲ明示ニテ禁止セサルトキ又ハ事情ノ性質ニ
 因リテ專ラ代理人ノミニ委任シタリト看做ス可カ
 ラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自己ノ管
 理ニ於ケル如ク其復代人ノ管理ノ責ニ任ス
 委任者カ復代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其指
 定ニ從フコト能ハサル場合ニ於テモ他人ヲ選任ス
 ルコトヲ得ス代理人カ其指定ニ從ヒ選任ヲ爲シタ
 ル場合ニ於テハ代理人ハ其復代人ノ無能又ハ不誠
 實ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ復
 代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ
 任セス

委任者ノ禁止シタルニ拘ハラス復代人ヲ選任シ又

ハ其許諾セサル人ヲ選任シタル場合ニ於テハ代理人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責ニ任ス但此復代人ノ選任ヲ爲ササレハ損害ノ生セサル可カリシトキニ限ル

〔義解〕(八八) 本條ハ代理人カ復代人ヲ選任スルノ權利及ヒ其制限ヲ規定シタルモノナリ

代理人ハ自己カ受ケタル代理ノ委任ヲ更ニ他人ニ移シ之ヲシテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得ヘシ即チ其委任セラレタル管理行爲ノ全部ニ付テモ一分ニ付テモ之ヲ代ハラシムルコトヲ得ルナリ蓋シ委任者ハ甲者ノ才能ト誠實トニ付テノ信用ヲ以テ之ニ代理ノ委任ヲ爲シタルナリ然ルニ甲者カ乙者ヲ選任シテ自己ニ代ハラシメシトキハ其選任タル亦タ甲者ノ才能ト誠實トニ出テタルコトハ委任者之ヲ信用セ

サルヲ得ス即チ代理人ニ附セシ才能ト誠實トノ信用ハ代理人カ復代人ノ選任及ヒ其復代人ノ管理行爲ノ上ニ移シ置ク可キモノタルカ故本條ハ代理人カ復代人ヲ選任スルコトヲ明許シタルナリ然レモ右ハ一般ノ原則ニシテ委任者ノ意思ノ之ニ反スルトキ即チ明示若クハ默示ニテ之ヲ禁止シタルトキハ此限ニ在ラス其明示ニテ之ヲ禁止シタル場合ハ勿論明示ナシト雖モ其事件ノ性質ニ因リテ専ラ代理人ノミニ委任シタリト看做ス可キトキ例ヘハ其事件ノ特殊専門ノ伎倆ヲ要シ而シテ他ニ之ニ堪ユル者ナキ場合ニ唯タ一人アル其専門家ニ委任シタルカ如キ妄リニ他人ヲシテ自己ニ代ハラシム可カラサルヤ明カナリ右例外ノ場合ヲ除キテハ前述ノ如ク代理人ハ復代人ヲ選任スルノ權アリト雖モ復代人ヲ選任シテ己レ其事件ヨリ遁レ去ル能ハス即チ代

理人ハ其復代人ヲ監督シ復代人カ爲ス管理行爲ノ責ニ任セサル可カラス何トナレハ復代人ハ代理人ヲ代表スルニ過キスシテ代理人ハ委任者ニ對シテハ自カラ管理ヲ爲スニ異ナラサレハナリ

〔八九〕委任者カ豫メ一人又ハ數人ノ復代人ヲ定メ代理人若シ復代人ヲ委任セントスルモ此者ヲ以テス可シト命シ置クコトアリ此場合ニ於テハ代理人ハ隨意ニ其以外ノ人ヲ選任スルコトヲ得ス必スヤ其豫定ニ從ハサル可カラス若シ此場合ニ其指定セル者旅行又ハ疾病中ニシテ之ヲ復代人ト爲ス能ハサルコトアリトスルモ代理人ハ尙ホ他人ヲ選任スルコトヲ得ス已ムコトナクハ自カラ其代理ヲ繼續スルノ外ナシ何トナレハ委任者カ或人ヲ豫定セシハ其以外ノ人ヲ排斥セシニ外ナラサレハナリ

然リ而シテ代理人果シテ其豫定ノ復代人ヲ選任セシトキハ其事委任

者ノ指定ニ出ツルヲ以テ代理人ノ責タル甚タ輕キヲ得ヘシ然レモ代理人カ自己ニ代ハラシメタルモノナルコトハ爭フ可カラサル事實ナルヲ以テ亦タ全ク責ヲ免レ得ヘキニ非ス故ニ代理人ハ復代人ノ無能又ハ不誠實ニ付テ直チニ其責ヲ負フコトヲ要セスト雖モ然レモ其事實アルニ於テハ速ニ之ヲ委任者ニ告知シ又ハ其復代人ヲ解任スルノ責アリ此責ヲ怠リ爲メニ損害ヲ委任者ニ加エタルモ代理人自カラ之ヲ賠償セサルヲ得ス蓋シ此ノ如キ無能又ハ不誠實ノ復代人ヲ指定セシハ委任者ノ過失ニシテ而シテ復代人ヲ監督スルノ責アル代理人カ其事實ニ注意シテ速ニ其處置ヲ爲サ、リシハ則チ代理人其人ノ過失ナレハナリ

〔九〇〕第一項ニ示セル如ク委任者カ復代人ヲ選任スルコトノ禁止ヲ爲シアル場合ニ之ニ背キテ復代人ヲ選任シタルモ又ハ第二項ニ示セル

如ク委任者カ豫メ復代人タル可キ者ヲ指定シアル場合ニ其他ノ者ヲ復代人トセシトキハ代理人ハ委任者ノ意思ニ反セシモノニシテ此等ノ場合ハ其責最モ重ク代理人ハ啻ニ復代人ノ最輕過失ニ付テモ其責ニ任セサル可カラサルノミナラス意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ亦々其責ヲ免レサルモノトス抑、意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ハ何人ノ所爲又ハ過失ニモ非サルヲ以テ何人モ其責ニ任スル者ナク唯々其損害ヲ受ケシ者ノ不幸トシテ寢ムノ外ナキハ法律上ノ原則ナリ然ルニ此場合ハ代理人其損害ニ付テモ其責ニ任スト爲セシハ何ソヤ他ナシ此ノ如キ損害ヲ來サシメシハ代理人其機會ヲ導キタルモノナレハナリ若シ代理人謹テ委任者ノ意思ヲ遵守シタランニハ此ノ如キ意外ノ事若クハ不可抗力ニ會フコトナク隨テ其損害ヲ被ムルニ至ラサリシナラン然ルニ之ヲ被リシハ代理人

カ此背馳ノ所爲アリシ爲メタルニ外ナラス然ラハ則チ其事ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト云フト雖、必竟代理人ノ所爲ニ淵源セルモノト云ハサル可カラス是レ此規定アル所以ナリ
夫レ然リ故ニ縱令復代人ノ選任ヲ爲サ、リシモ尙ホ此損害ヲ生ス可カリシキハ則チ其損害ハ眞ニ人爲ノ外ニ在ルモノニシテ代理人其責ヲ負フノ理ナシ第三項ノ但書アルハ即チ此カ爲メナリ之ヲ例セハ復代人カ火災ノ類燒ニ遇ヒ爲メニ管理セル委任者ノ財産ヲ燒失セシ場合ノ如キ代理人ノ家モ亦々其類燒ヲ免レスシテ代理人縱令自カラ之ヲ管理セシモ尙ホ其燒失ヲ免レサリシモノナルキハ其損害ノ原因ヲ復代人ノ選任ニ歸スルヲ得ス隨テ代理人ハ其責ヲ負ハサルナリ

第二百三十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者ハ復代人ニ對シ其管理ニ關スル訴權ヲ直

接ニ行フコトヲ得又之ニ對シ直接ニ責任ヲ負擔ス
同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理
人ノ名ヲ以テスル間接訴權トノ間ニ選擇權ヲ有ス
然レトモ直接訴權ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選
任ヲ認諾シタルモノト看做ス

〔義解〕(九一) 本條ハ前條ヲ承ケテ委任者ト復代人トノ權利關係ヲ規
定シタルモノナリ

夫レ復代人ハ委任者ヲ代表スル者ニ外ナラスト雖モ事實上之ヲ選任
セシ者ハ委任者ニ非スシテ代理人其人ナリ然ラハ則チ委任者ト復代
人トノ間ニハ如何ナル權利關係ヲ生ス可キ歟詳ニ之ヲ言ヘハ其關係
ハ直接ナル歟將々間接ナル歟是レ緊要ノ問題ニ屬シ而シテ其答ハ該
復代人ノ選任ノ適法ナリシト否トニ因リ之ヲ異ニスルモノニシテ本

條第一項ハ其適法ノ場合ヲ示シ第二項ハ其不適法ノ場合ヲ示セリ

第一 復代人ノ選任ノ適法ナリシ場合

是レ即チ前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニシテ委任者ニ復代人ノ選任
ヲ禁止スルノ意ナキ場合及ヒ委任者其人ヲ指定シ暗ニ復代人ノ選任
ヲ許セシ場合ナルヲ以テ此場合ニ於テハ代理人カ復代人ヲ選任セシ
ハ委任者ノ意思ニ從ヒタルモノニシテ委任者自カラ之ヲ選任セシニ
異ナラス即チ代理人ハ委任者ノ名義ヲ以テ委任者ノ爲メニ之ヲ選任
セシモノト云フ可ク此一事ヲ以テ代理人カ委任者ニ對スル義務ハ已
ニ消散シテ代理人ハ其關係ヨリ離脱シ而シテ委任者ト復代人トノ間
ニ更ニ一個ノ代理關係ノ成立スルモノナリ是ヲ以テ復代人カ代理ト
シテ爲セシ管理ノ所爲ニ對スル訴權ハ委任者直接ニ之ヲ行フコトヲ
得ヘク復代人ニ對スル責任即チ管理ニ關スル復代人ノ費用立替金損

害ノ賠償及ヒ代理ノ報酬等ノ責任ハ委任者直接ニ之ヲ負擔スルモノトス之ヲ約言スレハ權利義務共ニ一個ノ代理人ヲ介セスシテ双方ノ間ニ於ケル直接ノ關係タルモノナリ

第二 復代人ノ選任ノ不適法ナリシ場合

是レ即チ前條第三項ノ場合ニシテ委任者ノ禁止ニ背キ以テ復代人ヲ選任シ又ハ其許諾セサル人ヲ選任シタル場合ナレハ委任者ヲ代表シテ委任者ノ爲メニ選任セシモノト云フヲ得ス即チ代理人カ自己ノ意思ニ隨ヒ自カラ復代人ヲ選任シタルモノナレハ其結果ヲ委任者ニ嫁與ス可キニ非ス故ニ此場合ニ於ケル委任者ト復代人トノ關係ヲ普通ノ原則ヨリ觀察スレハ委任者カ自己ノ義務者タル代理人ノ名義ヲ以テスルニ非サレハ其復義務者タル復代人ヲ訴フルノ權ナシ即チ代理人ノ名ヲ以テスル間接[○]訴訟權アルニ過キサルナリ然レモ本條ハ此場合

ニモ間接訴訟權ト直接訴訟權トニ付テ選擇權ヲ有スト爲シ委任者ニ直接[○]訴訟權ヲモ併セテ許與セリ是レ他ナシ委任者ハ代理人ノ權限外ニ爲シタル行爲ニテモ之ヲ認諾スルノ權アルヲ以テ其復代人ノ選任モ勿論之ヲ認諾スルヲ得ヘク而シテ之ヲ認諾スルヤ其關係ハ第一ノ場合ノ如ク當然直接ト爲ルニ因ル即チ[○]法文然レトモ直接訴訟權ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做ス^トアルハ此カ爲メニシテ事果シテ此ニ至ルヤ委任者ハ其權利ノ直接ナルト同時ニ其復代人ニ對スル責任モ亦タ直接ニ之ヲ負擔ス可キモノト爲ルノ理ナリ

第二百五十條第一號

第二節 代理人ノ義務

第二百三十七條 代理ノ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ自己ノ了知シタル委

任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就スル責ニ任
ス此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス
全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナ
ルニ非サレハ代理人ハ一分ノ履行ヲ爲ス責ナク且
之ヲ爲スコトヲ得ス

〔義解〕(九二) 凡ソ代理人ノ委任者ニ對スル義務ハ之ヲ二個ニ大約ス
ルヲ得ヘシ曰ク委任事件ヲ成就スル義務曰ク代理ノ終了シタル其
其計算ヲ爲スノ義務是ナリ本條以下三條ハ其第一義務ヲ規定シ第二
百四十條以下三條ヲ以テ其第二義務ヲ規定シ而シテ最後ノ二條ハ代
理人ノ義務ノ全般ニ付テ補足ノ規定ヲ爲シタルモノナリ
代理人ハ委任事件ヲ成就スルノ責アリ是レ實ニ其第一要事ニ屬ス何
トナレハ委任事件ヲ成就ス可キハ代理契約ノ締結セラレシ所以ニシ

テ此契約ノ唯一ノ眼目ナレハナリ然レモ此責タルヤ代理ノ終了セザ
ル間ニ限レリ蓋シ代理ナルモノハ他ノ契約ト異ナリテ一種異常ノ性
質ヲ有シ諸他ノ代理終了ノ原因ノ外委任者ハ何時ニテモ隨意ニ其委
任ヲ廢罷スルヲ得代理人モ亦々何時ニテモ隨意ニ其代理ヲ拋棄ス
ルヲ得ル等其終了ノ何時ニ來ルヤ測リ難ク隨テ必スシモ委任事件
ヲ成就ス可シト云フヲ得ス是レ法文ノ特ニ代理ノ終了セサル間ハ「ト
記シタル所以ニシテ若シ不時ノ終了アリシモハ其事件ノ成就セサル
ト固ヨリ其所ニシテ此ヲ以テ代理人ヲ責ム可カラサルナリ
然リ而シテ其委任事件ヲ成就スルヤ唯々濫リニ之レヲ成就スルヲ以
テ足レリトセス能ク委任者ノ意思ノ如クニ成就セシムルヲ要ス否サ
レハ則チ其代理タル所以ニ背クハナリ此故ニ代理人タル者ハ先ツ委
任ノ本旨ヲ咀嚼シテ之ヲ誤ラサルヲ務メサル可カラス且其委任ノ

書面又ハ口頭ニ於テハ十分ニ其意思ヲ盡クシ能ハサルヲ以テ縱令委任者ノ明示ナキモ自己ノ了知シタル委任者ノ意思ハ能ク之ヲ斟酌シテ以テ其事件ヲ成就セサル可カラサルナリ

若シ代理人之ニ反シテ其事件ヲ成就セス又ハ之ヲ成就スルモ其方法若クハ模様ニ於テ委任者ノ意思ヲ盡クサス又ハ之ニ乖戾シテ委任者ノ爲メ損害ヲ生シタルモ代理人ハ其損害ヲ賠償セサル可カラス但縱令代理人カ其義務ニ於テ缺クル所アルモ實地ノ損害ナカリシモ固ヨリ賠償ノ責ナキヤ猶ホ普通ノ場合ニ異ナラサルナリ

〔九三〕 若シ夫レ代理人カ委任事件ノ全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルモ其爲シ得ヘキ一分ノ履行ヲ爲スノ責アリヤ又之ヲ爲スノ權アリヤ否ヤ是レ本條ニ附隨スル疑問ナリ第二項ハ即チ之ニ答ヘテ或ル場合ノ外其責ナク又其權ナシト爲セリ

蓋シ其原因カ意外ノ事變若クハ不可抗力ニ出テシト自己ノ過失若クハ其他ノ事由ニ出テシトヲ問ハス實際全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルモ其爲シ得ヘキ部分即チ一分ノ履行ハ委任者ノ爲メ何等ノ利益ヲモ爲サ、ルコト多カル可シ例ヘハ委任者カ一ノ圖案ニ基キテ建築ヲ爲サント欲シ之ニ必要ナル坪數ノ土地購入ヲ委任セシニ該土地ノ坪數不足ナル場合ノ如キ之ヲ購入スルモ其建築ヲ爲スニ足ラサルカ故此ノ如キ場合ハ此カ購入即チ一分ノ履行ヲモ爲スヲ得サルナリ

然レモ亦タ一分ノ履行カ委任者ノ利益ヲ爲スコトナキニ非ス此場合ハ代理人其履行ヲ爲スノ責アリ又其權アルモノトス例ヘハ南京米ノ入津アリシニ方リ委任者カ專ラ自家食料ノ爲メ其中百石ノ購入ヲ委任セシニ代理人カ履行遅延ノ爲メ既ニ他ニ賣却セラレ僅ニ三十石ヲ殘シタリトセヨ此場合ハ三十石ト雖トモ亦タ委任者ニ有益ナリ即チ百

石ノ利益ハ固ヨリ之レナキモ亦タ三十石ノ利益ハ之レアル可シ故ニ之ヲ購入セサル可カラス

然リ而シテ其委任者ニ有益ナルト否トニ付キ事後ニ爭論ヲ生セシモハ遂ニ裁判所ノ判定ニ其肩ヲ結ハサルヲ得サルナリ

第二百三十八條 指定ノ代價ニテ物ヲ買入ルル委任

ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過ヲ拋棄シテ買入ノ認諾ヲ委任者ニ要求スルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代價ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得物ヲ賣却スル委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルトキハ代理人

ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ認諾セシムルコトヲ得

〔義解〕(九四) 本條ハ前條ニ所謂委任ノ本旨ニ從ヒ……委任事件ヲ成就スルコトヲ得サル場合ニ付テ委任者及ヒ代理人ノ權利ニ關スル特別ノ規定ヲ爲シタルモノナリ

委任者カ或ル物ノ買入ヲ委任シ其買入代價ヲ指定シタルトキハ之ヲ以テ其最高價額ノ制限ヲ爲シタルモノニシテ代理人ハ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テ買入ヲ爲スコトヲ得ス之ヲ爲セハ則チ委任ノ本旨ニ違フモノナリ然ルニ指定代價ハ其事情ニ適セスシテ之ヲ超ユル代價ヲ以テスルニ非サレハ到底之ヲ買入ル、能ハサリシニ因リ代理人ハ己ムヲ得ス之ヲ超エテ買入レタルトキノ如キ之ヲ如何セハ則チ可ナルヤ例ハ爰ニ一千坪ノ土地アリ普通ノ相場ニシテ一坪五圓ト見積リ五

千圓ヲ以テ買入ル可シトノ委任ヲ受ケシニ其相場已ニ騰貴シテ六千圓ニ非サレハ買入ル、能ハス且到底低落ノ見込ナキヲ以テ六千圓ニテ之ヲ買入ル、ノ約束ヲ爲シタリトセシニ此場合ニ於テ代理人ハ六千圓ヲ以テ之ヲ委任者ニ引渡サント強ユルヲ得ス何トナレハ縱令己ムヲ得サルニ出テタリトハ云ヘ此ノ如キハ委任ノ本旨ニ違ヒ其權限ヲ踰越シタルモノナレハナリ故ニ代理人ハ其超過額ヲ拋棄スルニ非サレハ買入ノ認諾ヲ委任者ニ要求スルヲ得ス若シ其超過額ヲ自己ノ損失トシ指定代價五千圓ヲ以テ之カ引取ヲ求ムルニ於テハ委任者ハ之ヲ認諾セサルヲ得ス是レ縱令其權限ヲ踰越セシニモセヨ苟モ其超過額ヲ委任者ニ負擔セシムルニ非サル以上ハ委任者ノ爲メニハ猶ホ其委任ノ本旨ニ從ヒタル場合ニ等シケレハナリ

又茲ニ代理人カ右ノ如ク委任者ノ認諾ヲ要求セサラン歟此場合ハ委

任者ヨリ其指定價額五千圓ヲ以テ土地ノ引渡ヲ代理人ニ要求スルヲ得ス何トナレハ此委任事件ハ右五千圓ノ指定價額ヲ以テ實行スルヲ得サリシモノナレハナリ故ニ此場合ハ委任者ハ代理人ノ實際ニ辨濟シタル代價即チ六千圓ヲ以テスルニ非サレハ物ノ引渡ヲ要求スルヲ得ス而シテ委任者ヨリ六千圓ヲ以テ其引渡ヲ要求セハ代理人ハ必スヤ之ニ應セサル可カラス蓋シ此ノ如キハ權限ヲ踰越セシ代理行為ヲ認諾スルモノニシテ代理人ハ固ヨリ之ヲ拒ムノ辭ナケレハナリ

(九五) 前段ニ反シ物ヲ賣却スル委任ノ場合ニ於テハ代理人ハ恰モ前段ト同一ノ論理ニ依リ指定ノ代價以下ニ之ヲ賣却スルヲ得ス然ルニ代理人カ若シ之ニ背キ其以下ノ低價ニテ之ヲ賣却シタルハ委任ノ本旨ニ違フノ故ヲ以テ其儘ニ其賣却ヲ認諾セシムルヲ得ス若シ強テ之ヲ認諾セシメント欲セハ自己ノ資財ヲ以テ其差額ヲ補足セザ

ル可カラス即チ或ル物ヲ五百圓ニテ賣却ス可シトノ委任ヲ受ケシニ
之ヲ四百五十圓ニテ賣却セシキハ自カラ五十圓ヲ出シテ之ヲ補足ス
可シ然ルキハ委任者ハ爲メニ損失スルコトク之ヲ認諾セザラントス
ルモ亦タ能ハサルナリ

然リト雖トモ此規定タルヤ單ニ民事ノ爲メニセシモノニシテ商事ニ
付テハ之ヲ適用ス可カラサル場合アリ即チ商品ノ販賣ハ必スシモ廉
價ナルヲ以テ其販路ヲ得ルモノニ非ス其價ノ廉ナラサルカ爲メ商品
其モノ、信用ヲ博シ却テ販路ヲ廣クスルコトアルモノニシテ其價ヲ低
下セシ爲メ其商品ノ聲價ヲ墜スコト間々多シ殊ニ半途ニシテ之ヲ低下
セシキノ如キ最モ其弊ヲ見ル所謂賣崩シノ弊是ナリ故ニ商事ニ付テ
指定ノ代價以下ニ賣却シタルトキハ單ニ其代價ノ差額ヲ補足スルヲ
以テ足レリトセス仍ホ損害賠償ノ責ニ任ス可キ場合アリ商法第四百六十條註著

商法正義第四卷第百六十二頁參照然ルニ民事上ニ於テハ殆ント此弊アルコトナシ故ニ
唯マ差額ヲ補足スレハ以テ足レリトシ別ニ損害ノ以テ賠償ス可キモ
ノアラサルナリ

第二百三十九條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムル

コトニ付テハ善良ナル管理人タルノ注意ヲ爲ス責

ニ任ス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寬

大ニ之ヲ査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲ストキ

第二 代理人カ自ラ求メテ代理ヲ爲シタルニ非サ

ルトキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ

又ハ之ヲ推量シタルトキ

第四 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシ

テ其豫期セサリシ利益ヲ得セシメタルトキ

〔義解〕(九六) 本條ハ代理人ノ爲ス可キ注意ノ程度ヲ示シ且其過失ヲ

査定スル標準ニ付キ規定シタルモノナリ

凡ソ代理人ハ能ク周到完全ニ委任者ノ利益ノ齟銖モ多カラフヲ務
メサル可カラサルカ故其委任セラレタル事件ヲ成就セシムルハ注意ニ
注意ヲ加フ可キヤ言テ俟マス且其注意タルヤ自己ノ事務ニ加フル注
意ト一般ナルモ未ダ可ナラス即チ普通ノ注意ヨリハ更ニ一步ヲ進メ
善良ナル管理人ノ注意ヲ爲スヲ要シ若シ這般ノ注意ヲ欲クヤ則チ其
責ニ任セサル可カラス故ニ啻ニ重過失ノミナラス輕過失ト雖ヒ亦ダ
以テ其責ニ任ス可シ免ル、所ハ唯ダ最輕過失ノ一アルノミ

代理人カ注意ヲ爲ス責ニ任シ隨テ其過失ノ責ニ任スルヤ此ノ如シ然
レヒ左ノ四個ノ一アル場合ニ於テハ其過失ハ較_レ恕ス可キモノアルヲ
以テ寛大ニ之ヲ査定ス可シ

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲スル○代理ハ其報酬ヲ受クルト否
トニ論ナク共ニ好意的勞務ナリト雖モ報酬ヲ受ケサル者ハ之ヲ受ク
ル者ニ比シテ其好意一層篤キモノト看做ス可ク隨テ法律モ亦之ヲ彼
ノ報酬ヲ受クル者ト同一ニ嚴督スルヲ得サルナリ

第二 代理人カ自カラ求メテ代理ヲ爲シタルニ非サルル○自カラ求
メテ之ヲ爲シタル者ノ過失ハ之ヲ恕ス可キノ點ナシ然レヒ他人ヨリ
依囑セラレタル者ハ好意上已ムヲ得ス之ヲ受諾シタルモノト看做ス
可キニ因リ少シク恕ス可キモノアルナリ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタル

○既ニ其不熟練ナルヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタルニ於テハ其過失ノ生シ易キヲモ亦タ委任者ノ豫メ期シタル所ナル可シ然ルニ其果然過失ニ陥リシニ及ヒ俄ニ之ヲ責ムルハ過酷タリ非理タリ焉クソソ之ヲ寬恕セサル可ケンヤ

第四 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫期セザリシ利益ヲ得セシメタルハ○功ハ以テ過ヲ償フニ足ル然ルニ功ハ默シテ之ヲ受ケ過ハ怒テ之ヲ責ムルハ背情ノ事タルカ故此場合ニ於テモ亦タ寬大ニ之ヲ査定セノヲ要ス

第二百四十條 代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ證據書類ヲ添ヘテ其計算ヲ爲ス責ニ任ス其終了前ト

雖モ委任者ノ之ヲ求メタルトキハ亦同シ

〔義解〕(九七) 本條ハ代理人ノ第二ノ義務即チ計算ヲ爲ス義務ノ原則

ヲ掲ケタルモノナリ

凡ソ他人ノ財産ヲ管理スル者ハ本人ニ對シテ必ス其計算ヲ爲サ、ル可カラス是レ一般ノ通則ニシテ代理人モ亦タ其支配ヲ免レス故ニ代理人ハ其代理ノ終了スルヤ委任者ノ要求ナシト雖モ當然其爲シタル委任事件ノ計算ヲ爲サ、ル可カラス而シテ之ヲ爲スニハ其拂出シタル金錢ノ受取書又ハ其取結ヒタル契約書等總テノ證據書類ヲ添ヘテ以テ其計算ノ正確ヲ證明ス可キモノトス蓋シ此ノ如キハ善良ナル代理人ノ曾テ怠ラサル所タリ但證據書類ヲ添ユルノ義務ハ委任者之ヲ免スルヲ得是レ信用厚キ代理人ニ對シテ屢生スル事實ナリ
代理終了ノ時ハ此ノ如ク代理人ハ當然其計算ヲ爲スノ責アリ然レモ其未ダ終了セサル前ト雖モ亦タ代理人ノ其責ヲ負フヲナキニ非ス即チ委任者ノ求メアリシニモニシテ其求メアルヤ代理人ハ何時ニテモ必

ス之ヲ爲サ、ル可カラス是レ委任者ハ何時ニテモ其委任セシ事件ニ
關シ既ニ實行セシ處分及ヒ將サニ實行セントスル處分ノ如何ヲ問尋
スルノ權利アリテ代理人ハ必ス之ニ答ヘサルヲ得サルモノナレハナ
リ

第二百四十一條 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管
理ニ關シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有
價物ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要ス又委任者カ正
當ニ受取ルコトヲ得ス又ハ代理人ニ受取ルコトヲ
託セサリシ金額若クハ有價物ト雖モ之ヲ受取リタ
ルトキハ亦同シ然レトモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ
受取ル可キ金額ヲ控除ス
代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ怠リ又ハ自己ノ過

失ニ因リテ減失セシメタル金額若クハ有價物ノ價
額ヲ前數條ニ依リテ負擔スル損害賠償ト共ニ前項
ノ返還中ニ附加ス

〔義解〕(九八) 本條ハ前條ヲ補足シ前條ノ實行ニ關スル規定ヲ爲セシ
モノナリ

前條ニ依リ計算ヲ爲スハ管々帳簿ノ上ニ於テ取捨加減ヲ爲スノミナ
ラス委任者ノ爲メニ其權利義務ヲ明カニシ以テ實地ノ授受ヲ了セシ
カ爲メナリ此故ニ代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ
有價物ハ固ヨリ論ナク縱令自己ノ名ヲ以テ受取リタルモノト雖モ其
管理ニ關シテ受取リタルモノナルモ亦之ヲ委任者ニ返還セサル
可カラス是レ自己ノ名ヲ以テシタルニモセヨ代理人タル資格ヲ以テ
委任者ノ爲メニ受取リシモノナレハナリ

豈啻タ然ルノミナラシヤ委任者カ正當ニ受取ルヲ得サルモノヲ代
 理人カ委任者ノ爲メニ受取リシキ又ハ委任者カ代理人ニ受取ルヲ
 託セザリシモノヲ代理人其權ナクシテ受取リシキト雖モ亦タ代理人
 ハ之ヲ委任者ニ返還セサル可カラス是レ代理人ハ自己ノ爲メニ受取
 リシニ非ス又之ヲ受取リ得ルモノニ非サルノミナラス代理人カ之ヲ
 握有スルキハ不當ノ利得タル點ヨリスルモ亦タ必ス之ヲ委任者ニ返
 還セサル可カラサルナリ而シテ其金額又ハ有價物カ若シ果シテ委任
 者ノ正當ニ受取ルヲ得サルモノナルキハ第三者ハ直チニ委任者ニ
 對シ返還ヲ請求スルノミニシテ代理人ハ之ニ與カルモノニ非ス故ニ
 代理人ハ兎モ角モ之ヲ委任者ニ返還セサルヲ得サルナリ
 此ノ如ク代理人ハ其場合ノ如何ヲ問ハス管理ニ關シ委任者ノ爲メニ
 受取リタルモノハ總テ之ヲ委任者ニ返還セサル可カラス然レモ代理

人ハ委任者ヨリ次節ニ從ヒ受取ル可キ金額即チ第二百四十五條ニ於
 ケル四種ノ債權其他ノ債權ニ依リ受取ル可キ金額アルヲ以テ相殺ノ
 原則ニ從ヒ之ヲ右ノ返還ス可キモノヨリ控除シ以テ其殘額ヲ支拂フ
 可シ若シ其返還ス可キ金額ノ不足スル歟又ハ全ク金額ナキキハ留置
 權ノ原則ニ依リ債權擔保編 第九十二條其債權ノ金額ニ應シテ右ノ返還ス可キ有
 價物ヲ留置スルヲ得ルモノトス第二百四十八條

(九九) 代理人ハ前項ニ依リ其受取リシ金額若クハ有價物ハ盡ク之ヲ
 委任者ニ返還セサル可カラス然ルニ代理人ハ其受取ラサルモノニテ
 モ亦タ返還セサル可カラサルヲアリ他ナシ收取ス可クシテ之ヲ怠リ
 シ場合是ナリ蓋シ代理人カ收取ス可クシテ之ヲ怠リシキハ其罪自己
 ニ在リ其損失ヲ委任者ニ負擔セシムルコトヲ得ス故ニ自己固有ノ資
 財ヲ以テスルモ之ヲ委任者ニ返還セサル可カラス又一旦之ヲ收取セ

シニ自己ノ過失ニ因リテ之ヲ滅失セシトキハ其物縱令現存セスト雖モ亦タ前ト同一ノ理由ニ因リ之ヲ委任者ニ返還セサル可カラサルナリ
其他代理人ハ第二百三十五條第二百三十六條第二百三十七條其他ノ諸條ニ因リ損害賠償ヲ負擔スルコトアリ此等モ亦タ皆ナ前ノ諸金額ト共ニ委任者ニ拂渡ス可キモノトス

第二百四十二條 委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ利益ニ用ヒタル代理人ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ負擔ス其他損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

計算殘餘ノ全額ニ付テハ代理人ハ其遲滞ニ付セラレタル日ヨリ利息ヲ負擔ス

〔義解〕(一〇〇) 代理ハ委任者ノ爲メニ金額ヲ受取リタルニ於テハ委任者ノ許諾ナクシテ之ヲ自己ノ利益ニ使用スルコトヲ得ス是レ代理ノ基礎タル誠實ノ本分ニ背クヲ以テナリ然ルニ代理人若シ之ニ拘ハラズ其金額ヲ使用シタルキハ委任者ニ對シ其利息ヲ支拂ハサル可カラス是レ一ニハ其誠實ノ本分ニ背キシ責罰トシテ又一ニハ其損害ノ賠償トシテ之ヲ負擔セシムルナリ元來金錢ニ係ル義務ニ付テノ損害賠償ハ法律上ノ利息ヲ以テス可ク之ヨリ増シ若クハ減スルコトヲ得ス編第三然ルニ本條ハ右利息ノ外更ニ多額ノ損害アルキハ代理人ハ九十一之ヲ賠償スルノ責ニ任スルコト爲セリ是レ法律カ代理人ノ不誠實ヲ惡ムニ出テシモノニテ右ノ利息ノ如キモ賠償ノ意ヨリハ寧ロ責罰ノ意ニ基ケルモノナレハナリ尤モ此損害賠償ハ利息ノ額ヲ控除セシ殘額ナラサル可ラス例ヘハ百圓ノ利息ヲ支拂ヒシニ其損害額ハ三百圓

ナリシトキノ如キ其利息ノ外ニ求ムル賠償金ハ之ヲ二百圓トセサルヲ得サルナリ

利息ノ起算點ヲ其元本使用ノ日ヨリトセシモ亦々例外ニ屬ス元來利息ハ契約アル場合ノ外裁判所ニ其利息ヲ請求シテ遲滞ニ付セシヨリニ非サレハ之ヲ求ムルコトヲ得ス然ルニ斯ク之ヲ使用ノ日ヨリトセシハ亦々其責罰ノ意ニシテ使用ノ日ヨリ當然之ヲ遲滞ニ付セシモノニ外ナラサルナリ

計算殘餘ノ金額即チ委任者ニ計算シテ自己ノ債權ニ屬スル金額ヲ控除シタル殘餘ノ返還ス可キ金額ハ即時之ヲ交付セサルモ此カ爲メ直チニ利息ヲ生スルモノニ非ス委任者カ裁判所ニ其利息ヲ請求シ又ハ代理人カ特別ノ追認ヲ爲シ依テ以テ代理人カ遲滞ニ付セラレタル日ヨリ初メテ之ヲ生スルモノナリ財産編第三百九十三條

第二百四十三條

一個ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルトキハ唯一ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルト各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルトヲ問ハス各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノミ其責ニ任シ連帶ヲ要約シタルトキ又ハ過失ノ連合ナルトキニ非サレハ其間ニ連帶ヲ成サス

〔義解〕(一〇一) 本條ハ代理人數人アルモ連帶ヲ成サ、ルノ原則及ヒ其例外ヲ示シタルモノナリ

凡ソ一個ノ事件ニ付キ數人ノ代理人ヲ委任セシトハ各々其事件ノ全部ヲ擔任ス可キ義務ヲ負ヒシモノ、如ク假令否ラストスルモ其數人ハ互ニ管理ヲ監督ス可キ責任アルモノ、如ク隨テ其數人ノ間ニハ當然連帶ヲ成ス可キモノ、如シ是レ羅馬法學者ノ曾テ思惟セシ所ニシ

テ羅馬法及ヒ佛國古法ニ於テハ此理ニ因リ數人ノ代理人アルキハ當
然連帶ヲ成スモノト規定シタリ然ルニ佛國現行法ニ於テハ之ヲ廢棄
シ連帶ヲ成サ、ルヲ以テ原則ト爲セシカ本法モ亦之ニ倣ヒシモノ
ナリ

蓋シ債務者間ノ連帶ハ合意遺言又ハ法律ノ規定アルニ非サレハ生セ
ス且其合意ヨリスルモノハ如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ム
ルヲ要シ決シテ之ヲ推定スルヲナキハ民法上ノ一大原則ナリ擔保
編第五 此原則ハ代理人ニ付テモ亦々適用ス可カラサルノ理アルヲナ
シ況ンヤ代理ノ事タル極メテ便益ノモノナレハ法律ハ其行ハレ易カ
ラフヲ欲シ隨テ當然連帶タルカ如キ嚴酷ナル規定ヲ設ケサルヲ可
トスルニ於テヤ本法カ佛法ト共ニ羅馬法及ヒ佛國古法ニ反對セシ
ハ即チ此カ爲メタリ但數人ノ委任者カ共同事件ノ爲メ一人ノ代理人

ニ委任セシキハ其數人ハ本條ニ反シ代理人ニ對シテ連帶義務ヲ負擔
スルモノトス第二百四十九條 是レ亦々特殊ノ理由ニ出ツルナリ

抑、本條ノ原則タル其唯一ノ證書ヲ以テ數人ノ代理人ヲ委任シタルト
各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルトニ因リ變動スルモノニ非ス蓋シ
唯一ノ證書ヲ以テ委任シタルキハ連帶ヲ成ス可キカ如キノ感ナシト
セサレトモ連帶ハ決シテ推定スルヲ得サルヲ以テ此場合ニ於テモ亦
々連帶ヲ成サ、ルノ原則ニ從フナリ

然レトモ本條ノ原則ハ二個ノ例外ヲ伴フモノニシテ其場合ハ數人ノ
代理人連帶シテ義務ヲ負擔セサル可カラス

第一 連帶ヲ要約シタルトキ○是レ連帶ハ合意遺言又ハ法律ノ規定
ヨリ生ストノ原則ニ從フモノナリ

第二 過失ノ連合ナルトキ○連合トハ其過失ノ數人共謀ニ出テシコ

ヲ云フモノニシテ其義務ノ連帶タルハ亦タ民法上普通ノ原則ナリ
編第三百但其數人カ同一ノ所爲ニ付キ責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠
ノ部分ヲ知ル能ハサルニ止マリテ共謀ノヲナキトキハ之ヲ連合ト云
フヲ得ス唯々各自全部ニ付キ義務ヲ負擔スルノミニシテ連帶ヲ成ス
モノニ非サルナリ

然ルニ各別ノ證書ヲ以テ代理人ヲ委任シタル場合ハ其結果唯一ノ證
書ヲ以テ委任シタルキト異ナラサルニ非ス即チ此場合ハ各人全部ノ
管理ヲ擔任スルモノニシテ其管理ニ付テ過失アルキハ恰モ一人タル
如ク其責ニ任セサル可カラサルナリ

第二百四十四條 代理人カ委任者ノ爲メ委任者ノ名
ヲ以テ第三者ト爲シタル行爲ノ履行ニ付テハ代理
人ハ其第三者ニ對シテ責ニ任セス但代理人カ明示

ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第三者ニ對シテ已レノ有
セサル權限ヲ有スルモノノ如ク示シタルトキハ此
限ニ在ラス

〔義解〕(一〇二) 本條ハ代理人ノ第三者ニ對スル關係ヲ定メシモノナ
リ

代理人カ委任者ノ爲メ第三者ニ對シテ契約其他ノ行爲ヲ爲サノニ此
行爲ノ履行ニ付テハ代理人自カラ其責ニ任スルモノニ非ス尤モ是レ
其代理ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲ニシテ且其行爲ハ委任者ノ名ヲ
以テシタル場合ニ限ルモノトス此場合ハ代理人ハ其委任者ノ名ヲ舉
ケ其者ノ爲メニスルヲ明言シ第三者モ亦タ代理人其人ト契約スル
ニ非スシテ其委任者ト爲スノ意ナレハ代理人ハ其行爲ニ付キ履行ノ
責ナキヤ言ヲ待タス即チ代理人ハ單ニ委任者ノ爲メニ契約其他ノ行

爲テ爲スニ止マリ其行爲ノ成立スルト同時ニ其關係ヨリ離脱シ其結果ハ直接ニ委任者ト第三者トノ權利義務ト爲リテ彼等自カラ其履行ノ責ニ任ス可キナリ

然レモ此原則モ亦タ二個ノ例外ヲ伴フ即チ第一ニ代理人若シ明示ニテ自カラ其履行ノ責ニ任ス可キヲ定メタルモハ固ヨリ之ヲ守ラサル可カラス又第二ニ第三者ニ對シテ自己ノ有セサル權限ヲ有スルモノ、如ク示シタルモ即チ惡意ニテ第三者ヲ欺罔シタルモハ勿論疎虞ニテ此ノ如ク誤信セシメタルモ於テモ苟モ事實其權限ヲ有セサルニ於テハ委任者ハ第三者ニ對シテ決シテ之ヲ履行セサル可ク第三者モ亦タ自カラ其損失ヲ甘受セサル可クハ代理人ハ必ス自カラ之ヲ履行セサルヲ得サルナリ

代理人カ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行ヒシモ即チ仲買契約ノ場合ニ於テハ

其代理人即チ仲買人ノ第三者ニ對スル關係モ亦タ少シク其趣ヲ異ニスル所アリ事ハ商法ニ詳ナルヲ以テ茲ニ贅セス

第三節 委任者ノ義務

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務

ヲ負擔ス

- 第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ辨償及ヒ其支出シタル日以來ノ法律上ノ利息ノ辨償
- 第二 合意シタル謝金ノ辨濟
- 第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ

特ニ謝金ヲ諾約スル理由ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ解脫又ハ其賠償

〔義解〕(一〇三) 凡ソ委任者ノ義務ハ之ヲ大約シテ二個ト爲ス曰ク代理人ニ對シ諸種ノ債務ヲ支拂フノ義務曰ク代理人ノ爲セシ約束ニ從ヒ第三者ニ對シテ履行ヲ爲スノ義務是ナリ本節ハ即チ本條以下五條ヲ以テ其第一ノ義務ヲ規定シ最後ノ一條ヲ以テ其第二ノ義務ヲ規定シタルモノニシテ而シテ本條ハ其代理人ニ對スル義務ノ種類ヲ枚擧シタルモノナリ

委任者カ代理人ニ對シテ負擔ス可キ義務ハ左ノ四種トス

第一 立替金、費用及ヒ其利息〇代理人カ代理ノ履行ヲ爲スニ必要ナ

ル金額ニシテ委任者カ豫メ之ヲ交付セザリシカ爲メ代理人自カラ之ヲ立替ヘタルキハ之ヲ辨償セサル可カラス其代理履行ノ爲メ必要ナル費用ニ付テモ亦タ然リ蓋シ立替金ト費用トハ相類シテ同シカラス物品買入ノ代理ニ付テ之ヲ例示セハ立替金トハ其買入代價、公正證書調製費等ヲ云ヒ費用トハ代理人ノ旅費、郵稅等ヲ云フ而シテ此費用ハ「正當」ノモノナルヲ要シ其過分不必要ノモノナルヲ明ナルキハ委任者之ヲ辨償セスシテ可ナリ又其立替金及ヒ費用ニ付テハ現ニ之ヲ支出シタル日ヨリ起算シテ法律上ノ利息ヲ支拂ハサル可カラス是レ第二百四十二條ニ於ケル代理人ノ義務ト權衡ヲ得セシムルモノナリ
第二 謝金〇代理契約ハ無償ナルヲ以テ本質トスレモ若シ其謝金ヲ合意シタルキハ固ヨリ之ヲ辨償セサル可カラス此事ニ付キ起ル可キ問題ハ第二百四十七條ニ其明文アルヲ以テ茲ニ贅セス

第三 損害ノ賠償○代理人カ其管理ヲ爲サシカ爲メ已ムヲ得ス自己ノ或ル業務ヲ抛テサルヲ得サルニ至リシカ如キ其管理ニ因リ直接ニ生セシ損害ハ勿論其管理ヲ爲スニ際シ起リタル間接ノ損害例ヘハ管理ノ爲メ外出シテ盜難ニ遇ヒシカ如キ損害モ其自己ノ過失ニ原因セサル以上ハ委任者之ヲ賠償セサル可カラス是レ古代ノ法律ノ區別セシ所ナルモ近世ノ法理ハ總テ之ヲ混一シ共ニ委任者ヲシテ賠償セシムルモノナリ然レ此等ノ損害ニシテ豫見シタルモノニ係リ且其全部又ハ一分ニ付キ委任者カ謝金ヲ諾約スル理由ト爲リタルモノハ之ヲ賠償セスシテ可ナリ例ヘハ代理人カ其代理ノ履行ノ爲メ自己日常ノ業務ヲ抛チシカ如キハ最モ豫見ス可キモノニシテ謝金ノ約モ亦此等ノ爲メニ外ナラス然ルニ猶ホ其賠償ヲ得ルトトセハ是レ一ノ原由ノ爲メ二重ノ報酬ヲ得ルモノニシテ不當ノ利得ト云ハサル可カラ

ス法文ノ但書アルハ即チ是カ爲メナリ

第四 代理人ノ義務ノ解脫又ハ其賠償○代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ事ヲ行フカ故ニ一身上ニ義務ヲ負フヲナキヲ常トスレモ亦タ全ク其場合ナキニ非ス即チ第三者カ委任者ヨリハ寧ロ代理人ニ信用ヲ置キ代理人ニ委任者ノ保證人タルヲ求メ若クハ代理人ヲシテ或ル擔保ヲ供セシメタル等ノ場合ニシテ此場合ハ委任者自カラ他ノ擔保ヲ供スルカ若クハ速ニ其義務ヲ履行シテ以テ代理人ノ爲メニ其義務ヲ解脫セサル可カラス又代理人カ爲メニ既ニ或ル損害ヲ受ケタリシキハ之ヲ賠償セサル可カラサルナリ

〔論說〕(一〇四) 代理契約ノ本質ノ片務契約タルヤ疑ヲ容レス其謝金アル場合ハ暫ク措キ無償ノ場合ニ於テハ縱令立替金及ヒ費用ノ辨償ヲ爲スノ義務委任者ニ存セリト雖モ尙ホ之ヲ片務契約トセサル可カ

ラス然リ而シテ其謝金アル場合ニ至リテハ孰レニ屬ス可キヤ尙ホ未
定ノ問題ニ屬セリ或ハ曰ク

委任者ニハ何時ニテモ代理ヲ廢罷スルノ權アルヲ以テ其約シタル
謝金ヲ拂ハサルノ方法ヲ有スルモノト云ハサル可カラス果シテ然
ラハ謝金ヲ拂フノ義務ハ代理契約ヨリ生スル本然ノ義務ニ非スシ
テ委任者ニ於テ未發ニ防止スルヲ得ヘキ代理事務ノ實行ト云フ
一ノ事實ヨリ生スルモノナリ其契約ヨリシテ直チニ双方ニ義務ヲ
生セサル以上ハ之ヲ双務契約ト云フ可カラス

反對ノ論者ハ則チ曰ク

若シ夫レ此ノ如ク結約者カ其義務ノ實行ヲ拒ムヲ得ルノ一事ヲ
以テ之ヲ契約上ノ義務ヲ負擔スルニ非スト云ハ、代理人ト雖モ亦
タ契約上ノ義務者ニ非サル可シ何トナレハ代理人モ亦タ何時ニテ

モ任意ニ代理ノ實行ヲ拋棄シテ其義務ヲ免ル、トテ得レハナリ此
ノ如ク結約者双方ニ於テ代理契約ヲ解クノ自由アルヲ以テ見レハ
契約以後ノ事ニ關係ナク其之ヲ結フノ當時ニ於テ已ニ双方義務ヲ
約シタル以上ハ双務ニ非スシテ何ソヤ

他ノ片務論者又曰ク

委任者カ縱令謝金ヲ約スルモ謝金ナルモノハ契約成立ノ際ヨリ之
ヲ負擔スルモノニ非ス次條ニ依リ代理ノ全部履行アリシヲ待チ初
メテ之ヲ負擔スルモノナレハ之ヲ確實ニ契約ニ因リ義務ヲ負擔シ
タルモノト云フヲ得ス故ニ双務ニ非サルナリ

双務論者亦答辯アリ曰ク

此ノ如キ言ハ其義務ニ未必條件アルモノナリト云フニ外ナラス然
ルニ未必條件附ノ義務ハ其契約ヲシテ双務タラシムルニ足ル可キ

十分ナル成立ヲ有スルモノナリ

二説各其理アリ俄ニ軒輊シ易カラス然レハ精細ニ觀察シ來レハ之ヲ
双務契約ナリト爲スハ較有カナルカ如シ暫ク記シテ讀者ノ推敲ニ委
シ敢テ妄リニ速斷セス

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲

スコトヲ約セサルトキハ其責ニ任セス然レトモ委
任者ヨリ必要ナル資金ヲ供スルコトヲ拒絕シ又ハ
遅延セシコトノ證據ナキニ於テハ支出ヲ約セサル
爲メ代理ノ履行ヲ遅延スルコトヲ得ス

〔義解〕(一〇五) 本條ハ前條第一號ヲ承ケ立替金及ヒ費用ニ關スル權
利義務ヲ規定シタルモノナリ

〔前條ニ掲ケタル支出〕トハ即チ代理履行ノ爲メニスル立替金及ヒ費用

ノ謂ニシテ此等ノ金額ハ代理人自カラ之ヲ支出スルノ責ナシ元來代
理人ハ委任者ノ爲メ好意ヲ以テ或ル事件ヲ管理スルノ勞務ヲ執ルモ
ノナレハ其事件ニ要スル金額マテモ自カラ支出ス可キノ地位ニ非サ
ルヤ固ヨリ明瞭ニシテ契約ニ因リ其義務ヲ負擔シタルハ格別ナル
モ苟モ否ラスンハ其資金ノ供セラレサルカ爲メ代理ノ履行ヲ拒絕ス
ルコトヲ得サル可カラス

然リト雖モ委任者カ必要ナル資金ヲ供セサルコト口ニ藉キ妄リニ代
理ノ履行ヲ遅延スルカ如キハ誠實ヲ以テ本分ト爲ス代理人ノ宜シク
爲ス可キノ非サルナリ故ニ委任者カ果シテ其資金ヲ供スルコトヲ拒
絶シ又ハ遅延セシコトノ證據ナキニ於テハ單ニ支出ヲ約セサリシト云
ヘル一事ヲ以テ代理ノ履行ヲ遅延スルコトヲ得ス即チ之ヲ遅延セシニ
於テハ其資金ノ拒絕又ハ遅延ノ事實ヲ證明セサル可カラス而シテ此

證據ハ委任者ノ書柬、電報又ハ其他ノ證據ヲ以テ之ヲ舉クルコトヲ得ヘキナリ

第二百四十七條 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後

ニ非サレハ委任者之ヲ負擔セス但一分ツツ辨濟ス可キコトヲ諾約シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ歸セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應シテ委任者之ヲ負擔ス

〔義解〕(一〇六) 本條ハ第二百四十五條第二號ヲ承ケ謝金ニ關スル權利義務ヲ定メタルモノナリ

委任者カ謝金ヲ與フルコトヲ合意シタルハ固ヨリ其義務アリト雖モ然レモ代理契約成立ノ當初ニ之ヲ辨濟スルコトヲ要セス又代理ノ履行

ニ應シテ一分ツ、之ヲ辨濟スルコトヲ要セス即チ代理ノ全部履行アリタル後ニ於テ初メテ其謝金ヲ辨濟スルヲ以テ足レトス是レ次項ノ如ク其代理ノ果シテ全部履行セラル、ヤ否ヤ知り難ク隨テ其謝金モ亦タ必スシモ全部之ヲ辨濟セサルコトアル可キヲ以テ太早計ニ之ヲ辨濟ス可カラサルモノアレハナリ然レモ若シ委任者カ豫メ一分ツ、辨濟ス可キコトヲ諾約シタルキ即チ或ハ其履行ノ部分ニ應シ又或ハ其履行ノ期間ニ應シ一分ツ、謝金ヲ辨濟スルノ約ヲ爲セシキハ固ヨリ其約束ニ從ハサル可カラサルナリ

此ノ如ク謝金ハ代理ノ全部履行ヲ待テ初メテ辨濟スルモノナレハ若シ代理人ノ責ニ歸セサル原因即チ意外ノ事變又ハ拒抗力等代理人ノ過失又ハ怠慢ニ非サル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルキハ謝金ハ其約定セシ金額ヲ辨濟スルヲ要セス即チ其履行ノ割合ニ應シ

テ負擔ス可キモノトス何トナレハ謝金ノ金額ハ履行ノ全部ニ對スル報酬ナレハナリ

然ラハ則チ此反對ノ場合タル代理人ノ過失又ハ怠慢ニ因リ全部ノ履行ヲ得サリシキハ如何、此場合ニ於テハ無論委任者ハ全ク其謝金ヲ支拂フニ及ハス是レ本條ノ裏面的解釋ヨリスルモ自カラ明白ナリ

然ルニ代理人ノ爲ス可キ履行ハ全部之ヲ爲シ妨碍ナク又過失ナク我カ盡クス可キ所爲ハ全ク之ヲ盡クシタルニ其事件ハ委任者ノ豫期ニ反シテ成就セス若クハ成就セシモ豫期ノ利益ナカリシキハ如何、此場合ハ其契約ノ如何ニ依テ或ハ其決定ヲ異ニスルコトアルモ通例委任者ハ謝金ノ金額ヲ辨濟ス可キモノトス蓋シ代理人ハ其委任セラレタル事務ヲ行フノ義務ヲ負フノミニシテ之ヲ行フヤ既ニ其義務ヲ盡クシタルモノナレハ其事件ノ成敗ト損益トハ事件其モノニ存スル運命ニ

シテ人ノ行爲事件ニ免カレサル此成敗損益ノ未必ナル運命ハ固ヨリ委任者ニ於テ之ヲ擔當セサル可カラサレハナリ

第二百四十八條 委任者カ義務ヲ辨濟スルニ至ルマテ代理人ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レル原因タル物ノ上ニ留置權ヲ有ス

〔義解〕(一〇七) 本條ハ代理人カ其債權ノ擔保ノ爲メ留置權ヲ有スルコトヲ認許シタルモノナリ

代理人ハ委任者ニ對シ前數條ノ規定セル債權ヲ有セルカ故委任者ニ對シテ其債權ヲ執行スル所以ノ方法ヲ有セサル可カラス即チ其一方法トシテ本條ハ留置權ヲ有スルコトヲ規定セリ元來債權者カ正當ノ原因ニ由リテ其債務者ノ動産又ハ不動産ヲ占有シ且其債權カ其物ノ讓渡ニ因リ或ハ其物ノ保存ノ費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル損害賠

償ニ因リテ其物ニ關シ又ハ其占有ニ牽連シテ生シタルモ其占有シタル物ニ付キ留置權ヲ有スルコトハ留置權ノ原則タル債權擔保編第九十二條ノ規定セル所ニシテ本條ハ此原則ヲ代理人ニ適用セシニ過キサルナリ

本條ハ右原則ノ旨趣ニ依リ代理ニ依リテ所持シ且其債權者ト爲レル原因タル物ノ上ニノミ留置權ヲ有スルコト爲シ之ヲ制限シテ妄リニ委任者ノ物ニ付キ何物ニモ留置權ヲ行フカ如キコトヲ許サ、ルナリ故ニ例ヘハ或ル物ヲ買入ル、委任ヲ受ケ其代價ヲ立替ヘテ買入レタルモ其立替金辨濟ノ満足ヲ得ル爲メ其買得物ニ付キ留置權ヲ行フコト得ヘキモ嘗テ預リタル物品アルヲ幸トシ之ヲ抑留シテ其留置權ヲ行ハントスルモ決シテ法律ノ許ス所ニ非ラス之ヲ要スルニ代理人カ留置權ヲ有スルハ

第一 代理ニ依リテ所持セシ物ナルコト

第二 債權者ト爲レル原因タル物ナルコト

ノ二條件ヲ具備セシ物ニノミ限ル是レ留置權ノ原則ノ然ラシムル所ナリ

第二百四十九條 數人カ唯一ノ證書又ハ各別ノ證書

ヲ以テ共同事件ノ爲メ代理ヲ委任シタルトキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ上ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕(一〇八) 本條ハ數人ノ委任者カ連帶シテ義務ヲ負フ可キノ原則ヲ設ケタルモノナリ

數人ノ委任者カ一人ニ對シテ代理ノ委任ヲ爲スコトアリ其各自異別ノ事件ニ付キ委任シタル場合ハ數人ノ間固ヨリ何等ノ關係ナシト雖モ

之ニ反シテ其數人カ一個ノ共同事件ニ付キ一代理人ヲ委任セシキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ前數條ノ義務即チ立替金費用及ヒ謝金其他ノ義務ヲ盡クサ、ル可カラス蓋シ前ニ記セシ如ク代理人ノ數人ナルトキハ第二百四十三條ニ依リ其間ニ連帶ヲ成サ、ルヲ以テ原則ト爲スト雖モ本條ハ該條ニ反對シテ連帶ヲ成スヲ以テ原則ト爲セリ但當事者カ反對ノ要約ヲ爲スハ固ヨリ其自由ニシテ豫メ連帶セサルノ契約アリシキハ之ニ從ハサル可カラサルナリ

〔論說〕(一〇九) 佛法ニモ本條ト同一ノ規定アリ數人ノ委任者ハ法律上連帶タルト爲セリ之ニ付キ說ヲ爲ス者アリ曰ク此規定ハ古法ノ遺物タルモノナリ蓋シ古法時代ニ於テハ代理ハ無償ヲ以テ本則ト爲セシモノナレハ双方間ニ利害ノ平均ヲ取テ爲メ委任者ノ責任ヲシテ代理人ヨリモ重カラシメタリ然ルニ今日ニ至リテハ法律上尙ホ無

償ヲ本則トスルモ實際ニ於テハ少シク重要ナル事務ヲ代理セシムルキハ一般ニ謝金ヲ附約スルノ慣習ト爲リタルカ故委任者ニ連帶義務ヲ負擔セシムルノ規定ハ今日ニ在テ全ク其謂ナキト爲レリ況ヤ代理人カ之ヲ欲スルヤ契約ヲ以テ自由ニ連帶ヲ要約シ得ルニ於テチヤト想フニ此非難ハ本條ニ付テモ同シク紛起ス可キナラン然ルニ佛法ノ下ニ於テ佛法ノ此規定ヲ辯護スル者ハ曰ク「代理ハ社會ニ利益アリテ日常必要ノモノナレハ法律ハ之ヲ行ハレ易カラシメンカ爲メ委任者ノ責任ヲ重クシ以テ代理人ノ地位ヲ安全ニシタルモノナリ」ト

此說必スシモ一理ナシトセス然レモ亦之ヲ價直アル立法的理由ト云フヲ得ス蓋シ本法ノ立法者カ前述ノ如キ非難アルニモ拘ハラス尙ホ佛法ノ跡ヲ襲ヒ以テ此規定ヲ爲セシハ之ニ異ナル他ノ理由ニ依リ

シモノ、如シ即チ委任者ハ人ニ勤勞ヲ爲サシムルモノナリト雖モ代理人ハ人ノ爲メ之ヲ爲スモノタルノミナラス委任者ノ共有物ニ於テ利益ニ關スル自己ノ部分ニノミ責任アルモノト爲サハ代理人ハ委任者相互ノ部分ニ付キ自カラ之ヲ探求シ且證明セサル可カラス是レ甚タ困難ヲ來スモノニシテ代理人ノ迷惑モ亦タ輕シトセス且時トシテハ此事アルカ爲メ代理ノ受諾ヲ妨碍スルニ至ラン是レ本條ヲ設ケシ所以ニシテ此點ヨリ論シ來レハ此規定モ亦タ未タ俄ニ非難スルヲ得サルナリ

第二百五十條 委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシ第三者ニ對シテ負擔シタル義務ノ責ニ任ス

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シ

タル事柄ニ付テモ亦其責ニ任ス

第一 委任者カ明示又默示ニテ代理人ノ行爲ヲ認諾シタルトキ

第二 委任者カ代理人ノ行爲ニ因リテ利益ヲ得タルトキ但其利益ノ限度ニ從フ

第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル正當ノ理由ヲ有シタルトキ

〔義解〕(一一〇) 本條ハ委任者ノ第三者ニ對スル義務ヲ規定シタルモノナリ

委任者ハ代理人ニ對シテ以上數條ノ義務アルノミナラス第三者ニ對シテ重要ナル義務ヲ負フモノトス他ナシ代理人ノ行爲ヨリ生スル義務ヲ第三者ニ對シテ履行ス可キコト是ナリ此事タル代理ノ代理タル

所以ノ本性ヨリ出ツル本然ノ結果ニシテ代理人ハ自己ノ爲メニ行爲スルモノニ非サレハ隨テ之ヨリ生セシ義務ヲ負擔ス可キノ理ナシ即チ委任者ノ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシモノニシテ代理人ノ所爲ハ即チ委任者其人ノ所爲ニ外ナラス故ニ此規定ハ寧ロ之レナキモ自カラ然ル可キモノタルナリ

此規定ノ適用ハ甚タ廣クシテ代理人ノ過失ニ至ルマテ尙ホ之ヲ及ホサ、ル可カラス蓋シ第三者カ代理人ト約束ヲ爲スハ代理人ヲ信用スルヨリモ寧ロ委任者ヲ信用セシカ爲メト云ハサルヲ得ス且過失アル代理人ヲ選任セシハ委任者自己ノ責ニ歸ス可クハナリ然ルニ委任者カ代理人ノ某所爲ハ其過失ニシテ余ノ與カリ知ル所ニ非スト主張スルカ如キコトアラハ不正ノ甚シキモノトス故ニ代理人ノ所爲ニ因リ第三者ニ對シテ義務ヲ負擔シタルトキハ縱令其所爲カ過失ニ出ツ

ルト雖モ委任者ハ自カラ第三者ニ對シ其義務ヲ履行セサル可カラス而シテ委任者カ代理人ヲシテ其損害ヲ賠償セシムルコトヲ得ルハ固ヨリ論ヲ竣タサルナリ此事タル本條ノ法文ノ明言シ及ハサル所ナレトモ法理上此ノ如クナラサルヲ得ス但代理人カ權限外ニ爲シタル事柄ニ付テハ第二項ノ規定ニ依ル可キナリ

(一一一) 代理人ニシテ若シ其委任セラレタル權限ヲ踰越シタルキハ彼レハ最早代理人タルモノニ非ス何トナレハ代理人ハ其委任セラレタル權限内ニ於テ他ヲ代表スルモノナレハナリ夫レ然リ既ニ代理人ト云フヲ得サラン歟委任者ハ其者ノ所爲ニ付キ關係ナキモノ故代理人ノ權限外ニ爲シタル事柄ニ付テハ委任者ハ其責ナク前段ノ如ク第三者ニ對シテ義務ヲ負フコトナキヲ原則トスルナリ然レモ亦タ其例外トシテ委任者ノ其責ニ任ス可キ場合三アリ

第一 代理人ノ行爲ハ權限外ナリシニ拘ハラズ委任者ノ欲スルニ於テハ之ヲ認諾スルコトヲ得ヘシ蓋シ認諾ハ其權限ノ欠缺ヲ補足スル所以ニシテ代理人ハ之ニ因リ其權限内ニ行爲シタルモノト看做サル、ナリ但此認諾ハ何等ノ方式又ハ條件ヲモ要セス又其明示ナルト默示ナルトヲ問ハス唯タ認諾ヲ爲セシコトノ明確ナルヲ以テ足レリトス認諾ヲ爲セシキハ權限外ノ行爲ハ變シテ權限内ノ行爲ト爲ルカ故委任者ハ其行爲ニ付キ第三者ニ對シテ責ニ任ス可シ而シテ確認ノ効力タル定説ニ於テハ既往ニ溯ルモノニシテ唯タ之ヲ以テ第三者ノ既得權ヲ害ス可カラサルモノナリ

第二 代理人ノ行爲ハ權限外ナリシニ拘ハラズ此ニ因リ委任者カ利益ヲ得タルキハ其利益ノ限度ニ於テ委任者カ其行爲ノ責ニ任セサル可カラズ是レ不當利得ノ原則ヨリ亦タ此ノ如クナル可キ所ニシテ利益ハ既ニ之ヲ得而シテ之ニ對スル義務ハ我レ之ヲ知ラスト云フカ如キハ法理ノ固ヨリ許ス所ニ非サルナリ例ヘハ委任者カ其田野ノ或ル部分ノ開墾ヲ委任シタルニ代理人カ更ニ多クノ部分ヲモ開墾シタルキハ其行爲ハ權限外ナリシト雖モ委任者ハ早晚此開墾ヲ爲ス可カリシモノナレハ爲メニ利益ヲ得タルモノト云ハサル可カラズ故ニ其開墾ニ從事セシ役夫ニ對シ賃錢ヲ支拂フノ義務ヲ免レス但委任者ハ其利益ノ限度ニ從フモノニシテ其不足額ハ代理人自カラ其責ニ任セサルヲ得サルナリ

第三 委任者カ或事ヲ委任シテ正式ノ委任狀ヲ與ヘ置キシニ他日ニ至リ更ニ其權限ヲ制限シ若クハ全ク廢罷セシモ其委任狀ヲ更正若クハ回收セス單ニ口頭又ハ書柬ヲ以テ其旨ヲ通シタルニ止マリシキノ如キ第三者ハ其委任狀ニ依リ代理人ニ云々ノ權限アリト信シ之ト約

東ヲ爲スナル可シ此場合ハ委任者ニ其委任狀ヲ更正若クハ回收セザリシ過失アリ而シテ第三者ニハ過失ナキカ故委任者ハ自己ノ過失ノ爲メ第三者ニ損害ヲ與フルコトヲ得スシテ必スヤ其義務ヲ履行セサル可カラス即チ第三者カ善意ニシテ代理人ニ權限アリト信シタルコト及ヒ之ヲ信スルニ正當ノ理由アリシコトノ二條件ノ具備スルキハ其責ニ任セサル可カラス但代理人ニ對シテハ其損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキ場合多カル可キナリ

第四節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ

代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙

ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス

第一 委任者ノ爲シタル廢罷

第二 代理人ノ爲シタル拋棄

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若ク

ハ禁治産

第四 委任者カ代理ヲ委任シ又ハ代理人カ之ヲ

受諾セシ原因タル資格ノ絶止

〔義解〕(一一二) 本條ハ代理終了ノ原因ヲ枚擧シタルモノナリ

代理モ亦第一ノ契約ナルカ故總テ契約ノ終了スル原因ニ因リ代理ノ終了ス可キヤ論ヲ竣タス即チ本條ニ列記セシ四號ノ原因ハ代理契約ニ特殊ナルモノニシテ其列記外ニ記セシハ普通ノ契約終了ノ原因タルモノナリ

普通ノ原因ニ付テハ殆ント茲ニ記スルノ必要ナシ然ルニ本條カ之ヲ記セシハ唯々人ノ記憶ヲ喚起センカ爲メタルニ過キス故ニ余モ亦

之ヲ略述スルニ止メシ

第一 代理ノ履行○契約ハ其履行ニ依テ終了スルハ固ヨリ當然ノ理ニシテ代理モ亦タ此カ爲メ終了スルハ説明ヲ俟ツ所ニ非ス而シテ其履行タル縱令多少其方法ヲ誤マリ若クハ委任ノ旨趣ヲ誤ルモ爲メニ代理人ニ損害賠償ノ義務ヲ生スルニ止マリ代理契約ハ直チニ終了ス可キヤ猶ホ正當ニ履行ヲ終リシト異ナルコトナシ

第二 代理履行ノ不能○代理ヲ履行セントスルモ能ハサルニ至リシト例ヘハ修繕ヲ委任セラレタル家屋ノ焼失シタルカ如キ、管理ヲ委任セラレタル物件ノ喪失シタルト如キ其代理ハ已ムヲ得スシテ終了ニ歸スルヤ論ナキノミ

第三 期限ノ到來○幾週、幾月間若クハ委任者ノ旅行中ト云ヘルカ如ク代理ニ期限ヲ付シアリシニ其期限ノ到來シタルトハ直チニ終了セ

ルモノトス

第四 條件ノ成就○代理ヲ將來ノ不確定ナル或ル事件ノ發生若クハ不發生ニ繫ラシメタルトハ其不發生若クハ發生即チ條件ノ成就ニ因リ終了ト爲ルナリ蓋シ此條件ノ停止ノ未必條件ニ非サルヤ言フ俟タス且此條件ハ解除ノ未必條件ニモ非サルモノトス何トナレハ解除ノ未必條件ハ其成就スルヤ代理ヲ解除スルノミナラス其効力モ亦タ既往ニ溯リテ此代理ニ基キ爲シタル一切ノ行爲ハ皆ナ無効ニ歸ス可シ此ノ如キ契約ハ當事者ノ思惟セシ所ニ非サルヤ固ヨリ明カナルカ故茲ニ所謂條件トハ普通ノ場合ニ於ケル右二種ノ未必條件ニ非スシテ單ニ代理終了ノ効果ヲノミ生ス可キ一種ノ條件タリト云ハサル可カラズ即チ此條件ハ殆ント一種ノ期限ニシテ其期限ト異ナルハ唯タ其發生ト否トノ未必ナル一點ニ在ルノミ

右四種ノ原因ハ普通契約終了ノ原因ノ適用ニ過キス而シテ此他尙ホ代理ニ特殊ナルモノ亦々四種アリ

（一一三）第一 委任者ノ爲シタル廢罷○委任者ハ何時ニテモ代理契約ヲ廢罷スルコトヲ得ヘシ而シテ廢罷ヲ爲セシキハ則チ代理ノ終了セシ時ナリトス凡ソ契約ハ當事者双方ノ合意アルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得サルハ一般ノ通則ナリ然ルニ代理ハ此例外トシテ委任者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得ヘシ蓋シ代理ハ概チ委任者ノ利益ノ爲メニノミ委任スルモノナレハ委任者カ代理人ヲ要セスシテ自カラ其事務ヲ管理シ得ルニ至リ若クハ其代理人ニ對スル信用ヲ減スルニ至リシキハ之ヲ廢罷シ得ルヤ當然ノコトナリ但此事ニ付テハ次條ニ依リ些ノ制限ナキニ非ス又廢罷ノ方法及ヒ効力等ハ後ノ規定ニ就テ之ヲ見ル可シ次條以下四條

第二 代理人ノ爲シタル拋棄○是レ亦々前號ト同シク普通ノ契約ノ効力ノ例外トシテ當事者ノ一方殊ニ義務者タル代理人カ隨意ニ其任ヲ拋棄シ得ルモノトス元來普通法ニ依ルモ爲スノ義務ハ義務者カ之ヲ拋棄スルモ權利者ノ爲メ其實行ヲ強ヒラル、コトナシ殊ニ代理ハ無償ノ場合ハ勿論謝金アル場合ト雖モ亦々全ク好意ヲ以テ勞務ヲ執ルモノナレハ自カラ其義務ヲ免レ得ヘキヤ言テ俟マス但此カ爲メ委任者ニ損害ヲ與ヘタルキハ場合ニ因リ賠償ノ責ニ任セサルヲ得サルナリ第二百五十六條

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若クハ禁治産○更ニ分テ之ヲ説述セン
死亡○代理人ニシテ死亡スレハ代理ヲ履行スル能ハサルヤ言テ俟マス又委任者ニシテ死亡スルモ死者ハ他人ニ因リ代表セラル、能ハサ

ルハ亦タ言テ俟タス且夫レ代理ハ双方ノ孰レニ於テモ相續人ニ移ル可キモノニ非ス何トナレハ委任者ハ代理人其人ヲ信用シテ之ヲ委任セシモノニシテ其信用ノ當然其相續人ニ移ルカ如キハ固ヨリアル可キトニ非ス即チ代理人カ好意ヲ以テ勞務ヲ爲スモ亦タ委任者其人ノ爲メニシテ其好意カ當然其相續人ニ移ルカ如キハ固ヨリアル可キトニ非サレハナリ

破産、無資力〇委任者カ破産又ハ無資力ニ陥リシキハ自己ノ財産ヲ管理スルノ權ヲ失ヒ隨テ其管理ニ付テ爲シタル代理ノ委任モ亦タ無効ニ歸セサルヲ得ス而シテ代理人カ此狀況ニ陥リシキハ同シク財産管理ノ權ヲ失ヒ隨テ他人ノ財産ヲ管理スルノ權モ亦タ管財人ニ移ルニ至ル可シ然ルニ委任者ハ其代理人ヲ信用シテ之ヲ委任セシモ管財人ニ對シテ信用アルヤ否ヤ必期シ難シ故ニ此場合ニ於テモ亦タ代理

ハ當然終了セサル可カラス

禁治産〇代理人カ禁治産ト爲リタルキハ前ト同一ノ理ニ因リ代理ハ當然終了ス而シテ委任者カ禁治産ヲ受ケタルキハ其財産管理ノ權ハ後見人ニ移ルカ故ニ委任者ハ代理人ヲ任スルノ權ナク又其必要アラズシテ從來ノ代理委任ハ消滅ニ歸セサル可カラサルナリ

第四 代理ヲ組成シタル資格ノ絶止〇委任者カ代理ヲ委任セシハ自己ノ或ル資格ニ依リシキ又ハ代理人カ代理ヲ受諾セシハ自己ノ或ル資格ニ依リシキニ於テ其資格ノ若シ絶止シタルキハ代理ハ當然終了スルモノトス是レ殆ント「原因止メハ效果止ム」ト云ヘル法語ノ適用ニシテ之ヲ例セハ委任者カ或ル會社ノ取締役ナルカ爲メ其會社ノ事務ヲ或ル人ニ委任セシニ己レ其取締役ヲ止メタルキハ其代理ハ當然終了ス可シ是レ其取締役タル資格ノ絶止ニ因リ代理ヲ委任スル權利ヲ

失ハハナリ代理人ニ於テモ亦タ此ノ如ク或ル人カ訴訟ヲ爲スノ代理
ヲ受諾セシハ己レ辯護士ナルカ爲メナリシニ既ニ其辯護士タル資格
ヲ失ヒシキハ其代理ハ固ヨリ終了ト爲ラサルヲ得サルナリ

第二百五十二條 委任者ノミノ利益ノ爲メニ委任セ
シ代理ノ廢罷ハ謝金ヲ諾約シタルトキト雖モ委任
者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(一一四) 本條ハ前條第一號ノ規定ヲ續釋シ且間接ニ其制限ヲ
示シタルモノナリ

夫レ代理契約ハ委任者ノ隨意ニ之ヲ廢罷シ得ルコトハ前條第一號ノ既
ニ明示シタル所ナリ蓋シ代理ハ概シテ委任者ノ利益ノ爲メニ委任セ
ルモノナレハ委任者カ其代理ヲ廢罷スルハ自己ノ利益ヲ拋棄スルモ
ノニシテ其有効ナルハ多言ヲ要セサルナリ

此ノ如ク委任者ノミノ利益ノ爲メニ委任セシ代理ハ何時ニテモ隨意
ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得ルモノニシテ此廢罷ノ權ハ謝金ノ諾約アル
カ爲メニ妨ケラル、モノニ非ス即チ縱令謝金ノ諾約アリシニモセヨ
謝金ナルモノハ元來代理人ノ爲ス勞務ノ報酬ニ過キサレハ委任者ハ
尙ホ隨意ニ其委任ヲ廢罷スルコトヲ得ルノミナラス之ヲ廢罷スルニ於
テハ其諾約セシ謝金ヲモ與ヘスシテ可ナリ尤モ謝金ハ勞務ノ報酬ナ
レハ其既ニ爲シタル勞務ニ應シテ之ヲ與フルハ固ヨリ必要ノコトマ
リ即チ代理ノ毫モ執行セラレサル前ニ之ヲ廢罷スレハ謝金モ亦タ毫
モ與ヘスシテ可ナレモ若シ執行其半ニ達セシキハ謝金モ亦タ其半額
ヲ與ヘサル可カラサルナリ
本條正面ノ旨趣ハ此ノ如キニ止マレリ然レモ其裏面ニ於テ明カニ代
理廢罷ノ權ヲ制限セルコトヲ見ル可シ即チ代理カ委任者ノミノ利益

ノ爲メニ設ケラレシモノナルキハ委任者ハ隨意ニ之ヲ廢罷シ得ルモ
 ノタリ依是觀之若シ代理カ此普通ノ場合ト異ナリテ委任者ノ利益ノ
 爲メタルト同時ニ併セテ代理人又ハ第三者ノ利益ノ爲メニ設ケラレ
 シモノナルトキハ最早委任者一己ノ隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス
 例ヘハ共同所有者ノ一人又ハ會社ノ社員ヲ代理人トシ其共有物又ハ
 會社ノ權利ニ關スル事件ヲ代理セシムルトキノ如シ其代理ハ雙方ノ
 利益ノ爲メタルモノナレハ若シ委任者ニシテ之ヲ廢罷セントスルヤ
 代理人ハ爲メニ利益ヲ害セラル、ニ至ルヲ以テ此廢罷ヲ拒ムコトヲ
 得ヘシ故ニ委任者カ隨意ニ代理ヲ廢罷シ得ルニハ委任者ノ^〇利益
 ノ爲メニ委任シタル代理ナル^〇一條件ヲ要スルモノト謂フ可シ

第二百五十三條 廢罷ハ將來ニ向ヒテノミ有効ナリ
 且其廢罷前ニ有効ニ爲シタル事柄ヲ害セス

〔義解〕(一一五) 本條ハ廢罷ノ効力ヲ規定セシモノナリ

廢罷ハ代理人ヲシテ委任者ヲ代表スルノ權利ヲ失ハシムルニ在リテ
 其効力ハ廢罷ヲ爲セシトキ以後ニ向テノミ生シテ既往ニ溯及ス
 可キモノニ非ス即チ廢罷前ニ有効ニ爲シタル事柄ハ此カ爲メニ其効
 チ失フコトナク唯ダ將來ニ向テノミ代理權ヲ失フニ過キサルナリ
 此規定タル殆ント法文ヲ要セサル自明ノ理ニシテ代理人ノ利益及ヒ
 適法ナル代理ヲ信用シ以テ之ト結約シタル第三者ノ利益ノ爲メニハ
 固ヨリ然ラサルヲ得サルナリ

第二百五十四條 數人ノ委任者アルトキハ其中ノ一

人ノ爲シタル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス

〔義解〕(一一六) 凡ソ代理ノ委任ハ委任者ノ利益タルコトハ常ニ然ル
 所ノ事實ニシテ數人ノ委任者ヨリ爲セシ委任ハ其數人ノ利益タルヤ

固ヨリ疑ヲ容レズ然ルニ今マ其中ノ一人カ廢罷ヲ爲スヤ從テ他ノ數人ノ代理モ亦タ終了スルモノト爲サハ一人カ他ノ數人ノ利益ヲ害スルノ結果ヲ生ス可シ而シテ一人ニ此ノ如キ不當ノ權利ナキハ明カナルコトナリ故ニ數人中ノ一人カ廢罷ヲ爲セハ其廢罷ノ効果ハ其一人ニ止マリ他ノ數人ノ代理ハ依然繼續シテ決シテ終了スルコトナシ蓋シ數人ノ委任者ハ各自連帶シテ代理人ニ對スル義務ヲ負フモノダリ第二百四十九條故ニ廢罷ノ効力モ亦タ他ノ數人ニ及フカ如キ感アリト雖モ然レトモ決シテ否ラス甲ノ廢罷ハ其代理人カ乙丙丁ノ代理人タルコト止ムル能ハス只タ甲ハ之ニ依リ乙丙丁トノ間ニ於ケル連帶ヨリ免カレ其代理人ニ對スル將來ノ義務ニ關係スルコトナキノミ

第二百五十五條 代理ノ廢罷ハ默示タルコトヲ得默示ノ廢罷ハ同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ

委任者ノ管理ノ回復其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ

〔義解〕(一一七) 代理ノ廢罷ノ明示ニ出ツルハ事實上最モ多キ所ダルト雖モ又默示タルコトヲ得ルヤ多言ヲ俟タサルナリ契約殊ニ代理契約ノ設定ノ如キモ尙ホ默示ヲ以テスルコトヲ得ルニ非スヤ況ンヤ其廢罷ヲヤ

默示ノ廢罷ハ其場合一二ニシテ止マラスト雖モ要スルニ委任ノ廢罷ト解スルヨリ他ニ解釋ス可カラサル事實アル場合ヲ云フ而シテ法文ハ其場合ノ二個ヲ例示セリ即チ一ハ既ニ一代理人ヲ委任セシ後ニ於テ其同一事件ニ付キ更ニ新代理人ヲ選任セシ場合ニシテ若シ其二人ヲ共ニ代理人トスルノ意ナルトキハ之ヲ舊來ノ代理人ニ告知シ且其二人ノ權限ヲ明定スル等ノ事アル可キニ其此等ノ事ナキハ則チ是レ

新代理人ヲ以テ舊代理人ニ換ヘシモノト看做サ、ル可カラス他ノ一
ハ委任者ノ管理ノ回復ノ場合ニシテ代理人ヲ委任シテ管理ヲ爲サシ
メ來リシニ委任者自カラ其管理ヲ爲シ始メタルキハ其代理人ハ最早
無用ノモノト爲リ廢罷セラレシモノト看做サ、ル可カラス即チ此二
個ノ場合ハ默示ノ廢罷ノ最モ較著ナルモノニシテ其他ハ此等ノ事情
ニ因リ之ヲ査定セシトテ要ス而シテ其査定即チ默示ノ廢罷ト看做ス
可キト否トニ付キ爭論アルニ方リ之ヲ査定スルハ結極裁判所ノ任ニ
歸ス可キナリ

第二百五十六條 代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セ
シメタルトキハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當
又ハ已ムヲ得サル原因ニ基キタルトキハ此限ニ在
ラス

代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(一一八) 本條ハ第二百五十一條第二號ノ規定ニ付キ更ニ之ヲ

詳定シタルモノナリ

凡ソ代理ハ委任者カ隨意ニ之ヲ廢罷シ得ルト同シク代理人モ亦々隨
意ニ之ヲ拋棄シ得ルハ第二百五十一條ノ既ニ明示セシ所ニシテ代理
人ハ委任者ニ損害ヲ生セシムルト否トヲ問フコトナク猶ホ其代理ヲ
拋棄スルコトヲ得ルナリ
然リト雖モ何人ニテモ自己ノ所爲ニ因リ他人ニ損害ヲ生セシメタル
者ハ之ヲ賠償セサル可カラサルハ一般ノ原則ニシテ代理人モ亦々其
代理ヲ拋棄シ得ルノ權能アルニモセヨ一旦引受タルモノヲ妄リニ
辭任シテ委任者ニ損害ヲ生セシメタルキハ其賠償ノ責ニ任セサル可
カラサルナリ

然レ此責任ハ多少ノ寛恕ヲ與ヘラル、モノニシテ代理人カ若シ自
己ノ便宜ニ因リ隨意ニ拋棄ヲ爲セシトキハ固ヨリ此責任ヲ負ハサル
ヲ得サルモ之ニ反シテ正當ナル原因又ハ已ムヲ得サル原因ニ基キテ
拋棄シタルトキハ縱令損害ヲ生セシムルモ之ヲ賠償スルヲ要セス例
セハ委任者カ必要ナル資金ヲ供セス又ハ一分ツ、辨濟ス可キ諾約ア
ル謝金ヲ辨濟セサルカ如キ又代理人カ重病ニ罹リ又ハ避ク可カラサ
ル重要事件ノ爲メニ遠行スルルキノ如キ是ナリ

第二項ハ固ヨリ當然ノ規定ダリ代理ノ廢罷ニ於テ既ニ此規定アレハ
其拋棄ニ於テモ亦之ナカル可カラス而シテ其默示ノ拋棄トハ亦
默示ノ廢罷ニ於ケルカ如ク之ヲ拋棄ト解スルヨリ他ニ解釋ス可カラ
サル事實アリシ場合ニシテ其委任ヲ履行スル能ハサルニ至ル可キ他
ノ事件ニ着手シ若クハ他ノ地ニ旅行スル等ノ事情ヨリ生スルモノナ

リ
第二百五十七條 代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テ

タルト代理人ヨリ出テタルトヲ問ハス當事者カ其
告知ヲ受ケタルカ又ハ確實ニ之ヲ知りタルトキニ
非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス
當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人
ヨリ告知スルコトヲ要ス

〔義解〕(一一九) 本條ハ委任者ト代理人トノ間ニ於テ代理ノ終了スル
時期ヲ定メタルモノナリ

代理ハ以上數條ニ述ヘ來リシ原因ニ由リ終了スルモノ故其原因ノ一
ヲ生シタルトキハ代理ハ直チニ終了シ當事者雙方ノ之ヲ知ルト知
ラサルトノ如キハ問フ可キ所ニ非サルカ如シ實ニ純理上ニ於テハ固

ヨリ然ラサルヲ得ス然レ此ノ如キハ徒ラニ純理ニ馳セテ實際ノ事
 宜ニ適セサルモノト云フ可ク法律ハ寧ロ實際ノ事宜ヲ重シ事實上
 當事者カ之ヲ確知セシキニ於テ終了ノ効ヲ生スルモノト爲セリ故ニ
 代理ハ代理人ト委任者トノ間ニ於テモ其終了原因ノ生セシトキニ終
 了スルニ非スシテ其之ヲ知リシキニ於テ終了スルモノトス
 此故ニ代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルト代理人ヨリ出テタル
 トニ論ナク其一方ハ之ヲ他ノ一方ニ告知スルヲ要ス廢罷モ亦然リ
 其明示ナルト默示ナルトニ論ナク委任者ハ之ヲ代理人ニ告知ス可ク
 拋棄モ亦タ代理人ハ之ヲ委任者ニ告知ス可シ即チ破産、無資力、禁治産
 若クハ代理ヲ受諾セシ原因タル資格ノ絶止カ委任者又ハ代理人ニ生
 セシトキハ之ヲ代理人又ハ委任者ニ告知ス可ク又當事者ノ一方カ死
 亡シタルトキハ其相續人ヨリ之ヲ他ノ一方ニ告知ス可シ而シテ其告

知アリタルキハ即チ代理終了ノキナリトス

然レ此告知ヲ怠リ又ハ之ヲ爲サ、ルモ他ノ一方ニシテ既ニ自カラ
 確實ニ其原因ノ生セシヲ知リタルキハ代理ハ告知ヲ待タスシテ之
 レト同時ニ終了ス可シ

之ヲ要スルニ代理ハ其終了原因ノ生セシヲ知リシキヲ以テ終了ス
 ルモノトス故ニ其告知ヲ受クシニ因リ知リタルト自カラ之ヲ知リタ
 ルトチ問ハス確實ニ之ヲ知リシキハ則チ終了スルモノナリ

然ラハ則チ代理終了ノ原因ノ既ニ生セシ後ニ至リテ代理人ノ爲シタ
 ル所爲ト雖モ若シ代理人ニシテ其事ヲ知ラザリシナランニハ委任者
 又ハ其代人ニ於テ此等ノ所爲ヲ己レニ擔任セサル可カラサルノ責ア
 リ而シテ此責ヲ免レンカ爲メ代理人ニ對抗スルニハ其事ヲ代理人ニ
 告知セシ旨若クハ他ノ事實ニ因リ代理人カ既ニ自カラ之ヲ確知セシ

モノナルヲ證明サル可カラス又代理人カ代理不履行ノ訴ヲ受ケシ
等ニ因リ委任者ニ對抗スルニ付テモ亦タ此ノ如キモノナリ

第二百五十八條 委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻

シタルトキト雖モ懈怠ナシニ代理ノ終了ヲ知ラス

シテ代理人ト約束シタル第三者ニハ代理終了ノ原

因ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

〔義解〕(二〇〇) 本條ハ第三者ニ對シテ代理ノ終了スル時期ヲ定メタ
ルモノナリ

委任者ト代理人トノ間ニ於テモ代理ハ其終了原因ノ當事者ニ知レタ
ルキニ非サレハ終了ノ効ヲ生セサルニ因リ委任者ト第三者トノ間ニ
於テハ只タ其代理終了原因ノ生スルヲ以テ足レリトセサルノミナラ
ス委任者ト代理人トノ間ニ於テ終了ノ効ヲ生スルモ仍ホ以テ足レリ

トセス即チ其第三者カ之ヲ知リシキニ於テ始メテ之ヲ有効トスルナ
リ

然リ而シテ第三者ニ其代理ノ終了ヲ知ラシメントセハ委任狀ヲ代理
人ヨリ取戻スヲ以テ捷徑トス蓋シ第三者カ代理人ト約束セントスル
ニ方リテハ先ツ其委任狀ヲ示サシメ以テ其代理權ノ在ルヲ知ラン
トスルハ其常ナリ故ニ委任者ニシテ委任狀ヲ取戻セハ第三者ハ其代
理人ノ代理權ナキヲ知リ得テ復タ紛争ヲ生スルノ憂ナカル可シ是
ヲ以テ委任者カ代理終了ノ後ニ至リ其代理人タリシ者ノ所爲ニ因リ
第三者ニ對シテ義務ヲ負フカ如キヲナカラント欲セハ宜シク首トシ
テ委任狀ヲ取戻サ、ル可カラサルナリ

然レモ委任狀ヲ取戻シタルニモセヨ第三者カ仍ホ其代理ノ終了ヲ知
ラス且其知ラサルハ之ヲ其懈怠ト云フヲ得サルヲナキニ非ス例ヘハ

代理人カ委任狀ヲ示シテ第三者ト取引ヲ始メシ後僅ニ數日ニシテ委任者カ突然其代理ヲ廢罷シテ委任狀ヲ取戻シタリトセシニ代理人カ惡意ヲ以テ第三者ト先キノ取引ヲ繼續シ遂ニ委任者ノ名義ヲ以テ約束ヲ取結ヒタリトセハ此場合ニ於ケル第三者ハ當初委任狀ヲ一覽シタルモノナルニ因リ其代理ノ終了ヲ知ラザリシハ之ヲ懈怠ト云フ可カラス又例ヘハ數年來常ニ一代理人ヲ委任シアリ爲メニ數年來常ニ其代理人ト取引シ來リタル第三者ハ今マ新メニ其代理人ト一ノ約束ヲ結ハントスルモ其委任狀ヲ見ント求ムルコトナカル可シ而シテ此カ爲メニ其代理ノ既ニ終了セシコトヲ知ラサルモ之ヲ懈怠ト云フ可ラス故ニ此等ノ場合ニ於テハ委任者ハ第三者ニ對シテ代理終了ノ原因即チ委任狀ヲ取戻セシ事實ヲ以テ對抗スルヲ得スシテ必ス該約束ニ因レル義務ヲ負擔セサル可カラサルナリ之ヲ約説スレハ代理カ第

三者ニ對シテ終了スルハ其第三者カ之ヲ知リシキニ在ルモノニシテ代理カ現ニ終了シ且委任狀ヲ取戻シタルニモセヨ「第三者カ其終了ヲ知ラサルコト及ヒ」之ヲ知ラサルハ其懈怠ニ歸ス可カラサルコト「二條件」ノ具備スルニ於テハ代理終了ノ原因ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス但此場合ニ於テハ委任者カ其第三者ニ對シテ約束ノ義務ヲ履行セルヨリ生シ損害ハ代理人ニ對シテ之ヲ賠償セシムルコトヲ得ルヤ噴々ヲ要セサルナリ

本條規定ノ旨趣ハ第二百五十條第三號ノ規定ト略同一ニシテ其立法ノ理由モ亦々相同シ故ニ彼此相參照センコトヲ要ス

第二百五十九條 代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一ニ由リテ終了セシトキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタル利益ヲ自ラ處理シ又

ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルニ
至ルマテ其利益ヲ處理スルコトヲ要ス
此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキ
ハ委任者ノ廢罷ニ因レルトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ
適用ス

〔義解〕(二〇一) 本條ハ代理終了ノ場合ニ於ケル代理人ノ義務ヲ規定
セシモノナリ

代理人ノ義務ハ代理ノ終了スルト共ニ消滅スルヲ當然トス然レモ委
任事件ノ完全ニ整頓完結セシニ因リテ代理ノ終了セシキノ外必ス多
少ノ殘務アルモノニシテ殊ニ時トシテハ其事件ノ依然繼續シテ處理
ヲ要スルトモアル可シ然ルニ代理人又ハ其相續人代理人ノ死亡ニ因
リ終了セシキハ相續人其任ニ當ル可シカ代理ノ終了ニ因リ遽然手ヲ

歛メテ一事ヲモ爲サ、ラン歟委任者又ハ其相續人ハ之カ爲メ其當サ
ニ得ラル可カリシ利益ヲ失ヒ若クハ不期ノ損失ヲ被フルコトアル可
シ故ニ代理人又ハ其相續人ハ代理カ如何ナル原因ニ由リテ終了セシ
ニ論ナク總テ其終了ノ場合ニ於テ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタ
ル利益ヲ自カラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得
ルニ至ルマテ其利益ヲ處理セサル可カラス是レ一タヒ代理ノ委任ヲ
受諾シタルヨリ生セシ結果タルノミナラス代理ハ既ニ好意的ノ行爲
ナレハ法律ハ其好意ヲ全フセンコトヲ命シタルモノナリ

代理人ノ此義務ハ代理終了ノ原因ノ如何ヲ問ハサルハ前述ノ如シト
雖モ若シ其終了ノ原因カ代理人ノ拋棄ニ在リシキハ其委任者ノ廢罷
ニ因ルキヨリモ一層嚴ニ此義務ヲ盡クサ、ル可カラス是レ拋棄ハ代
理人ノ隨意ニ出テシモノニテ委任者ノ意想外ニ出テタルモノナレハ

事理上嚴ニ此規定ヲ適用ス可キノミナラス其事タル委任者ノ豫期セサル所ナルヲ以テ委任者カ自カラ其事件ヲ處理シ若クハ新代理人ヲ選任シテ之ヲ處理セシムルニハ多少ノ時間ヲ費ス可ク彼ノ自カラ代理ヲ廢罷セシキノ如ク迅速且完全ニ其處理ヲ繼キ得ヘキニ非サルヲ以テ舊代理人ヲシテ暫ク其處理ヲ繼續セシムルノ必要ハ更ニ重且大ナルモノアル可クレハナリ

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

〔總説〕

(二〇二) 本章ハ佛法ノ所謂勞力ノ賃貸ナルモノニ付テ規定セシモノナリ抑、雇傭契約、習業契約及ヒ仕事請負契約ノ三者ハ一方カ其勞力又ハ勤勞ヲ賃貸シテ他ノ一方ヨリ賃銀ヲ受クルモノタリ故ニ學理上之ヲ勞力ノ賃貸ト稱スルモ不可ナシト雖モ然レモ普通ノ賃借權即チ有

躰物ニ係ル賃借權ハ本法ノ規定ニ依レハ其性質タルヤ物權ニ屬スルモノトス尤モ賃借人ハ賃貸人ニ對シテ大小修繕ヲ爲サシメ且第三者ヨリ收益ノ權利ニ付キ妨害又ハ爭論ヲ受クシキハ賃貸人ヲシテ之ヲ擔保シ又ハ損害ヲ賠償セシムル等ノ人權ヲ有セサルニ非スト雖モ其主トスル所ハ賃借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利即チ物權ニ在リトス然ルニ本章勞力ノ賃貸ニ至リテハ賃借人ハ唯々賃貸人ヲシテ勞務ニ服セシムルノ權即チ單純ナル人權ヲ有スルニ過キサルナリ故ニ普通ノ賃貸借ト此賃貸借トハ共ニ之ヲ賃貸借ト稱スルモ其間ニハ至大ノ差異アリテ存シ且其事項モ亦々全ク相近似セルモノニ非ス故ニ本法ハ之ヲ佛法ノ如ク二者ヲ同一章中ニ規定セス即チ彼ハ之ヲ財産編中ニ列シ此ハ茲ニ一章トシテ之ヲ特記ス是レ注意ス可キ所ナリ

第一節 雇傭契約

第二百六十條 使用人、番頭、手代、職工其他ノ雇傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

〔義解〕(二〇三) 本條ハ雇傭契約ノ何モノタルヲ示シ併セテ其解約ノ權利ヲ認メタルモノナリ

雇傭契約トハ一方カ他ノ一方ヨリ給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スル契約ヲ云フ故ニ或ハ使用人ト云ヒ番頭ト云ヒ或ハ手代、職工ト云ヒ

各、其名稱ヲ異ニスルモ皆ナ其性質ヲ同フスルモノナリ這般ノ契約ハ凡テ皆ナ雇傭契約ニシテ其人ハ即チ雇傭人タルモノトス然レモ醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ之ニ與カルモノニ非ス是レ後ノ規定ニ詳カナ

リ第二百六十條

此等ノ雇傭人カ其主人ニ供スル勞務ノ代償トシテ主人ヨリ受クル報酬ハ或ハ給料ト云ヒ或ハ賃銀ト云フ蓋シ其名ノ何タルニ拘ハラス年、月又ハ日ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ一个年幾十圓、一个月幾圓トシ若クハ一日幾錢トシテ定ムルモノナリ尤モ其年ニ因リ月ニ因ルト又ハ日ニ因ルトハ問フ所ニ非スシテ此カ爲メ毫モ差異アル結果ヲ生スルコトナシ殊ニ解約ノ權利ノ如キハ此カ爲メニ左右セラレ例ヘハ其給料ヲ一个年若干ト定メシ爲メ未タ其一个年ニ滿タサル間ハ解約ヲ得スト云フカ如キ結果ヲ生スルコトナク解約ノ權利ハ唯、第二項ノ規定ニ

從フ可キモノナリ

元來雇傭契約ハ人ノ自由ニ關スル契約ナレハ何時ニテモ之ヲ解除スルヲ得ヘク殊ニ主人ハ強テ雇傭人ヲ勞務ニ服セシムルヲ得サルナリ縱令豫メ一定ノ期間ヲ約シアルニモセヨ決シテ之ニ拘束セラレ、トナク何時ニテモ隨意ニ之ヲ解約シ得ヘキナリ

然レモ法律ハ亦タ此カ爲メ其契約ノ効力ヲ緩漫ニ流レシムルヲ欲セス即チ第二項ヲ以テ之ニ二段ノ制限ヲ施セリ

第一 雇傭ニ付テハ各地方ノ慣習ニ於テ其時期ノ定マリアルコト尠シトセス即チ我邦ニ於テハ現ニ或ル地方ハ十月ヲ以テシ又或ル地方ハ秋春二季ヲ以テ雇人又ハ解約ノ時期ト爲スノ慣習ナリ此等ノ場合ニ於テハ主人及ヒ雇傭人共ニ此時期ニ於テ解約スルコトヲ要スルナリ

第二 右ノ慣習ナキトキハ原則ニ從ヒ何時ニテモ相當ノ時間ニ於テ豫告ヲ爲シ以テ解約スルコトヲ得ヘシ然レモ此場合ハ豫告ヲ爲スノ外仍ホ二個ノ要件ヲ守ラサル可カラズ曰ク不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サ、ルコト曰ク惡意ニ出テサルコト是ナリ例セハ農業上ノ雇傭人カ耕耨若クハ收穫等ノ最モ繁忙ナル時期ニ於テ解約ス可カラサルノ類ニシテ且一方ヲ害セントスルノ惡意アル可カラサルハ言テ俟タサルナリ

然ルニ此制限タルヤ絶對的ノ効力アルモノニ非ス即チ前述ノ如ク此契約ハ既ニ人ノ自由ニ關スルモノナレハ法律ト雖モ亦タ此等ノ制限ヲ以テ其解約ヲ妨クル能ハス故ニ此制限タル必竟之ヲ守ラサレハ損害賠償ノ責ニ任スルノ結果ヲ生スルニ過キサレナリ

（二〇四）本條ノ番頭手代等ノ語ハ專ラ商業上ノ雇傭人ヲ稱スルモノ

、如シト雖モ其實之ニ反シ主トシテ民事上ノモノヲ之フナリ例ヘハ
農家ノ番頭手代ノ如シ蓋シ商業上ノ番頭手代等ハ固ヨリ雇傭人ニ外
ナラスト雖モ彼等ハ代務人及ヒ商業使用人ト云ヘル特別ノ名稱ヲ以
テ特ニ商法中ニ之カ規定ヲ設ケアリテ彼等ハ主トシテ該法ニ支配セ
ラル可シ故ニ本節ノ規定ノ如キハ專ラ民事ヲ目的トセルモノニシテ
商事上ニ適用スルコトハ甚タ稀ナリト知ル可シ但代務人及ヒ商業使用
人ト雖モ其該法ニ規定ナキ事項ニ至リテハ亦タ該法第一條ニ依リ之
ヲ本法ニ問ヒ以テ本節ヲ適用ス可キヤ亦タ論ナキナリ

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ使用人番頭手代ニ付
テハ五今年職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一今年ヲ超
ユルコトヲ得ス但習業契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨
ケス

此ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方
ノ隨意ニテ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲ス權
能ヲ妨ケス

〔義解〕(三〇五) 本條ハ雇傭ノ期間ニ制限ヲ附シタルモノナリ

雇傭契約ニハ必スシモ一定ノ期間ヲ豫メ設クルコトヲ必要トスルニ非
ス然レモ其期間ヲ果シテ約定セシニ於テハ之ヲシテ妄リニ長久ニ失
セシム可カラス即チ本條ニ之ヲ制限シテ使用人番頭手代ノ三種ハ五
今年職工其他ノ雇傭人即チ婢僕日雇人等ハ一今年ヲ其最長限トシ以
テ之ニ超ユルコトヲ得スト爲セリ而シテ習業契約ニ付テハ次節ニ其規
定アリテ之ト相關セサルナリ

若シ夫レ此ヨリ長キ時期ヲ約シタルトキハ如何只タ無効タル可キノ
ミ然レモ其全部ヲ無効トスルニ非スシテ其制限ヲ超過セル部分ノミ

ヲ無効トスルモノナリ故ニ使用人ト六ヶ年ノ期間ヲ約セシトキハ其
 一ヶ年ヲ削去シテ五ヶ年ニ短縮シ職工ト一ヶ年半ノ期間ヲ約セシキ
 ハ其半ヶ年ヲ削去シテ一ヶ年ニ短縮スルモノトス然レモ五ヶ年若ク
 ハ一ヶ年ノ期間ノ既ニ滿了セントスルニ際シ之ヲ更新シテ新ダニ五
 ヶ年又ハ一ヶ年ノ期間ヲ以テ雇傭契約ヲ爲スハ固ヨリ妨クル所ニ非
 サルナリ

抑、本條制限ノ理由タルヤ他故ナシ凡ソ人ノ自由ハ之ヲ他人ニ移付ス
 可キモノニ非ス然ルニ若シ終身間ノ雇傭契約ヲ結ヒシトキハ事實上
 自己ノ自由ヲ移付セルモノニシテ恰モ他人ノ奴隸ト爲リシト同一ノ
 結果タルヲ免レス是レ固ヨリ法律ノ許ス可キ所ニ非サルナリ且夫レ
 縱令終身間ニ非スト雖モ殆ント之ニ近キ期間ヲ約スルヤ事實上ノ結
 果モ亦タ前ニ異ナラサルナリ好シ此ノ如ク甚シキニ至ラスト雖モ十

年、十五年ノ長キ雇傭ノ約ヲ結ハシニハ其間或ハ一身上ノ都合ニ適セ
 サルコトアラフ或ハ意外ノ事情ノ爲メ主人ト雇傭人ト殆ント其地位
 ヲ換ユ可キ身分ヲ生シ其長久ノ契約ノ爲メ大ニ損害若クハ痛苦ヲ受
 クルコトナシトセス是レ固ヨリ其當事者カ當初ノ淺慮ニ出テシモノ
 ニテ法律カ此等ノ場合アラフコトヲ萬一ニ慮カリ以テ人ノ契約ノ自
 由ニ干渉スルハ甚ダ背理ノトタルカ如シ然リト雖モ法律ハ事實
 ノ支配者ニシテ理論ノ經典ニ非サレハ妄ニ理論ニ馳センヨリ寧ロ事
 實ノ情況ニ適應スルヲ必要トス即チ專ラ當事者ヲ保護センカ爲メ此
 制限ヲ設ケシモノニシテ殊ニ更新ヲ爲スノ權能ヲ認許セルニ於テハ
 當事者ハ此制限ノ爲メ利益ヲ受クルコトアルモ之ヲ過短トシテ不便
 ヲ感スルコトナカル可シ依是觀之此規定ハ理論上縱令多少ノ非難ア
 ルニモセヨ實際ニ於テハ利アリテ害ナキモノト云ハサル可カラサル

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且己ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

〔義解〕(二〇六) 雇傭契約ニ時期ヲ約定スルト否トノ自由ナルハ既ニ説キシ所ノ如シ而シテ其時期ノ約定ナキモノハ第二百六十條第二項ニ因リテ終了シ其時期ノ約定アルモノハ時期ノ滿了ニ因リテ終了スルヲ常トス然レモ縱令時期ノ約定アルニモモヨ雇傭契約ノ本質ハ必スシモ其時期ノ爲メニ拘束セラル、モノニ非ス即チ其定期前ニ於テ

モ亦タ終了ニ至ルコトナシトセス蓋シ何等ノ原因アリシニ非サルモ定期前ニ於テ何時ニテモ隨意ニ解約シ得ヘク唯其場合ニ於テハ解約者ハ其損害ヲ一方ニ賠償スルノ責ニ任セサルヲ得ス然ルニ定期前ナルニ拘ハラス當然契約ヲ終了セシメ仍ホ且損害賠償ノ責ナキ場合アリ本條ノ規定セシ所即チ左ノ二個ノ場合はナリ

第一 當事者ノ一方カ義務ヲ履行セサルモハ雙務契約ノ原則トシテ當然契約解除ノ原因タルモノナリ故ニ他ノ義務不履行ヲ原因トシテ契約ヲ解除セシ者ハ賠償ノ責ナシ然レモ其義務不履行ナリシ者ハ其不履行ヨリ生セシメタル損害ヲ賠償セサル可カラサルナリ
 第二 一方ヨリ出テタル正當ニシテ且己ムヲ得サル原因ノ爲メニハ又契約ヲ終了セシム可シ例ヘハ雇傭人カ他ニ一層利益アル契約ヲ爲サンカ爲メ此主人ニ對シテ解除ヲ請求スル如キハ決シテ己ムヲ得サ

ルノ原因ト云フヲ得サレモ其重病ニ罹リタルカ如キ又兵役ニ徵募セラレタルカ如キ場合ハ當然解除ノ權アリテ之カ爲メ一時ハ損害ヲ主人ニ與フルモ其賠償ヲ爲スヲ要セサルナリ尤モ此疾病ハ雇傭人ノ爲メニ正當ニシテ且已ムヲ得サル原因タルニモセヨ主人ノ爲メニハ否ラサルモノアリ即チ主人カ此疾病ニ罹レハ益々雇傭人ノ必要ヲ感スルアルモ之ヲ解除ス可キ理由アル可ラス尤モ其主人一人ノ爲メニ必要ナリシ車夫馬丁ノ如キハ主人カ車馬ニ乘シ得サルニ至リシ爲メ之ヲ解雇スルノ原因トシテ主人ノ疾病ヲ主張シ得サルヤ明カナリ但此ノ如ク其原因カ主人ヨリ出テシトキハ次條ニ從ヒ主人其償金ヲ與フルノ義務アルモノトス

（二〇七）右二個ノ原因ノ外更ニ一原因アリ主人ノ死亡即チ是ナリ一般ノ雇傭ニ在リテハ主人ノ死亡ハ雇傭契約解除ノ原因タラサルコト多シト雖モ特ニ主人ノ一身ニノミ關スル雇傭人ハ主人ノ死亡ノ爲メ之ヲ解雇セサル能ハス即チ前例ノ車夫馬丁ノ如キ又ハ單ニ主人一人ノ左右ニ奉侍シテ其一身上ノ庶務ヲ辨スル所謂執事ノ如キ又ハ女主一人ノ爲メニスル侍婢ノ如キ皆ナ然リトス然レモ執事ノ如キ又侍婢ノ如キハ單ニ主人一身ノ爲メニスルニ止マラスシテ其一家族ノ爲メノ使役ニ應スルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ主人一人ノ死亡ニ因リテ其雇傭契約ハ終了ニ歸ス可キモノニ非ス故ニ此等ハ事實上能ク注意區別セシムルヲ要スルナリ

第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ

主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セシムルコ

トヲ得

〔義解〕(二〇八) 本條ハ雇傭ヲ終了セシムル主人カ償金ヲ支拂フノ義務ヲ規定セシモノナリ
 雇傭ヲ終了セシムルニハ原因ノ有無ヲ問ハス又其原因ノ正否ヲ問ハスシテ之ヲ爲シ得ヘシ然レモ其原因ノ存セサルトキ若クハ其原因ノ正當ナラサルトキハ主人ト雇傭人トノ別ナク其終了ヲ爲サシメシ者カ他ノ一方ニ對シテ損害賠償ヲ爲サ、ル可カラス然レモ其原因ノ正當ナリシキハ前條ニ依リ當然解約ノ權アリテ雙方共ニ賠償ノ義務ナキヲ原則トス故ニ其正當ノ原因カ雇傭人ヨリ出テタルトキハ此原則ニ從ヒ雇傭人ハ何等ノ義務ヲ負フコトナシトス然ルニ若シ其原因カ主人ヨリ出テタルキハ本條ハ其場合ニ因リ主人ヲシテ償金ヲ支拂フノ義務ヲ負ハシメリ故ニ本條ハ例外ニ屬スル規定ニシテ法文之ヲ「損

害賠償」ト書セスシテ特ニ「償金」ト書セシハ其損害賠償ノ原則ヨリ來リシニ非サル例外法ナルカ爲メナリ
 雇傭ヲ終了セシムル原因カ主人ヨリ出テシキハ其原因ノ正當ナルニモセヨ若シ其地方ノ慣習ニ於テ其終了ノ時カ雇傭ノ季節ニ投合セス爲メニ該雇傭人ハ他ニ新主人ヲ求メテ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル可キ時期ナルニ於テハ主人ハ相當ノ償金ヲ付與シテ其困難ヲ救済セサル可カラス是レ社會ノ實況ト人情トヨリ參酌シ來リシ温厚ノ規定ト云フ可キナリ
 夫レ此規定カ損害賠償ノ原則ニ於ケル例外法タルコトハ既ニ述ヘシカ如シ然ルニ此規定ハ之ニ加フルニ仍ホ一種例外的ノ點アリ即チ主人ト雇傭人トニ區別シ特ニ主人ニ付テノミ此義務ヲ命セシコト是ナリ蓋シ主人カ雇傭人ヲ傭入ル、ハ縱令慣習上ニ於ケル雇傭ノ季節ナラ

サルニモセヨ亦決シテ困難ヲ感セサルヲ常トス而シテ雇傭人カ其主人ヲ求ムルハ之ニ反シテ其季節ニ非サレハ甚々困難ナルヲ常トスルハ社會ノ實況ナリ故ニ其季節ニ非スシテ雇傭人カ解約ヲ爲スヤ主人ハ爲メニ損害ヲ受クルノ少キモ主人ヨリシテ解約ヲ爲セシトキハ雇傭人ノ迷惑タル甚々大ナリ是ニ於テ乎雇傭人ニハ償金ヲ出スノ義務ヲ命セサルモ主人ニハ特ニ之ヲ命スルノ必要アリ且夫レ人ヲ使役スル者ト人ニ使役セラル、者トノ資産ノ差異アルハ固ヨリ大ニシテ且主人ハ雇傭人ヨリ突然辭シ去ラル、モ其迷惑ハ言フニ足ラス而シテ雇傭人ハ主人ヨリ突然解雇セラルレハ其正當ニ依頼セル唯一ノ生活方法ヲ失却スルモノニシテ其困難頗ル憫ム可キモノアリ是ニ於テ乎又主人ニハ特ニ償金ヲ付與スルノ義務ヲ負ハシム可キ必要アリ即チ人情上社會ノ實況上此必要アリ是レ本條立法ノ理由ナリトス

償金ノ額ハ雙方ノ合致ナキハ裁判所之ヲ査定ス可シ而シテ之ヲ査定スルニハ實際ノ事情ニ從ハントヲ要ス即チ雇傭ノ季節ヲ距ルノ遠近其雇傭人ノ技術上新主人ヲ得ルノ難易及ヒ其他ノ事情是ナリ

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ賃銀ノ取越過額ヲ返還ス

〔義解〕(二〇九) 主人ノ死亡ハ其雇傭ノ主人ノ一身ニ關スル場合ノミニ限リテ契約ヲ終了セシムルモノナレモ雇傭人ノ死亡ハ之ニ反シテ其場合ノ如何ヲ問ハス凡テ契約終了ノ原因タルモノトス是レ固ヨリ多言ヲ俟テ知ル所ニ非サルナリ而シテ雇傭人ノ既ニ死亡スルヤ縱令其契約ヲ繼續セント欲スルモ亦々其途ナキヲ奈何セン此ノ如キ人ノ自由ニ關スル契約ノ其相續人ニ移轉セサルハ既ニ普通ノ原則タルナ

啻ニ然ルノミナラス此場合ハ其死亡カ定期前ニ在リト雖モ相續人ハ
償金又ハ損害賠償ヲ支拂フノ義務ナシ何トナレハ死亡ハ正當ニシテ
且已ムヲ得サル原因中最モ確著ナルモノニシテ其雇傭人ヨリ出テシ
キハ償金ヲ付與スルノ限ニ在ラサレハナリ

然レモ給料又ハ賃銀ヲ前借シアリテ仍ホ取越過額ニ屬スルモノハ相
續人之ヲ返還セサル可カラス是レ亦タ至明ノ理ナリトス

第二百六十五條 上ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ
藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭契約ニ
之ヲ適用ス

〔義解〕(二一〇) 本條ハ本節ヲ適用ス可キ範圍ノ及フ所ヲ示シタルニ
過キサルナリ

座元興行者即チ角力、演劇、音曲其他ノ技藝、遊戲ヲ公衆ニ觀覽セシメ
トスル共歡場及ヒ娛游場ノ營業人ハ其營業ヲ商取引ト看做サレ商法第五
條第五號商法ノ支配ヲ受クルモノナレモ此等ノ營業人ニ對シテ技藝、遊戲
ヲ供スル角力、俳優、音曲師其他ノ藝人カ其營業人即チ座元興行者トノ
間ニ取結ヒタル契約ハ其藝人ニ取リテヤ純ラ民事タルモノニシテ而
シテ民事ノ契約中又本節ノ所謂雇傭契約ニ屬スルモノトス何トナレ
ハ是レ其公衆ノ觀覽ニ供ス可キ技藝、遊戲ヲ座元興行者ニ供給セルモ
ノニシテ亦タ一種ノ勞力ノ賃貸ニ外ナラサレハナリ
故ニ此契約ハ純然タル一般ノ雇傭契約トハ稍、其趣ヲ異ニスルカ如シ
ト雖モ亦タ之ヲ雇傭契約ニ非スト云フヲ得ス即チ此契約ニ付テハ本
節ノ規定ヲ適用スルコトトシ茲ニ之ヲ明示シテ疑惑ナカラシムルナ
リ

然ルニ此雇傭契約ハ何種ノ雇傭契約ニ屬ス可キヤノ點ニ付テハ甚々決シ難キモノアリ其「使用人、番頭、手代」ノ一ニ屬スルモノトセハ五ヶ年ノ制限ニ從フ可ク又之ヲ「職工、其他ノ雇傭人」タリトセハ一ヶ年ノ制限ニ從フ可キノ差異アル結果ヲ生スレハナリ然レモ角力、俳優等ノ藝人ノ使用人、番頭、手代若クハ職工ニ非サルハ殆ント疑ヲ容レサルカ故余ハ第二百六十一條ノ法文中「其他ノ雇傭人」トアルニ包含スルモノトシ一ヶ年ノ期間ニ從ハシムルヲ至當ナリト信ス其他ノ場合ニ於テモ亦タ此ノ如ク論斷セハ蓋シ大過ナカラズ歟

第二百六十六條

醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人

ト爲ラス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諾約シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、訴訟人又ハ生

徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諾約ヲ得タル後其世話ヲ受クル責ニ任セス

然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得

此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒絕シタル者ハ其拒絕ヨリ此等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諾約シタル後、正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絕シタル者ハ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

〔義解〕(二一一) 本條ハ本節ヲ適用ス可キ範圍ノ限ル所ヲ示シタルモノナリ

學藝教師トハ學術、技藝又ハ美術等ノ教師ヲ云ヒ職業上ノ知識經驗ヲ傳授スル者ハ焉レニ與カラス何トナレハ彼ハ次節ノ習業契約ニ屬スルモノナレハナリ

夫レ醫師、辯護士及ヒ學藝教師ト其患者、訴訟人又ハ生徒トノ關係ハ契約即チ民法上權利關係ヲ生ス可キ契約ナリヤ若シ然リトセハ其契約ハ何種ノ契約ニ屬スヘキヤトハ歐洲各國ニ於テ最モ議論アル問題ノ一タルナリ或者ハ之ヲ代理契約ナリト云ヒシト雖然レハ辯護士ハ暫ク措キ醫師、學藝教師ノ代理人ニ非サルハ疑ヲ容レサルナリ而シテ或者ハ又之ヲ普通ノ勞力ノ賃貸即チ雇傭契約ナリト云ヒ又或者ハ之ヲ無名契約ナリト云ヘリ然ルニ本條ハ悉ク此等ノ說ヲ斥ケ茲ニ一種新

創ノ斷案ヲ掲ケタリ

本條ハ斷シテ此等ノモノヲ雇傭契約ニ非スト爲シ且更ニ一步ヲ進メテ何等ノ契約ニモ非ス即チ法律上契約トシテ見ル可キモノニ非スト爲セリ

蓋シ契約ナルモノハ一個ノ法鎖トシテ當事者雙方ヲ羈束シ之ヲシテ其權利義務ヲ履行セシムルノ強制力アルモノナリ尤モ爲不爲ノ義務ニ至リテハ人ノ自由ニ關スルカ故ニ法律ト雖モ實際其履行ヲ強制スルコトヲ得サルモ若シ實際其履行ナキニ於テハ直チニ之ニ與ヘテ損害賠償ノ義務ヲ生ス可キニ因リ契約ノ契約タル所以ハ毫モ損スル所ナシ然ルニ醫師、辯護士又ハ學藝教師ト患者、訴訟人又ハ生徒トノ間ハ果シテ此ノ如キ法鎖ニ羈束セラル可キモノナリヤ又其世話ヲ與ヘス若クハ之ヲ受クルヲ拒ミタルトキハ作爲義務ノ不履行トシテ直チ

ニ損害賠償ノ義務ヲ生ス可キヤト云フニ彼等雙方ハ互ニ此ノ如キ強制力ヲ以テ相羈束ス可カラサルモノアリ然ラハ則チ之ヲ契約ト云フヲ得サルヤ知ル可キノミ

彼等雙方ハ何カ故ニ其世話ヲ與ヘ若クハ受ケシムルコトニ付テ強制力ヲ以テ相羈束スルコトヲ得サルヤ是レ他故ナキナリ即チ醫師カ一タヒ患者ニ治療ヲ施サンコトヲ諾シ而シテ將サニ治療ニ着手セントシ若クハ既ニ着手セル時ニ至リ當初ノ診斷ハ誤謬ニシテ己レ其病症ヲ明カニスル能ハス若クハ其技術ノ及ハサルコトヲ悟リ若クハ患者又ハ其親族ノ自己ニ對スル信用ノ減殺セシコトヲ發見シタリトセヨ此場合ニ於テ其醫師ハ當初ノ受諾ニ羈束セラレ其治療ヲ施シ又ハ之ヲ繼續スルコトヲ強ヒラル可キ歟又之ヲ強ユルチ患者ノ利益ト爲ス可キ歟固ヨリ萬此理アル可キニ非サルナリ而シテ患者モ亦タ一タヒ某醫師

ニ依頼セシモ後之ニ對スル信用ヲ減シ若クハ其治療ヨリ一層痛苦ヲ加フルノ徵アリトセシニ猶ホ其治療ヲ受クルコトヲ廢止ス可カラサル歟固ヨリ萬此理アラサルナリ

辯護士ノ訴訟人ニ對シ又訴訟人ノ辯護士ニ對スルハ恰モ亦タ此ノ如シ即チ正當ナリト信シテ擔任セシ訴訟事件ノ不正當ナリシコト若クハ自己ノ力ニ及ハサルコトヲ發見セシ等ノ事由ノ爲メ其擔任ヲ辭セントスル辯護士ニ對シ法律ハ其擔任ヲ強ユ可カラサルノミナラス寧ロ之ヲ辭スルノ容易ナランコトヲ勉メサル可カラス其訴訟ノ正當ナラサルコトヲ發見シテ之ヲ拋棄セントシ若クハ一タヒ依頼シタル辯護士ヲ信用セス新タニ他ノ辯護士ニ依頼セントスル訴訟人ニ對シテ法律ハ汝カ當初ノ受諾ニ因リ汝ハ既ニ依頼セシ辯護士ニ反對スルヲ得スト宣告スルコトヲ得ヘカラサルヤ亦タ甚タ明カナリ

學藝教師ト生徒トノ間モ亦々此ノ如シ

果シテ然ラハ醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ其世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務アルモノニ非ス又患者、訴訟人及ヒ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諾約ヲ得タル後其世話ヲ受クル責ニ任ス可キモノニ非ス即チ雙方共ニ當初ノ諾約ニ羈束セラル可キモノニ非サルナリ更ニ之ヲ換言スレハ此等雙方ノ關係ハ法律上強制ノ効ヲ生スル所謂契約ナルモノ、成立スルモノニ非ス是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ

夫レ然リ既ニ一方カ世話ヲ與ヘス若クハ他ノ一方カ世話ヲ受ケサルモ爲メニ損害賠償ノ義務ヲ生スルコトナシ縱令第三項、第四項ニ因リ此義務ヲ生スルアルモ彼ノ契約ノ當然ノ効果タル損害賠償ノ義務ハ之ヲ生スルコトナシ是レ又第一項ヨリ推理ス可キ斷案ナリトス

(一一二) 彼等雙方カ世話ヲ與ヘ又ハ受クルコトハ法定ノ義務ニ非サルハ第一項ノ既ニ明記セル所ナリ故ニ醫師、辯護士等カ實際世話ヲ與ヘタルトキニ於テモ彼ハ法定ノ義務ヲ履行セシモノト云フヲ得ス隨テ患者、訴訟人等カ其世話ニ對シ謝金又ハ報酬ヲ與フ可キコトヲ豫メ約定シアリタリト雖モ亦々其合意ヨリスル法定ノ義務トシテ之ヲ與フルコトヲ強ヒラル可キモノニ非サルナリ然ラハ則チ實際世話ヲ與ヘタルトキ其醫師、辯護士等ハ其謝金又ハ報酬ヲ要求スルコトヲ得サル歟

曰ク否ナ固ヨリ之ヲ要求スルノ權利アリ唯々當初ノ諾約ノ効力ニ因リテ之ヲ要求シ得サルノミ別ニ之ヲ要求シ得ヘキ所以ノ原因二種アリ

蓋シ醫師、辯護士等ハ其患者ヲシテ輕癒セシメ其訴訟人ヲシテ勝訴ヲ

得若クハ一層至大ナル可キ敗訴ヲ免レシメ其生徒ヲシテ學識ヲ得タル爲メ或ル職業ヲ行フニ堪ユ可キモノト爲ラシメシ等金錢ニ査定シ得ヘキ利益ヲ得セシメタリトノ理由ニ因リ其謝金又ハ報酬ヲ要求スルヲ得ヘシ

又縱令此等ノ利益ナカリシトスルモ其世話ヲ與ヘタル爲メ時間ト勞務トヲ費シタル損害ノ補償ヲ理由トシテ其報酬ヲ要求スルコトヲ得ヘシ

然リ而シテ此要求タル合意ノ効力ニ因ルニ非スシテ右ノ二原因ニ因ルモノナレハ其謝金又ハ報酬ノ金額ハ合意ノ約定額ニ依ルヨリモ寧ロ先ツ相互ノ分限ト慣習トヲ酌量シ合意ト相参照シテ之ヲ査定センコトヲ要ス而シテ相互ノ分限トハ其醫師、辯護士又ハ教師ノ著名ナルト否ト其業務ノ繁忙ナルト否ト其平生受クル所ノ謝金又ハ報酬ノ多額

ナルト否トヲ見一方ニ於テハ其患者、訴訟人又ハ生徒ノ貧富及ヒ其受ケタル世話ニ因リ得タル利益ノ多少即チ治療ノ程度、訴訟ノ勝敗又ハ生徒ノ教育ニ因リテ得ヘキ利益ノ如何等ヲ見ルニ在ルナリ

《二一三》 屢述ヘシ如ク彼等雙方ハ世話ヲ與ヘ又ハ受クルコトノ諾約ニ背キテ之ヲ與ノ義務ナキカ故其世話ヲ與ヘ又ハ受クルコトノ諾約ニ背キテ之ヲ與ヘ又ハ受クルコトヲ拒絕スルモ彼等ハ其義務ノ不履行ナルノ故ヲ以テ損害賠償ノ責ヲ負フノ理ナシ然レトモ何人ト雖モ自己ノ所爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ之ヲ賠償スルノ責アリトハ法律上ノ原則ニシテ彼等ハ此原則ノ爲メ損害賠償ノ責ヲ負フヲ免レサルコトアル可シ例ヘハ患者カ其治療ヲ醫師ニ乞ヒシ爲メ其醫師ハ他ノ患者ノ治療ヲ拒絕シタリシニ其後ニ至リテ該患者カ其治療ヲ受クルコトヲ拒絕セシキハ醫師ハ他ノ患者ヲ拒絕セシ損害ヲ該患者ノ爲メニ受ケ

シモノト謂フ可シ又之ニ反シテ辯護士カ某訴訟事件ヲ擔任スルヲテ
諾約セシニ後俄ニ之ヲ拒絶スルアラハ該訴訟人ハ始メニ他ノ辯護士
ヲ拒絶シ今マ又新ニ他ノ辯護士ヲ依頼スルヲ得ス且此カ爲メ出訴遅
延シテ訴權ヲ失フ等ノ損害ヲ受クルコトナシトセス凡ソ此等ノ損害
タル皆ナ他ノ一方ノ爲メニ生シタルモノナレハ合意ノ効力トシテハ
主張スル能ハサルモ前掲ノ原則ニ依リ他ノ所爲ノ爲メニ被フリシ損
害トシテ其賠償ヲ要求スルハ固ヨリ爲シ得ヘキ所ナリ實ニ彼等ノ關
係カ雇傭契約其他何等ノ契約タルニ拘ハラズ第三、第四、二項ノ規定ア
ルハ即チ此カ爲メタルノミ

第一節 習業契約

[總說]

(二一四) 習業契約トハ第二百六十七條ニ明示セル如ク工業人、工匠又

ハ商人カ師匠又ハ親方トシテ習業者ニ自己ノ職業上ノ智識ト實驗ト
ヲ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スルノ契約ニシテ一方ノ傳授ノ
勞ニ報ユルカ爲メ他ノ一方ハ勞務ニ助力スルモノナレハ之ヲ勞力ノ
交換ト稱シテ可ナルナリ

故ニ此契約ハ雇傭契約等ノ勞力ノ賃貸ト差異アルモノ、如シト雖モ
然レモ仔細ニ考察シ來レハ其性質ハ同一ナリト云フノ不可ナルナキ
ヲ知ル可シ何トナレハ勞力ト賃銀即チ貨幣ト相交換スルモ又勞力ト
勞力ト相交換スルモ其間理論上區別ス可キモノニ非サルハ猶ホ彼ノ
賣買契約カ交換契約ノ一變態タルニ過キサルト一般ナレハナリ本節
ヲ以テ雇傭契約等ノ勞力ノ賃貸ト同シク共ニ一章ノ下ニ列セシハ即
チ此カ爲メダリ況ヤ此契約ニ於テモ習業者カ謝金トシテ金額ヲ其師
匠又ハ親方ニ供與シ又ハ師匠若クハ親方カ習業者ノ習業ノ成就セル

ニ方リ之ニ金額ヲ給付スルコト少カラスシテ此場合ハ其外形ニ於テモ亦タ純然タル勞力ノ賃貸ト爲ルニ於テチヤ

我邦ニ於テハ商工業實際ノ慣習ニ於テ此習業契約ハ最モ多ク行ハル、所ナリ即チ彼ノ所謂年期奉公ナルモノハ殆ト盡ク此契約ニ該當スルモノニシテ而シテ其師匠又ハ親方ト習業者トノ間ハ殆ト親族ノ如ク德義的關係ヲ成シ互ニ相敬愛スルコト歐米各邦ノ遠ク及ハサル所タリ故ニ此契約ニ關スル規定モ亦タ數多ノ條章ヲ要スルコトナシ然レトモ師匠又ハ親方ト習業者トノ地位、勢力ニ至大ノ強弱アリ且習業者ノ弱齡殊ニ多クハ未成年ナルヤ法律ハ多少此カ保護ノ規定ナカル可カラス本節ノ設定豈其要ナシト謂ハンヤ

第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ傳授

シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スルヲ約スルコトヲ得

未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ得ス

〔義解〕(二一五) 本條ハ習業契約ノ何モノタルヤヲ示シ併セテ未成年者自カラ此契約ヲ結フノ能力ナキコトヲ規定シタルモノナリ 習業契約トハ工業又ハ商業ニ關スル職業上ノモノニシテ其學藝ノ範圍ニ屬スルモノハ前節末條ノ規定ニ從フ可キヲ以テ此點ハ先ツ注意區別セサル可カラス夫レ然リ故ニ習業契約ハ工業人、工匠又ハ商人カ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ習業者ニ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スル約束ニシテ雙方共ニ義務アリ且其義務ヲ以テ互ニ相代償

スルモノトス即チ習業契約ハ雙務契約ニシテ有償契約タリ其契約證書ハ二通ヲ作ル可ク其他總テ雙務契約及ヒ有償契約ニ關スル規定ニ從ハサル可カラサルナリ

習業契約ヲ取結フ所ノ習業者ハ未成年者ナルコト多シ故ニ之ヲシテ自カラ契約ヲ取結ハシメハ大ニ不利益ノ結果ヲ受クルノ恐アリ即チ法律ハ他ノ場合ニ於ケルヨリモ殊ニ此カ保護ノ規定ヲ要スト爲シ以テ特ニ第二項ヲ設ケリ是ニ於テ乎未成年者ハ其父後見人ノ保佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ之ヲ取結フコト得ス若シ其父又ハ後見人ノ存セサルモ若クハ其不在中ナルモ則チ其他ノ人ニテモ未成年者ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ヲ以テ足レリトスルナリ

第二百六十八條 合式ニ保佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時期ヲ

超ユルコトヲ得ス但習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

〔義解〕(二一六) 本條モ亦タ前條第二項ト同シク未成年者ヲ保護スル規定ニシテ未成年者ノ爲メ取結ヒタル契約ノ期間ヲ制限シタルモノナリ

未成年者カ自己一人ニテ取結ヒタル契約ハ固ヨリ無効タリ而シテ其父又ハ後見人等ノ合式ノ保佐又ハ名代ニ依リ取結ヒタル習業契約ト雖モ亦タ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス縱令之ヨリ長キ期間ヲ約シアルモ其成年ニ達シタルモハ當然無効タル可キモノトス蓋シ成年ニ達スルヤ最早自己ノ職業ヲ選ミ又ハ其師匠又ハ親方トス可キ人物ヲ選ムノ能力アリ既ニ此能力ヲ得タルニ拘ハラズ仍ホ其未成年中ニ他人ノ保佐又ハ名代ニ依リテ取結ハレタル契約ニ拘束セラ

ル、コト、爲サハ其不利不幸タル固ヨリ言テ須マス是レ此規定アル所以ナリ然リ而シテ未成年者カ成年ニ達セシトキ自カラ其契約ヲ以テ利益ナリトセハ之ヲ更新シテ或ハ多少修正シ或ハ其儘ニ繼續シテ其期間ヲ伸長スル等ノ事ハ固ヨリ爲シ得ヘク敢テ法文ヲ俟チ始メテ知ル所ニ非サルナリ

第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性

質及ヒ廣狹ヲ定ム

習業契約ノ不備ハ師匠又ハ親方ノ其職業ヲ行フ地

方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルコトヲ得

〔義解〕(二一七) 習業契約ヲ取結フ者ハ其契約ニ於テ成ル可ク詳細明確ニ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ヲ定ムルコトヲ要ス何トナレハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ハ一ニ其當事者間ニ成レル契約其

モノヲ以テ憑準トスレハナリ

凡ソ何種ノ契約ト雖モ義務ノ性質及ヒ廣狹ハ當事者間ニ成レル契約ニ從ハサルモノナシ故ニ當事者カ其契約ヲ以テ之ヲ定ム可キハ普通當然ノコトニシテ本條カ習業契約ニ付キ特ニ之ヲ明記シタルハ頗ル無用ナルカ如シ然レトモ習業契約ノ性質上然ラサルヲ得サルモノアルナリ元來賣買契約ノ如キ貸借契約ノ如キ代理、雇傭其他多クノ有名契約ハ其當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹自カラ一定シ而シテ當事者間ノ契約ハ唯其一定ノ範圍内ニ於テ多少ノ伸縮變動アルニ止マリ甲乙間ノ賣買契約ト丙丁間ノ賣買契約トハ涇渭全ク異ナルカ如キコトアルニアラス然ルニ習業契約ニ至リテハ大ニ之ニ反シ其義務ノ性質及ヒ廣狹ハ無限ニ變易スルモノニシテ甲乙間ノ習業契約ヲ以テ丙丁間ノ習業契約ヲ例推スルヲ得ス戊己間ノ習業契約ハ又丙丁間ノモ

ノト全ク相異ナルコト多シ是レ特ニ本條ヲ設ケ當事者ヲシテ詳カニ之ヲ約定セシメント欲スル所以ナリ

然レトモ當事者ノ契約ハ到底完備ナラサルコト多ク其不備ノ點ハ即チ爭訟ノ源タラントス故ニ此不備ハ別ニ之ヲ補完スルノ途ナカル可カラズ即チ師匠又ハ親方カ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ヲ以テ之ヲ補完シ契約ノ不備ナル點ハ其慣習ニ從フ可キモノナリ

第一百七十條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ衣食及ヒ職業ノ器具ヲ與ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル

師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學フコトヲ得セシムル爲メ必要ナル時間ヲ與

ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス
未成年ノ習業者カ未タ算筆ヲ知ラサルトキハ師匠又ハ親方ハ何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ爲メ休憩時間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ與フルコトヲ要ス

〔義解〕(二一八) 本條ハ特ニ習業者ヲ保護スル爲メ師匠又ハ親方ノ特別ノ義務ヲ定メタルモノナリ

當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ハ當事者間ノ契約ニ從ヒ且其不備ハ慣習ヲ以テ之ヲ補足ス可キモノナレトモ亦タ其事ノ甚タ重要ニシテ之ヲ當事者ノ契約又ハ慣習ニ放任ス可カラサルモノアリ即チ本條ヲ以テ師匠又ハ親方ノ主要ナル義務ヲ定メ次ノ二條ヲ以テ習業者ノ主要ナル義務ヲ定メタリ

師匠又ハ親方ハ一般ノ義務トシテ習業者ヲ養ヒ四季相應ノ衣服ヲ與ヘ且無賃ニテ職業上必要ノ器具ヲ貸與ス可キノミナラス小遣錢ヲ與フル等其他日常ノ使用ヲ足ラシムルヲ要ス然レモ此義務ハ法律上必要ノモノニ非ス若シ反對ノ合意又ハ反對ノ地方慣習アルモ其合意又ハ慣習ニ從フ可キナリ

第二項ハ師匠又ハ親方ノ最モ主要ナル義務ニシテ合意又ハ慣習ニ於テモ實際之ニ反對スルコトナキヲ要スルノミナラス此義務ハ殆ント習業契約ノ一要素タルモノニシテ之ヲ除キテハ復タ習業契約ナルモノナシト云フモ不可ナキナリ蓋シ習業契約ノ目的ハ習業者カ職業ヲ學ビ得ルニ在リ故ニ之ヲ學ビ得セシムルカ爲メニハ師匠又ハ親方ハ此レニ必要ナル時間ヲ與ヘ此レニ必要ナル世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ與ヘサル可カラス其如何ナル方法ヲ以テス可キヤハ其職業ノ種

類其家ノ事情及ヒ其場合ノ如何ニ因リ各同シカラスシテ茲ニ之ヲ詳定スルコトヲ得ス當事者間ノ契約ト雖モ亦タ豫メ之ヲ詳定スルコトヲ得ス唯タ師匠又ハ親方ハ善意ヲ以テ十分ニ此義務ヲ盡クス可キノミ

且夫レ師匠又ハ親方ハ此ノ如ク其目的タル職業ノ修習ヲ得セシムルノミナラス未成年ノ習業者ニシテ未タ算筆ヲ知ラサル者ニハ其修習ノ爲メ特ニ時間ヲ與ヘサル可カラス蓋シ讀書習字及ヒ算術ハ普通學中最モ必要ノ科目ニシテ何人ト雖モ何種ノ職業ノ者ト雖モ凡テ知ラサル可カラサルモノナレハ縱令習業契約ノ目的以外ト雖モ之ヲ修習スルヲ得セシムルヲ要ス啻ニ然ルノミナラス縱令其契約ニ於テ反對ノ合意アリト雖モ仍ホ之ヲ得セシメサル可カラサルナリ然リ而シテ之カ爲メニハ休憩時間ノ外ニ於テ毎上一時間以上ヲ與フ

ルコトヲ要ス師匠又ハ親方ハ習業者ヲシテ自己ノ勞務ヲ助力セシムル時間ヲ慳ムカ爲メニ或ハ休憩時間ヲ利用シテ之ニ供セシメントスルアルモ此ノ如クノハ休憩時間ニ休憩スルヲ得スシテ爲メニ其健康ヲ害スルニ至ラン否ラスンハ全然休憩シ了リテ算筆ノ修習ハ之ヲ怠ルニ至ラン故ニ其時間ハ必ス之ヲ休憩時間外ニ與ヘサルヲ得サルナリ

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ

關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スル

コトヲ要ス

〔義解〕(二一九) 本條及ヒ次條ハ共ニ習業者ノ義務ヲ規定セシモノナリ

本條モ亦タ前條第二項ノ師匠又ハ親方ニ於ケルト同シク習業者ノ主

要ナル義務ニシテ習業契約ノ本質上ヨリ來リ之ヲ除キテハ他ニ習業契約ノ存立ヲ見サルモノナリ

夫レ習業者ハ師匠又ハ親方ヨリ其職業上ノ知識實驗ノ傳授ヲ受クル報償トシテ日々ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供セサル可カラス是レ其師匠又ハ親方ヨリ受クル勞力ニ交換スルニ自己ノ勞力ヲ以テスルモノニシテ若シ此義務ヲ怠レハ雙務契約ノ原則トシテ契約解除ノ原因ヲ爲スモノナリ

然ルニ此義務トシテ供ス可キ時間及ヒ勞務ハ其習ハント欲スル職業ニノミ關スルモノニシテ其職業以外ノ事務即チ家内ノ雜務其師匠親方又ハ其家族ノ一身上ノ用務等ニ付テハ習業者ハ之ニ奔走勞動スルノ義務アルニ非ス是レ大ニ注意ス可キ所ナリ尤モ其職業ニ附屬セル雜務ニ至リテハ縱令其職業ノ修習ニ關スル利益ナキト雖モ亦タ其

勞務ヲ執ラサルヲ得ス例ヘハ其職業上ノ賣物ヲ送達スルカ如キ其代
 金又ハ手間賃ヲ受取リニ行クカ如キ職業ノ注文ヲ聞キ又ハ製作物ヲ
 持チ行クカ如キ又或ハ工場若クハ店頭ノ整理洒掃ヲ爲スカ如キノ類
 ニシテ此等ハ一般ノ慣習上殆ント習業者ノ義務ニ屬スルノミナラス
 習業者ノ爲メニモ亦タ直接間接ニ多少習業上ノ利益タルコトアル可
 シ故ニ習業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス唯タ師匠又ハ親方タル者妄リニ
 之ヲ濫用ス可カラサルノミ

第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其
 他不可抗ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ
 供スルコト能ハサルトキハ習業者ハ其成年ニ達シ
 タル後ト雖モ習業契約ノ期限滿了後ニ於テ前契約
 ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足

スルコトヲ要ス

〔義解〕(二二〇) 本條ハ前條ノ結果タルモノニシテ習業者既ニ前條ニ
 因リ日々ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルノ義務アルモノナ
 レハ若シ疾病等ニ因リ實際其勞務ヲ供スル能ハサリシトキノ如キ他
 日之ヲ補償セサル可カラサルハ前條ノ實効ヲ收ムル爲メ當サニ然ル
 可キ所アリ故ニ實際勞務ヲ供セサリシトキハ他日習業契約ノ期限滿
 了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ其休業シタル時間ヲ補
 足セサル可カラス法文其成年ニ達シタル後ト雖モ「トアルハ第二百六
 十八條ノ規定アルカ爲メニ殊更記載セシモノニテ未成年者カ成年ニ
 達スレハ從來ノ契約ヲ廢棄シ若クハ更新シ得ルヲ原則トスレモ本條
 ノ場合ニ於テハ以前ノ義務ノ爲メニ束縛セラレサル能ハス且前契約
 ニ於ケル相互ノ條件ヲモ更新スル能ハス之ヲ換言スレハ前契約カ其

儘ニ當然延長スルト同一タルモノナリ
 然レモ此義務ヲ生スルハ其休業ノ一个月以上引續キタリシ場合ニ限
 ルモノニシテ其一个月以内ナリシモハ其時間ノ僅々タルヤ法律ハ特
 ニ之ヲ寬恕スルモノナリ
 又此義務ヲ生スルハ其休業カ自己又ハ親屬ノ疾病其他不可抗ノ原因
 ニ由リシトキニ限ルモノニシテ其原因ノ自己ニ出テシコト及ヒ不可
 抗力ニ出テシコトノ二條件ヲ要ス何トナレハ其原因カ師匠又ハ親方
 ニ出テシトキハ習業者カ義務ヲ缺キシニ非ス又其原因ノ不可抗力ニ
 出テシニ非スシテ習業者ノ放肆又ハ怠慢等ニ出テシトキハ直チニ義
 務ノ不履行トシテ契約ヲ解除セラル可ク契約延長等ノ必要ナクハ
 ナリ

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然

終了ス

- 第一 師匠親方又ハ習業者ノ死亡
- 第二 師匠親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役
- 第三 師匠親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三个月ヲ
超ユル禁錮ノ處刑
- 第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ滿了

〔義解〕(三二一) 本條ハ習業契約ノ法律上終了ノ原因ヲ定メタルモノ
ナリ

習業契約ノ終了スルニ二種ノ原因アリ一ハ契約其モノカ自然ニ終了
スルモノニシテ之ヲ法律上ノ終了ト云ヒ他ノ一ハ裁判所ノ解除ノ宣
告ニ因リ終了スルモノニシテ之ヲ裁判上ノ終了ト云フ若シ前者ヲ喚
ソテ單ニ終了ト云ハ、後者ハ則チ單ニ解除ト稱ス可シ而シテ本條ハ

其前者ヲ規定シ其後者ハ次條ニ之ヲ規定セリ
茲ニ終了原因ノ各個ニ付テ略說セシ

第一 死亡○師匠親方又ハ習業者ノ孰レタルヲ問ハス其一方ニシテ死亡スルヤ契約ノ當然終了ス可キハ言テ俟タス蓋シ習業者ノ死亡セシ場合ハ勿論師匠又ハ親方ニシテ死亡スレハ其工業又ハ商業ノ多クハ止息スルヲ以テ習業契約モ亦タ終了セサルヲ得ス縱令否ラストスルモ此契約タル元來其師匠タリ又ハ親方タル人ノ一身上ノ知識技倆ヲ目的トシテ取結ヒタルモノナレハ其死亡ハ契約ノ目的ヲ失却セシムルモノナリ

第二 陸海軍ノ現役○當事者ノ一方カ陸海軍ノ現役ニ服スルトキハ實ニ事實上契約ヲ履行スル能ハサルノミナラス此ノ如キ國家ニ對スル公ノ義務ノ爲メニハ私ノ契約ヨリ生スル義務ハ固ヨリ消滅セサル

ヲ得ス而シテ此現役タル其徵集ニ因ルモノト志願ニ因ルモノトヲ問フコトナシ是レ法文ニ於テ其區別ナク且法理上ニ於テモ貴重ナル兵役ノ爲メニハ這般ノ特權ナカル可カラス況ンヤ習業契約ノ義務ヲ免ル、カ爲メニ兵役ヲ志願スルカ如キハ萬有ル可カラサルノ事タルニ於テチヤ

第三 處刑○既ニ處刑ヲ受ケテ一身ノ自由ヲ失フニ於テハ(縱令永遠ニ非サルニセヨ)習業契約ヲ履行セント欲スルモ亦タ能ハス是レ其終了ノ原因タル所以ナリ蓋シ單ニ處刑ト稱スルモ彼ノ財産刑ノ如キ身躰ノ自由ヲ失ハサルモノ及ヒ其自由ヲ失フモ時間甚タ短少ナルモノニ至テハ之ニ依リ契約ヲ終了セシムルノ要ナシ故ニ本條ハ之ヲ重罪又ハ三個月ヲ超ユル禁錮ノ處刑ニ限リタリ然リ而シテ此原因ニ由ル終了ハ原因ヲ爲セシ者即チ受刑者其人ノ過失タルヲ以テ當事者ハ此

終了ニ因ル損害ノ賠償ヲ其者ニ要求スルヲ得ヘシ是レ法理上當サ
ニ然ル可キ所ニシテ現ニ次條ノ末項ハ之ヲ明示セリ尙ホ次條第
四號參照

第四 期間ノ滿了○契約ノ期間滿了スルヤ其契約ノ終了スルハ固ヨ
リナリ而シテ習業契約ニハ合意上ノ期間アルノミナラス又法律上ノ
期間アレハ其期間ノ滿了セシキ即チ習業者カ成年ニ達セシトキハ亦
タ當然終了スルモノナリ第二百六
十八條

第二百七十四條 左ノ原因アルトキハ解除ノ利益ヲ
得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解
除ヲ宣告スルコトヲ得

第一 相互ノ義務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由
ルトキモ亦同シ

第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル

取扱

第三 習業者ノ平常ノ不品行

第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠親方又ハ習
業者ノ犯罪

第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方
ノ轉居

本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方
ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ尙ホ其
損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ク

前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

〔義解〕(三二二) 本條ハ解除即チ裁判上ノ終了原因ヲ規定セシモノナ
リ

法律上當然ノ終了タラサルモノト雖モ裁判所ノ判定ヲ乞ヒ解除ノ宣告ニ因リテ契約ヲ終了セシム可キモノアリ此場合ハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ヨリ之ヲ裁判所ニ請求ス可キモノトス其原因五個アリ

第一 義務ノ不履行○當事者ノ一方カ義務ヲ履行セサルトキハ雙務契約解除ノ原因タルコトハ一般ノ原則ニシテ此解除ハ裁判所ノ宣告ヲ要スルコト亦タ一般ノ法則タリ然リ而シテ苟モ義務ノ不履行アルヤ必ス此結果ニ歸スルモノニシテ其不履行ノ原因ノ過失懈怠又ハ不可抗力ニ在ル等ハ固ヨリ問フ所ニ非ス換言スレハ不可抗力ニ因ル場合ト雖モ亦タ解除ノ原因タルモノニシテ唯タ此場合カ他ノ不履行ノ場合ト異ナル所ハ損害賠償ノ義務ヲ生セサルニ在ルノミ

第二 師匠又ハ親方ノ苛遇○師匠又ハ親方カ習業者ニ對シテ暴行ヲ

加ヘ過度ニ勞働セシメ又ハ食料ヲ十分ニ給セス又縱令教戒ノ爲メニモセヨ妄リニ鞭笞苛責スル等總テ苛酷ナル取扱ヲ爲ストキハ解除ノ原因タルヤ言ヲ俟タサルナリ然レトモ苛酷ト云ヒ否ラスト云フ其事固ヨリ一定ノ限度アルモノニ非サレハ此場合ノ如キ習業者ヨリ之ヲ裁判所ニ請求セサル可カラス

第三 習業者ノ不品行○習業者カ一回又ハ數回ノ不品行アルモ此ヲ以テ俄ニ契約ヲ解除スルニ足ラサルナリ然レモ若シ其不品行カ平常ノ慣行タルニ於テハ一ニハ師匠又ハ親方ニ對スル義務ヲ怠ル可ク又一ニハ其習業ノ功ヲ奏ス可キ望ヲ絶ツニ至ルヲ以テ師匠又ハ親方ヨリ解除ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但所謂不品行トハ道德上ノ不品行ヲ云フモノニシテ其法律上ノ匪行アルニ於テハ本號ヲ要セス次號若クハ前條第三號ニ依リ解除又ハ終了タルモノナリ

第四 犯罪○當事者ノ一方カ重罪又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑ヲ受ケシトキハ前條ニ因リ當然契約ヲ終了セシム可ク其事態縱令此ノ如ク重大ナルニ非スシテ其處刑是ヨリ輕キトキト雖モ苟モ法律上ノ犯罪ヲ爲セシ者ハ師弟殊ニ殆ント親子ノ觀アル此習業契約ノ繼續ヲ強ユ可カラサルニ因リ亦タ解除ノ原因タリトス而シテ本號ニ犯罪ト記シ前條ニハ處刑ト記セシハ少シク注意セサル可カラス即チ處刑ハ現ニ刑ノ宣告アリシ場合ニシテ犯罪トハ未タ宣告アラサルモ又宣告スル能ハサルニ至リタルモ亦タ斯ク稱スルヲ得ヘシ故ニ重罪又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑ヲ受ク可キ場合ト雖モ其未タ宣告アラサル場合ニ於テハ之ヲ法律上ノ終了トセスシテ本號「犯罪」ノ名義ニ因リ裁判上ノ解除ヲ求メサル可カラス何トナレハ事態如何ニ重キモ未ダ其處刑ノ宣告アラサルトキハ法律上ニ於テハ其事實未確ノモノタル

ヲ免レサレハナリ

第五 師匠又ハ親方ノ轉居○師匠又ハ親方カ契約ヲ履行ス可キ土地外ニ轉居セシキハ習業者モ亦タ之ニ隨行ス可ク隨テ其契約履行ノ地カ契約ニ因リ定メシ土地ト異ナルニ至ルノミナラス習業者ハ其家族又ハ保證人ノ居住スル土地ト離隔シ多少ノ損害ナキ能ハス故ニ習業者ハ其契約ノ解除ヲ請求スルヲ得ルナリ

《二二三》右五種ノ原因中其一アルキハ解除ヲ請求シ得ヘキノミナラス若シ原因カ一方ノ過失ニ歸ス可キトキハ其過失アル者ハ他ノ一方ニ對シテ損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ク可シ是レ普通ノ原則ヨリ來ル結果タリ即チ第一號ノ過失ニ因ル不履行者第二號ノ師匠又ハ親方第三號ノ習業者第四號ノ犯罪者ノ如キハ勿論前條第三號ノ處刑者モ亦タ然リトス

第三節 仕事請負契約

第二百七十五條

工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事

ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ爲スノ合意
ハ注文者ヨリ主タル材料ヲ供スルトキハ仕事ノ請
負ナリ若シ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供ス
ルトキハ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナリ

〔義解〕(二二四) 本條ハ仕事請負契約ノ何モノタルヲ示シ併セテ之ニ
近似セル契約ヲ示セルモノナリ

夫レ仕事請負契約ハ雇傭契約ト共ニ同シク勞力ノ賃貸ナリト雖モ二
者決シテ混一ス可カラサルモノアリ即チ雇傭契約ハ日月年等ノ如キ
勞力ノ時間ヲ以テ其賃銀ヲ定ムルモノナレトモ仕事請負契約ハ則チ
否ラス或ル仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ爲ス可キ合意

ニシテ其仕事ノ難易及ヒ時間ノ長短ノ如キ實際如何ナルニ關セス豫
メ一定ノ代價ヲ以テ之ヲ爲スモノニシテ而シテ其仕事ノ全部ヲ完成
ス可キ場合ト其一分ノミヲ成就ス可キ場合ト又其代價モ全部ニ付テ
定ムルト其一分ツ、例ヘハ數尺又ハ量等ニ付テ定ムルトハ關スル所
ニ非ス蓋シ所謂仕事請負契約トハ世俗ニ謂フ所ノモノト異ナル所ナ
キナリ

然レトモ詳ニ之ヲ觀レハ亦タ異ナル所ナシトセス從來世俗ニ謂フ所
ノ仕事請負契約ハ其仕事ニ用ユル材料ヲ注文者ヨリ供セシト請負人
ヨリ供セシトヲ區別スルコトナキノミナラス後者ノ場合寧ロ甚タ多シ
トス然ルニ本法ハ劃然二者ヲ區別シテ單ニ前者ノミヲ仕事請負契約
ト爲シ後者ハ之ヲ條件付ノ賣買トシ以テ前者ト別視シタルカ故本法
ニ於テハ工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ

豫定代價ニテ爲スノ合意ニシテ注文者ヨリ主タル材料ヲ供セシモノ
之ヲ仕事請負契約ト云フナリ

仕事トハ主トシテ土木其他ノ建築、工作、田園ノ耕耨、樹木ノ栽植若クハ
伐採等ヲ云フモ寫字、翻譯、計算等ノ業ニ至ルマテ總テ之ヲ包含ス是レ
法文、工技又ハ勞力……ト廣汎ニ記セシ所以ナリ

《二二五》 仕事請負契約ニハ其仕事ニ要スル材料ヲ注文者ヨリ供セシ
場合ナラサル可カラス若シ夫レ其材料ヲ請負人自カラ供セシトキハ
其契約ハ最早仕事請負契約ニ非スシテ一種ノ賣買即チ仕事ヲ爲ス可
キ條件附ノ賣買タリ例ヘハ工匠カ自カラ木材ヲ出シテ家屋ヲ建築シ
器具ヲ製造シ又織工カ自カラ絹糸ヲ出シテ織物ヲ調製スルカ如キ皆
ナ其製作物ノ賣買タルモノナリ
此賣買タル固ヨリ單純ノ賣買ニ非ス又其材料ト勞力トヲ併セタル賣

買ニ非ス即チ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ニシテ若シ其仕事カ合意
ノ如ク完成セサルキハ即チ賣買ハ條件ノ成就セサルカ爲メ其成立ヲ
得サルモノナリ

此場合ヲ單純ノ賣買ト爲サスシテ條件附賣買ト爲セシニ付テハ損失
ノ負擔ニ關スル至大ノ利害アリ即チ此場合ニ仕事ハ未ダ成就セスシ
テ其材料ノ滅盡毀損シタルアラノニ之ヲ單純ノ賣買トスレハ其材料
ノ損失ハ注文者ノ負擔ニ歸ス可シ何トナレハ單純ノ賣買ニ於テハ其
材料ノ選定アリシト同時ニ所有權ハ注文者ニ歸シ隨テ其損失ハ所有
者ニ歸ス可ケンハナリ然ルニ此ノ如キハ當事者雙方ノ意思ニ非ス而
シテ之ヲ條件附賣買トスレハ其損失ハ材料ヲ供シタル請負人ニ歸ス
可シ其利害ノ相反スル此ノ如シ亦タ以テ注意セサル可ケンヤ
然ルニ此材料タルヤ單ニ或ル一方ヨリ供セスシテ雙方ヨリ幾分ツ、

供スル場合少カラス此場合ハ之ヲ仕事請負契約トス可キ歟將々之ヲ
條件附賣買トス可キ歟他ナシ其材料ノ主從如何ニ因リ以テ之ヲ區別
ス可キノミ即チ雙方ノ材料中注文者ノ供セシモノカ其仕事ノ主タル
材料タルモハ之ヲ仕事請負契約トシ請負人ノ供セシモノカ其仕事ノ
主タル材料タルトキハ之ヲ條件附賣買トス可キナリ

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル一箇ノ場合ニ於テ
物ノ全部又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ
意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其物ノ滅失セシト
キハ材料ノ滅失ハ其材料ノ屬スル者之ヲ負擔シ請
負人ハ仕事ヲ損失ス
當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタル
カ又ハ引渡若クハ受取ニ付キ遲滯ニ在ルトキハ其

一方ノミ材料及ヒ仕事賃ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但
損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス
請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失
又ハ單一ナル毀損カ物ニ其價額ノ半以上ヲ失ハシ
ムルトキハ之ヲ全部ノ滅失ト同視ス又其減價カ半
以下ニ在ルトキハ財産編第四百十六條第四百十九
條第三項及ヒ第四百二十條ノ規定ヲ適用ス
注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ滅失又
ハ毀損ノ後存在スル材料ノ部分ノ増價シタル限度
ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スル責ニ任ス

〔義解〕(二二六) 本條ハ前條二個ノ場合ニ於ケル損失負擔ノ事ヲ規定
シタルモノナリ

仕事請負契約タル場合ト仕事ヲ爲ス可キ賣買タル場合トニ論ナク其契約ノ目的タル物ノ全部又ハ一分ノ滅失セシ場合ニ於テ其損失ハ何人カ之ヲ負擔ス可キ乎其滅失カ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ在リ且滅失ノ原因カ意外ノ事又ハ不可抗力ヨリ出テタルトキニ限り其材料ノ滅失ハ材料ノ屬スル者カ之ヲ負擔シ其仕事質ハ請負人之ヲ損失スルモノトス故ニ材料ヲ注文者ヨリ供セシトキハ注文者カ其材料ノ滅失ヲ負擔シ又請負人ヨリ供セシトキハ請負人カ其材料ノ滅失ヲ負擔ス是レ物ハ所有者ノ爲メニ滅盡ス^トノ原則ヨリ來リシモノナリ然レモ若シ其滅失ノ原因カ右ニ異ナリテ當事者ノ一方ノ所爲ニ出テシトキハ其一方ノミ材料及ヒ仕事質ニ付キ全ク其滅失ヲ負擔ス可キヤ辯テ俟タサルナリ縱令其滅失カ一方ノ所爲ニ原因セサルモ若シ請負人カ其物ノ引渡ヲ爲スニ付キ既ニ遲滯ニ在リシトキハ請負人ノミ

全部ノ滅失ヲ負擔ス可ク若シ注文者カ其物ヲ受取ル^トニ付キ既ニ遲滯ニ在リシトキハ注文者ノミ全部ノ滅失ヲ負擔ス可シ而シテ此等ノ場合ニ於テハ總テ其滅失ヲ負擔スル一方カ他ノ一方ニ向テ滅失ヲ負擔スルノ外更ニ其損害ヲ賠償セサル可カラサルナリ

《二二七》右本條二項ハ滅失ノ負擔者ヲ規定セシモノナルカ第三項第四項ハ其一分ノ滅失ノ場合ニ付キ滅失ノ計算法ヲ規定シタルナリ蓋シ請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一ナル毀損アリテ全部ノ滅失ニ非スト雖モ若シ此ニ因リ其物カ價額ノ半以上ヲ失フ^トハ法律ハ之ヲ全部ノ滅失ト看做シ而シテ注文者カ之ヲ負擔ス可キ場合ニ於テハ其材料全部ノ代價ヲ拂ヒ且仕事質ノ全部ヲ拂フ可キモノトス是レ殆^トノ全キハ全キト看做ス^トノ法語ニ從ヒ以テ其細密ナル計算ヲ爲スノ煩ヲ除キタルモノナリ

然レモ之ニ反シテ若シ其減價カ半以下ニ在ルトキハ殆ント無キハ無キト看做ストノ法語ニ從フコナク單ニ之ヲ一分ノ減失トシテ其各場合ニ因リ或ハ財産編第四百十六條ヲ適用シ或ハ同第四百十九條第三項ヲ適用シ又或ハ同第四百二十條ヲ適用スルモノトス然ルニ若シ其材料ヲ注文者ヨリ供シタル場合ノ如キ全部ノ減失ニ付テハ前ノ規定ニ從フ可キモ其一分ノ減失又ハ毀損ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ後多少其材料ノ存在シ而シテ其存在スル部分カ其材料トシテノ價額ヨリハ之ニ工事ヲ加ヘシ丈多少其價ヲ増加ス可キニ因リ其増價シタル限度ニ從ヒテ注文者ヨリ仕事賃ヲ辨濟ス可キモノトス是レ注文者ハ其仕事ニ因リ現ニ多少増價ノ利益ヲ得タルモノナレハ之レカ賠償ヲ爲サスシテ其利益ヲ得有ス可キノ理アラサレハナリ

第二百七十七條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ

於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ實行セサル可キトキト雖モ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルコトヲ得此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコトノ遲滞ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危険ノ責ヲ免カル
 仕事中ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取りタリト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付遲滞ノ以前ニ滅失シタルトキハ注文者ハ既成ノ仕事ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スコトヲ得ス

〔義解〕(二二八) 凡ソ仕事請負契約ハ其仕事ノ全部完成セシキヲ以テ引渡ス可キモノニシテ一分宛既成ノ仕事ヲ引渡スカ如キコナキヲ常トス然ルニ其仕事ノ區域甚タ廣ク其竣功ノ期限甚タ長キ等ノ場合ニ於テハ各種ノ便宜上ヨリシテ其仕事ノ成就スルニ從ヒ一分宛之ヲ引渡サント欲スルハ實際ノ情況タリ故ニ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ實行セサル可キト雖モ亦タ其成就セル一分宛注文者ヲシテ仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ラシムルコトヲ合意スルヲ得ヘシ然レモ是レ主トシテ第二項ニ規定セル危險ノ責ニ關スル爲メナレハ此合意ヲ爲シ得ルハ注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ限ルモノトス何トナレハ請負人自カラ材料ヲ供セシトキハ則チ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナルヲ以テ縱令一分宛ノ引渡ヲ爲シタルニモモヨ其仕事ノ全部完成スルニ非サレハ條件ノ成就スルコトナキヲ以テ契約ハ成

立セス從テ危險ノ責ニ關シ請負人ノ利益タル可キコトナクレハナリ抑、此注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ右ノ合意ニ因リ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコトノ遲滯ニ在ルトキハ縱令未タ現ニ之ヲ受取ラサルモ是レ其過失ニシテ法律上既ニ之ヲ受取リシモノト同視ス可キニ因リ此二個ノ場合ノ如キ其既成ノ仕事ニ付テハ請負人ハ既ニ其責任ヲ免レシモノト爲リ其危險ハ注文者ノ負擔タルモノトス例ヘハ或ル器具百個ヲ作ル場合ニ於テ十個宛注文者カ調査シ且受取ル可キコトヲ合意シ而シテ漸次成就シテ五十個ニ及ヒ注文者既ニ調査シテ之ヲ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコトノ遲滯ニ在ルトキハ其五十個ニ付キ縱令滅失等ノ事アルモ請負人ハ之ニ關セスシテ皆テ注文者ノ負擔タル可シ

(二二九) 然レモ前金又ハ内金ハ前記ノ如ク既成ノ仕事ヲ受取リタル

徴憑トス可キモノニ非ス即チ仕事中ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタルト看做ス可カラス蓋シ仕事ハ未ダ毫モ成就セスト雖モ亦ダ多少ノ前金ヲ與フルコトアリ又既ニ若干成就スルニ及ヒ其成就ノ部分ニ關セスシテ多少ノ内金ヲ與フルコトアリ即チ前金又ハ内金ハ必スシモ既成ノ仕事ヲ受取リシカ爲メニ之ニ應スル代價ヲ支拂ヒシモノト云フヲ得ス故ニ請負人ハ此前金又ハ内金ノ授受アリシコトヲ理由トシテ前項ニ依リ其金額ニ應スル既成ノ仕事アリテ此カ危険ノ責ヲ免レタリト主張スルコトヲ得サルナリ

然レモ既ニ此授受アリシ場合ニ於テ物カ注文者ノ明白ナル受取アルカ又ハ其付遲滞ノ以前ニ滅失シタルキハ之ヲ其既成ノ仕事ニ對スル辨濟ト看做シ注文者ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス唯ダ其金額カ既成ノ仕

事ニ對スル價額ヲ超ユル場合ニ限リ其超過額ノミ取戻スコトヲ得ルニ止マルモノトス是レ實際ノ情誼ニ適合シ以テ請負人ヲ保護センカ爲メナリ

第二百七十八條 注文者カ異議ヲ留メスシテ工作物

ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隱レタル瑕疵ヲ發見スルトキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スル權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル動産又ハ不動産ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ三ヶ月ニテ消滅ス

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第九十九

條ノ規定ヲ適用ス

〔義解〕(二三〇) 本條ハ工作物ノ瑕疵ニ關スル注文者ノ權利ヲ規定シタルモノナリ

注文者カ工作物ヲ受取ルニハ先ツ其物ヲ調査シ而シテ瑕疵アレハ異議ヲ唱ヘ若クハ之ヲ留保シテ受取ルヲ要ス然ルニ何等ノ異議ヲモ留メスシテ之ヲ受取リタルトキハ全ク瑕疵ナキモノト看做シ後日ニ至リテ異議ヲ唱フルコトヲ許サス然レトモ是レ外見ノ瑕疵ニ付テ爾カ云フノミ不外見即チ隠レタル瑕疵ニ至リテハ一見之ヲ調査スルモ得テ發見ス可キニ非サルヲ以テ若シ此瑕疵アリ且瑕疵カ其物ノ使用ニ不適當ナルマテ重大ナルトキハ後日ニ至リテ異議ヲ唱フルコトヲ許サ、ルヲ得ス故ニ此場合ハ注文者カ其當初ノ受取ヲ取消シテ代價ノ減殺ヲ請求シ又ハ代價ノ一分ノ返還ヲ請求スルヲ得ヘキナリ

然リ而シテ此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル材料ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ其動産ナルト不動産ナルトニ關セス總テ三个月ノ期間ニテ消滅スルモノトス而シテ其期間ノ起算點ハ全部ノ工作物ヲ受取リタル時ヲ以テシ之ヲ發見シタル時又ハ其一分ヲ受取リタル時ヲ以テセサルナリ

又右ニ反シテ其材料ハ職工ヨリ供シタルモノナルキハ其契約タル既ニ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買即チ一種ノ賣買ナルニ因リ普通賣買ノ規定ニ基キ第九十九條ヲ適用シテ不動産ニ付テハ六個月動産ニ付テハ三個月トシ其他總テ該條ノ規定ニ從フ可キモノトス

第二百七十九條 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタルトキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全

部若クハ一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ス
但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地
ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トヲ區別セス
右責任ハ左ノ時期ノ間繼續ス

- 第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二個年
- 第二 木造ノ建物ニ付テハ三个年
- 第三 石又ハ煉瓦ノ建物及土藏ニ付テハ十个年

〔義解〕(二三一) 本條ハ地上ニ於ケル工作物即チ不動産ノ性質ヲ帶フ
ル工作物ニ關スル請負人ノ責任ヲ定メタルモノナリ

建物牆壁其他此種ノ地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ヒテ修繕ヲ爲
シ又ハ新築スル等總テ此カ築造ヲ爲シタルモハ請負人ハ其工作物ノ
滅失又ハ損壞ニ付テ責ニ任ス可キハ勿論ナリト雖モ此場合ハ前條ノ

如ク當ニ隱レタル瑕疵ノミナラス總テ其築造ノ瑕疵ヨリ生シタル滅
失又ハ損壞ノ責ニ任ス可ク且地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル滅失又ハ損壞
ニ付テモ亦タ其責ニ任セサル可カラス何トナレハ地上ニ工作ヲ爲ス
者ハ其地盤ニ瑕疵ノ存スルヤ否ヤヲ調査シ若シ瑕疵ノ存スルアレハ
之ヲ改修セサル可カラサルモノナレハナリ

然ラハ則チ此責任タル其土地カ注文者ノ所有ナルモ請負人ノ所有ナ
ルモ又他ヨリ借入レシモノナルモ爲メニ異同ヲ生スルコトナシ而シテ
其築造ノ材料カ請負人ノ供シタルモノナルト注文者ノ供シタルモノ
ナルトモ亦タ責任ニ異同ヲ生スルコトナシ

滅失ハ工作物ノ全部ノ滅失ハ勿論其一分ノ滅失ニ付テモ亦タ其責ニ
任ス可シ然レモ損壞ニ至リテハ其重大ナルコトヲ必要トス即チ區々
ル些少ノ損壞ハ必スシモ此責ヲ生セス特ニ其重大ナル場合ニ限ルモ